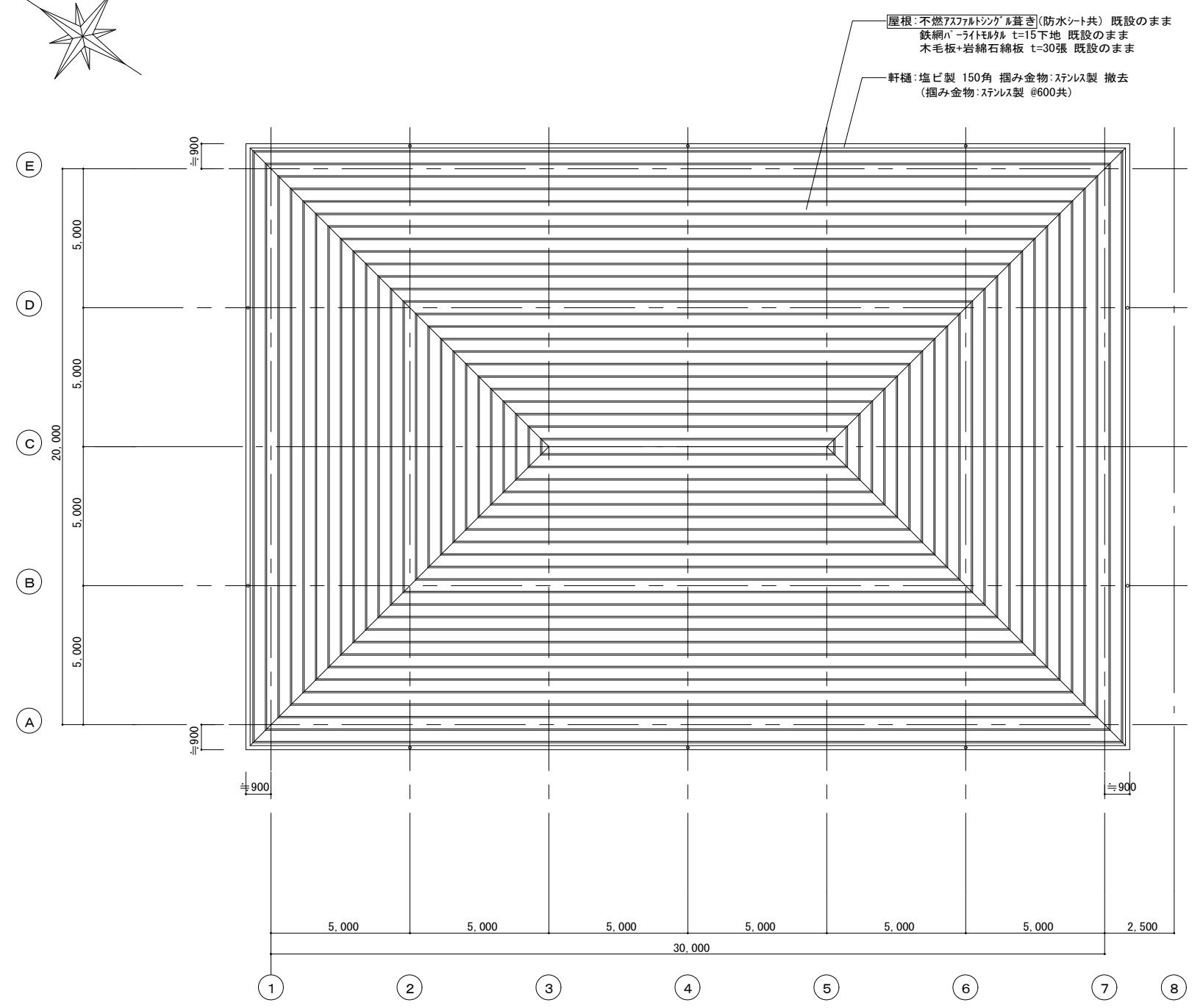
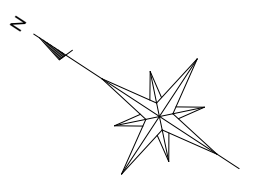


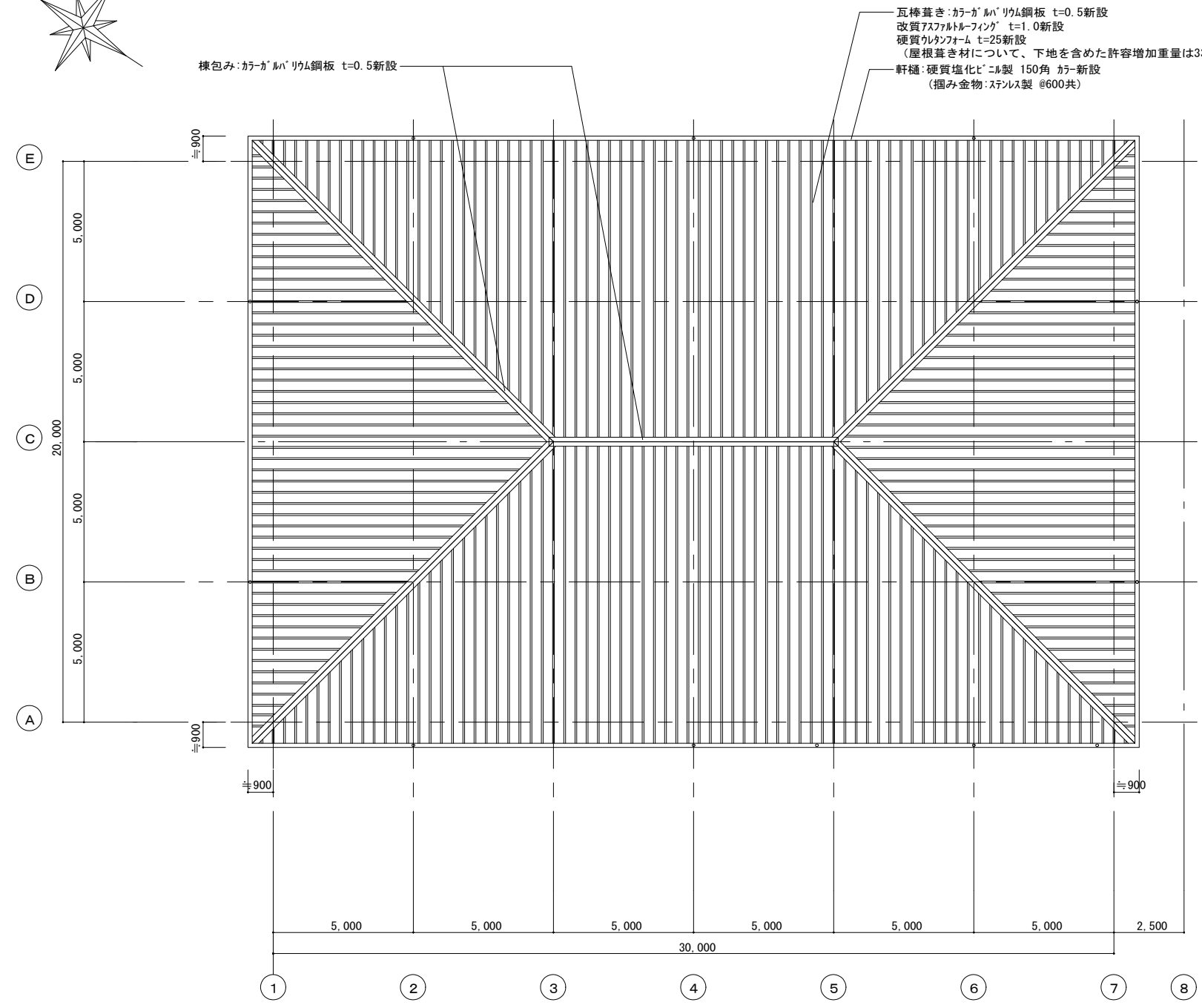
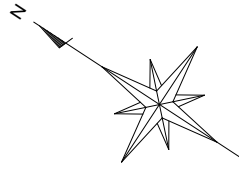
○特記事項  
 ※外部仕上凡例の□は7ｽﾍﾞｽﾄ含有建材を示す。



格技場 屋根伏図 (改修前) 1/100

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名	安祥中学校校舎改修第2期主体工事	図面番号	K-03
図面名	格技場 屋根伏図 (改修前)	縮尺	1/100
日付	株式会社・ 畑中建築事務所	設計	富成 篤也
	一級建築士事務所 愛知県 (L-4) 2327号		一級建築士登録第204451号



格技場 屋根伏図 (改修後) 1/100

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

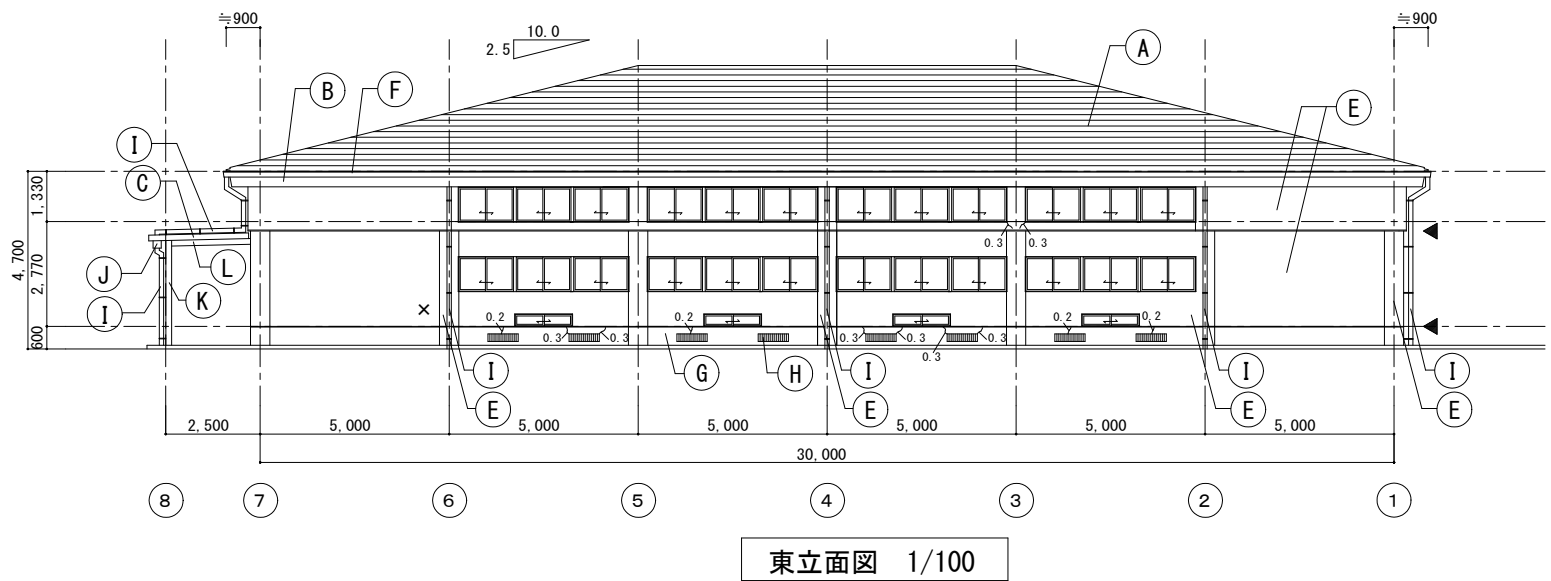
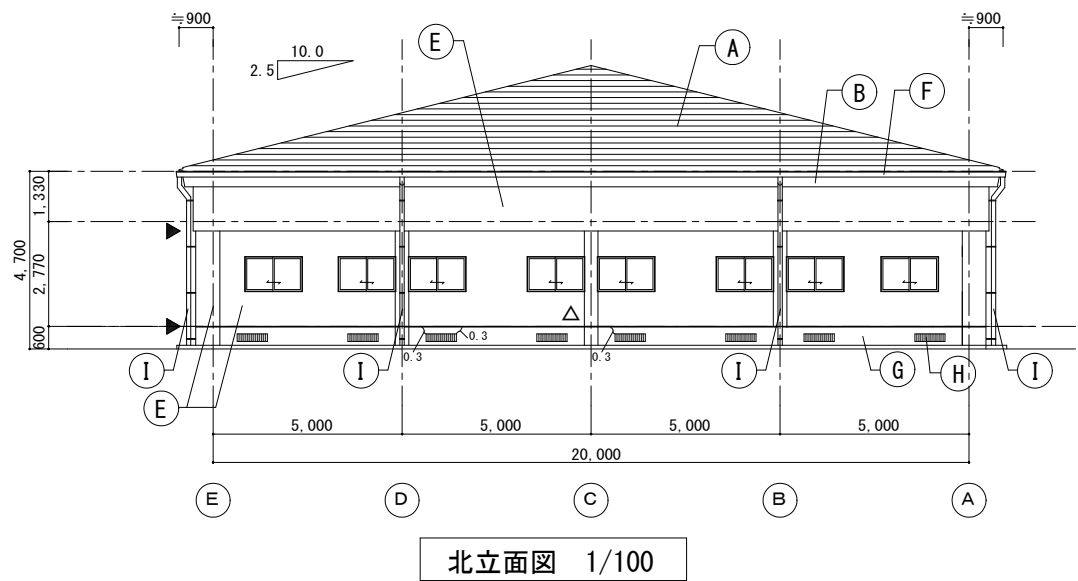
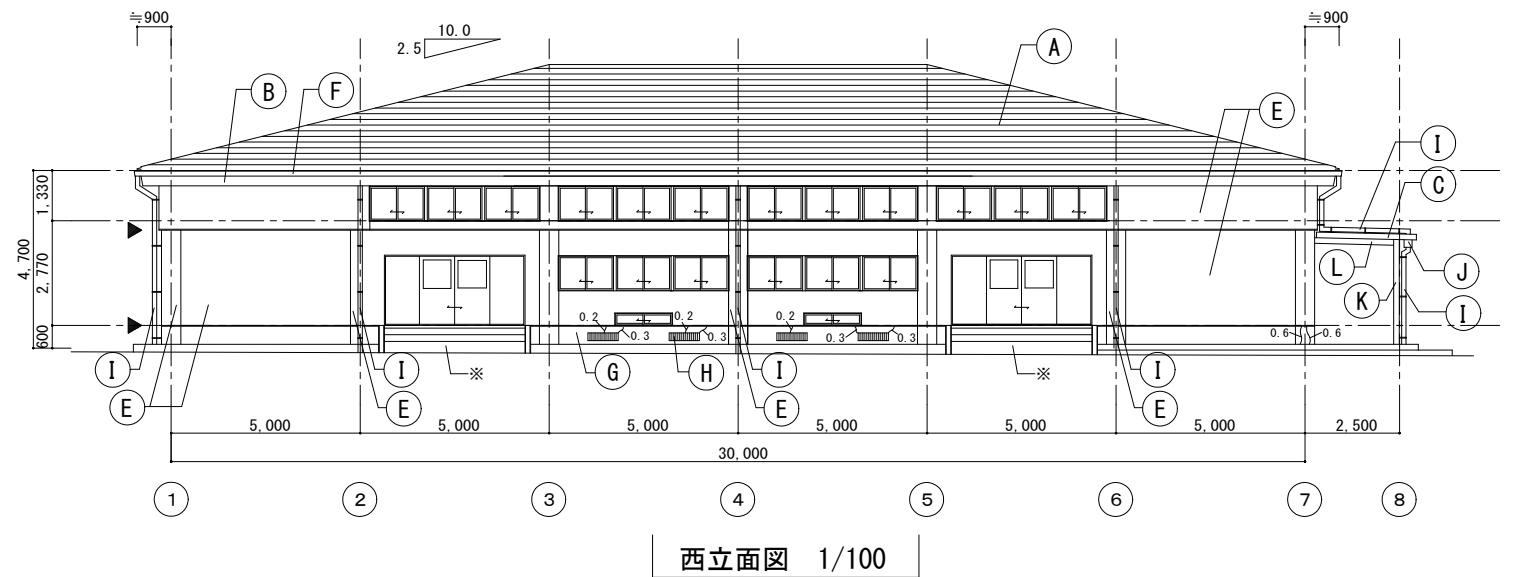
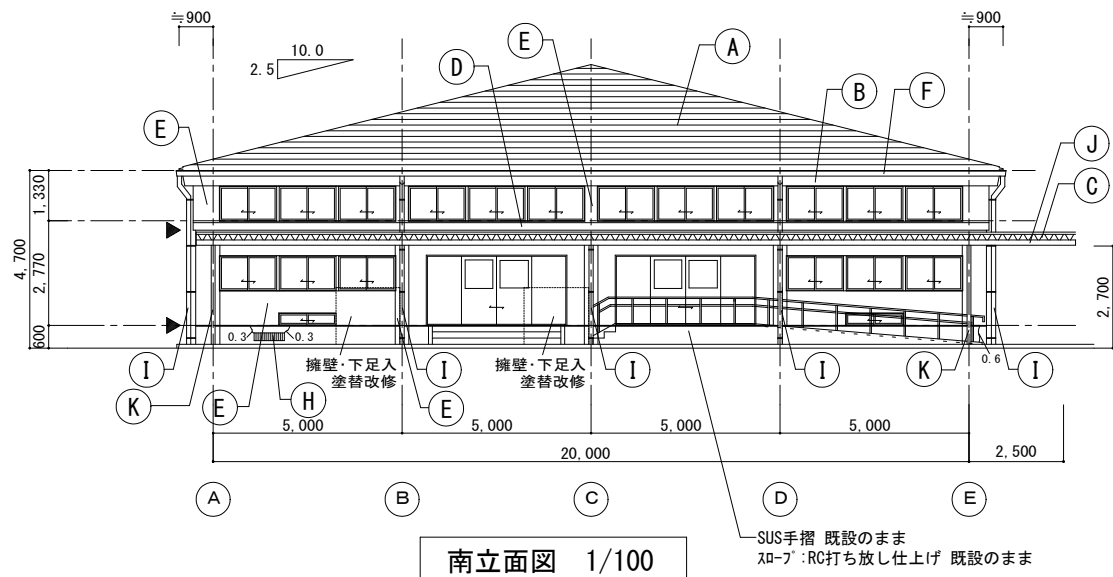
工事名	安祥中学校校舎改修第2期主体工事	図面番号	K-04
図面名	格技場 屋根伏図 (改修後)	縮尺	1/100
日付	株式会社 畑中建築事務所	設計	富成 篤也
	一級建築士事務所 愛知県 (L-4) 2327号		一級建築士登録第204451号

○特記事項  
 ※建具のガラスシリング SR-1 5×5は打ち替えとする。  
 ※建具周囲シリング MS-2 20×10は打ち替えとする。  
 ※立面図の ▲ は外壁シリング MS-2 20×10打ち替え部分を示す。  
 ※外部仕上凡例の □ はアスベスト含有建材を示す。

外部仕上 凡例		
符号	改修前	改修後
(A)	屋根:不燃アスファルトシingle葺き	瓦葺葺き:カーカールバリア鋼板 t=0.5新設
(B)	軒先包み:塩ビ鋼板バネ t=0.8加工	下地調整RB種・錆止めの上、DP(7素)塗替
(C)	折版 t=0.6葺き(片面加工)	下地調整RB種・錆止めの上、DP(7素)塗替
(D)	水切り:カー鉄板 t=0.6 H=200	下地調整RB種・錆止めの上、DP(7素)塗替
(E)	不燃サイディング t=12 吹付タイル	高圧洗浄(30Mpa程度)、下地調整材C-1の上 可とう形改修塗材E吹付(リコントップコート)
(F)	軒樋:塩ビ製 150角(前高) 摺り金物:ステン製 撤去	軒樋:塩ビ製 150角(前高) カー新設 (摺り金物:ステン製 @600共)
(G)	外部巾木:モルタル金ゴテ	水洗い(15Mpa程度) 劣化部補修
(H)	床下換気口 200×800 OP	下地調整RB種・錆止めの上、DP(7素)塗替
(I)	縦樋:塩ビ製 100φ 摺り金物:ステン製 撤去	縦樋:塩ビ製 100φ カー新設 (摺り金物:ステン製 @1000共)
(J)	軒樋:塩ビ製 150角 摺り金物:ステン製 撤去	軒樋:塩ビ製 150角 カー新設 (摺り金物:ステン製 @600共)
(K)	柱:□-100×100 SOP	下地調整RB種・錆止めの上、DP(7素)塗替
(L)	梁:H-150×75×4.5 SOP	下地調整RB種・錆止めの上、DP(7素)塗替

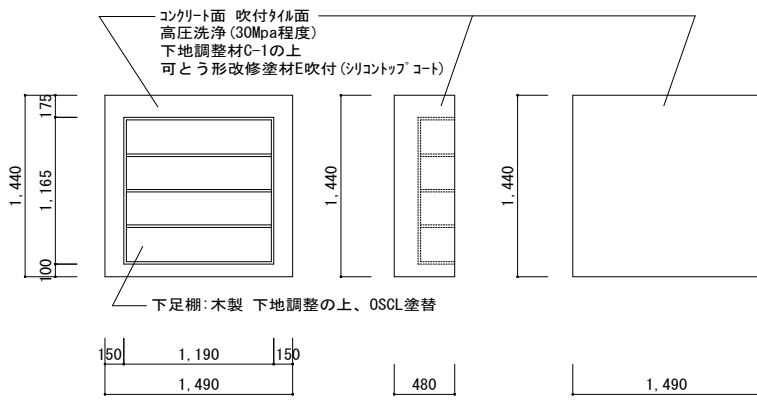
劣化部凡例

- 〜 クラック  
0.2mm≦幅≦1mm 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
- × 留めボルト欠損箇所 ビス止め
- △ サイディング固定不良箇所 ビス止め

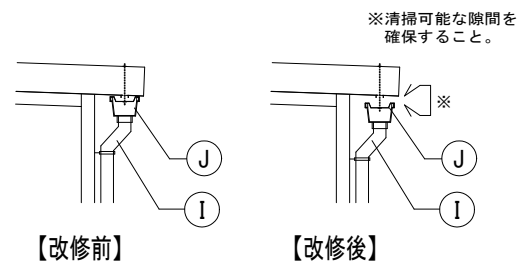


縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名	安祥中学校校舎改修第2期主体工事	図面番号	K-05
図面名	格技場 立面図 (改修前)	縮尺	1/100
設計	株式会社 畑中建築事務所	富成 篤也	
日付	一級建築士事務所 愛知県 (L-4) 2327号	一級建築士登録番号204451号	



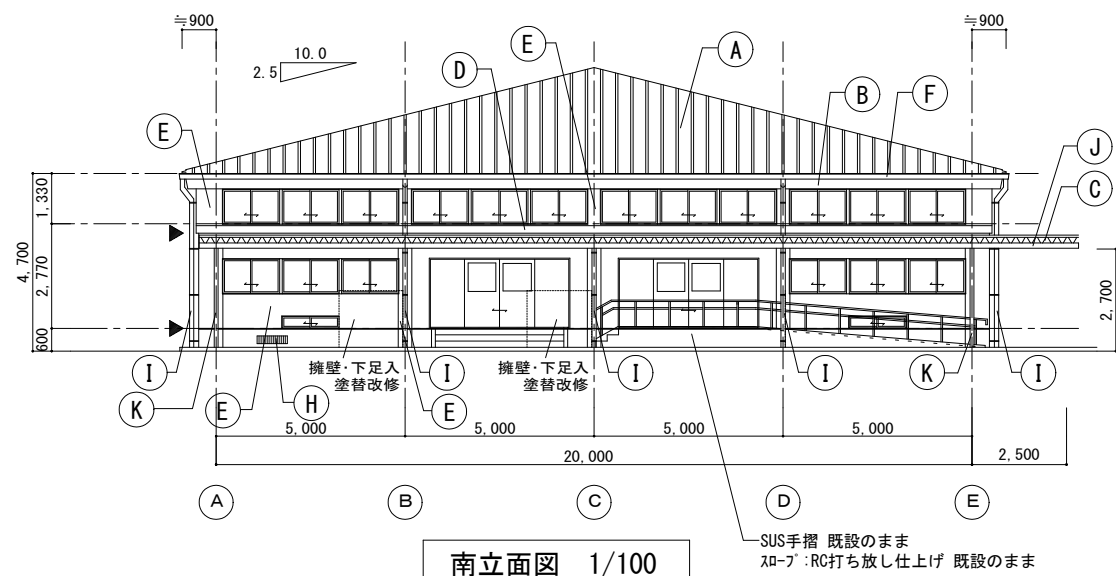
擁壁・下足入詳細図 1/30



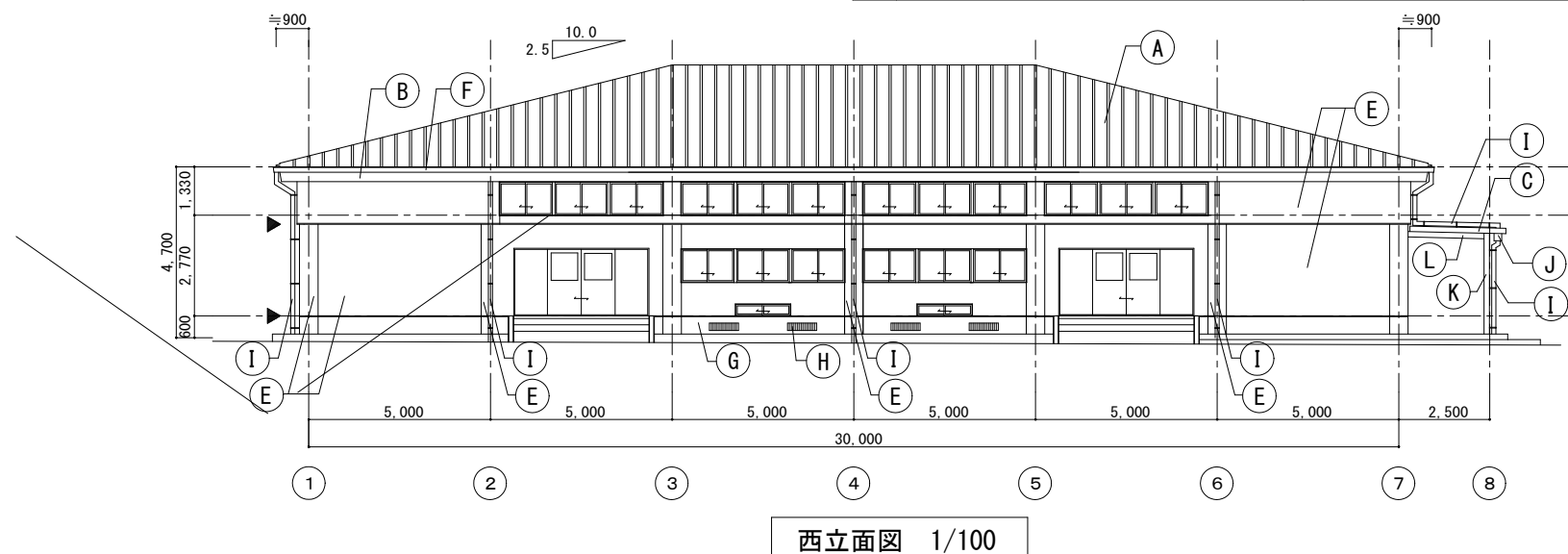
軒樋撤去・新設詳細図 1/30

○特記事項  
 ※建具のガラスシリング SR-1 5×5は打ち替えとする。  
 ※建具周囲シリング MS-2 20×10は打ち替えとする。  
 ※立面図の ▲ は外壁シリング MS-2 20×10打ち替え部分を示す。  
 ※外部仕上凡例の □ はアスベスト含有建材を示す。

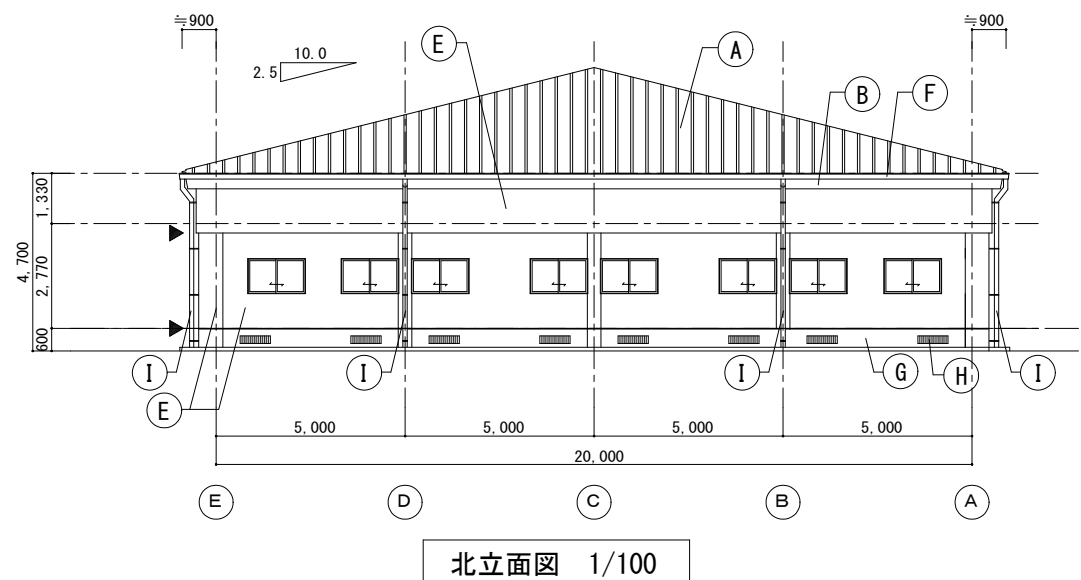
外部仕上 凡例		
符号	改修前	改修後
(A)	屋根:不燃アスファルトシングル葺き	瓦葺葺き:カチカチバ'リウム鋼板 t=0.5新設
(B)	軒先包み:塩ビ鋼板バ'ル t=0.8加工	下地調整RB種・錆止めの上、DP(フッ素)塗替
(C)	折板 t=0.6葺き(片面加工)	下地調整RB種・錆止めの上、DP(フッ素)塗替
(D)	水切り:カチ鉄板 t=0.6 H=200	下地調整RB種・錆止めの上、DP(フッ素)塗替
(E)	不燃サ'イ'ング t=12 吹付タイル	高圧洗浄(30Mpa程度)、下地調整材C-1の上 可とう形改修塗材E吹付(シリコンフ'コート)
(F)	軒樋:塩ビ製 150角(前高) 摺り金物:ステンレス製 撤去	軒樋:塩ビ製 150角(前高) カチ新設 (摺り金物:ステンレス製 @600共)
(G)	外部巾木:モルタル金ゴテ	水洗い(15Mpa程度) 劣化部補修
(H)	床下換気口 200×800 OP	下地調整RB種・錆止めの上、DP(フッ素)塗替
(I)	縦樋:塩ビ製 100φ 摺り金物:ステンレス製 撤去	縦樋:塩ビ製 100φ カチ新設 (摺り金物:ステンレス製 @1000共)
(J)	軒樋:塩ビ製 150角 摺り金物:ステンレス製 撤去	軒樋:塩ビ製 150角 カチ新設 (摺り金物:ステンレス製 @600共)
(K)	柱:□-100×100 SOP	下地調整RB種・錆止めの上、DP(フッ素)塗替
(L)	梁:H-150×75×4.5 SOP	下地調整RB種・錆止めの上、DP(フッ素)塗替



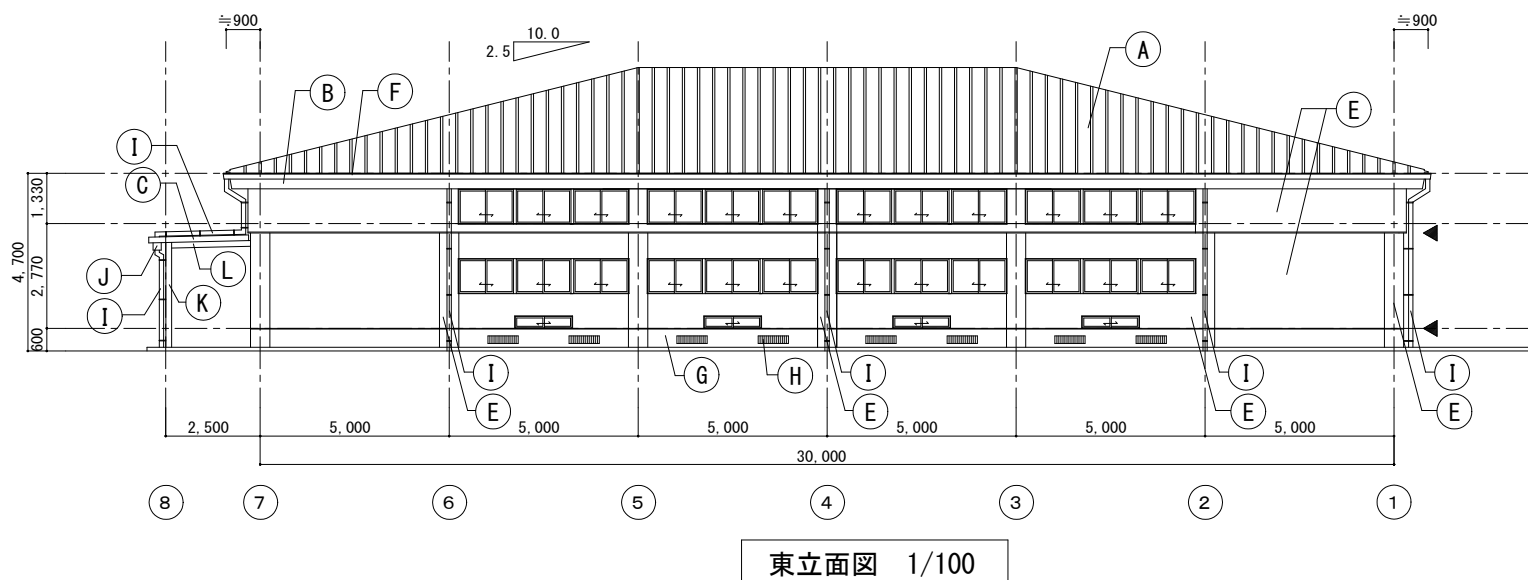
南立面図 1/100



西立面図 1/100



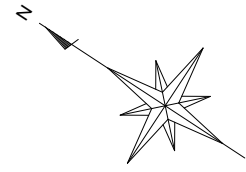
北立面図 1/100



東立面図 1/100

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

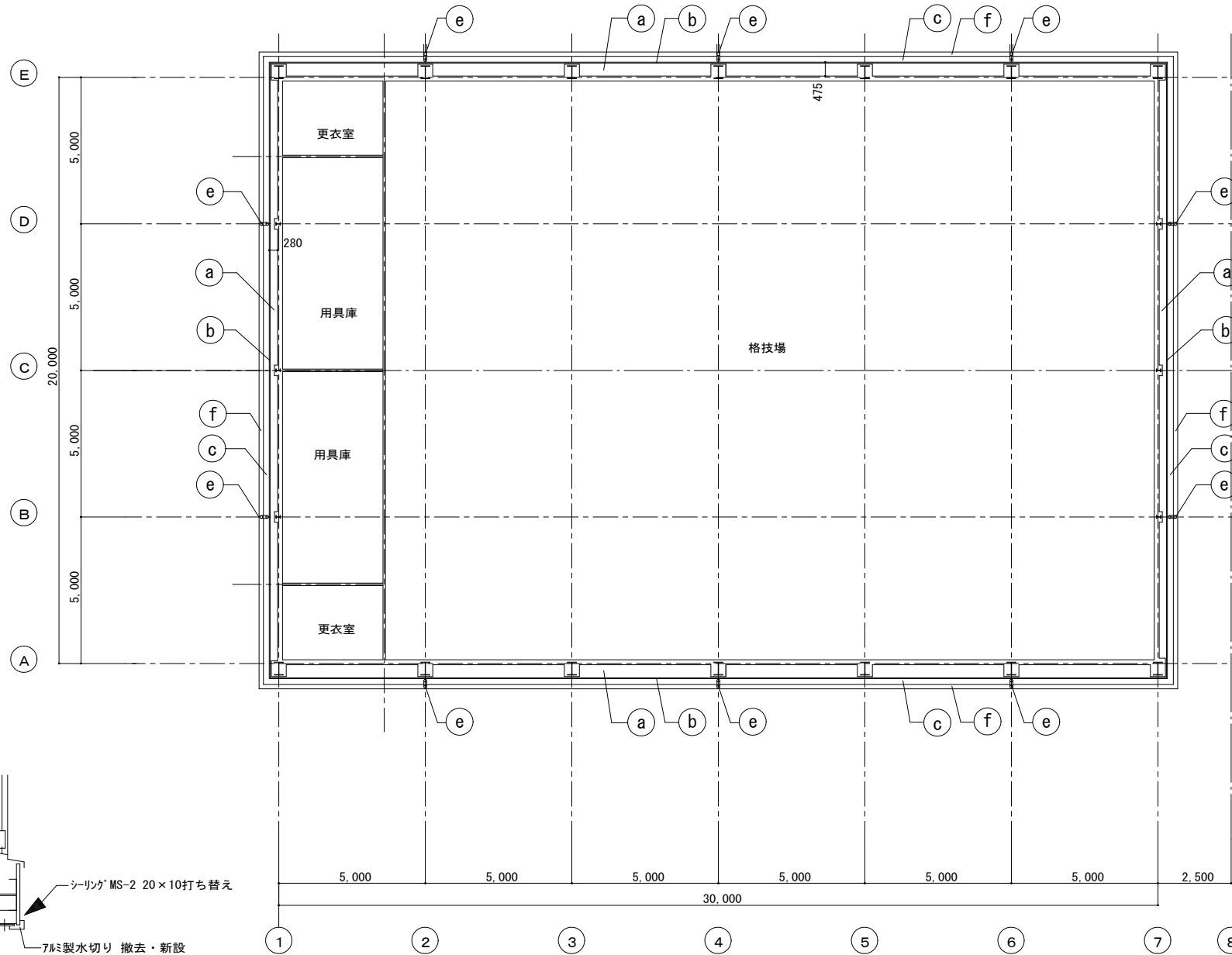
工事名	安祥中学校校舎改修第2期主体工事	図面番号	K-06
図面名	格技場 立面図 (改修後)	縮尺	1/100
設計	株式会社・畑中建築事務所	富成 篤也	
日付	一級建築士事務所 愛知県 (L-4) 2327号	一級建築士登録番号204451号	



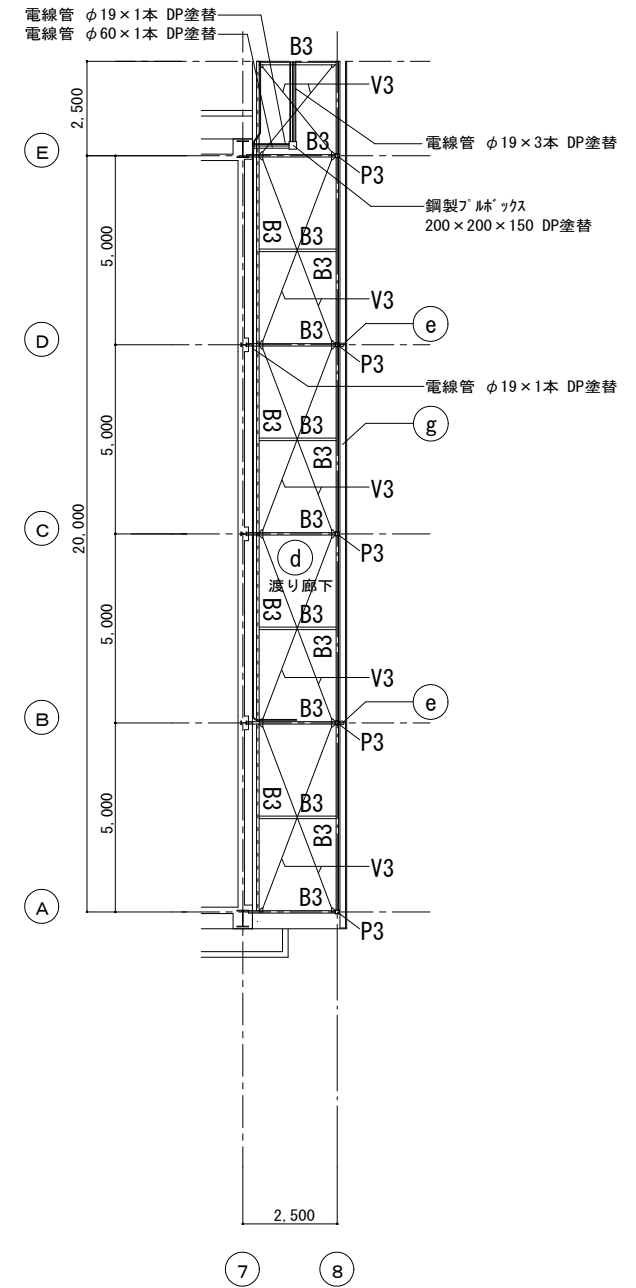
上裏仕上 凡例		
符号	改修前	改修後
a	上裏(天平板 t=5)目透かし VP 撤去	ケイカル板 t=6 EP-G塗 新設
b	7#水切り 仮撤去	7#水切り 復旧
c	軒先包み:塩ビ鋼板ハ 材 t=0.8加工	下地調整RB種・錆止めの上、DP(フッ素)塗替
d	折版葺き裏面	下地調整RB種・錆止めの上、DP(フッ素)塗替
e	縦樋:塩ビ製 100φ 摺り金物:ステンレス製 撤去	縦樋:硬質塩化ビニル製 100φ 新設 (摺り金物:ステンレス製 @1000共)
f	軒樋:塩ビ製 150角(前高) 摺り金物:ステンレス製 撤去	軒樋:塩ビ製 150角(前高) 新設 (摺り金物:ステンレス製 @600共)
g	軒樋:塩ビ製 150角 摺り金物:ステンレス製 撤去	軒樋:塩ビ製 150角 新設 (摺り金物:ステンレス製 @600共)

鉄骨 凡例	
符号	部材
B3	H-150×75×4.5
V3	13φ
P3	□-100×100

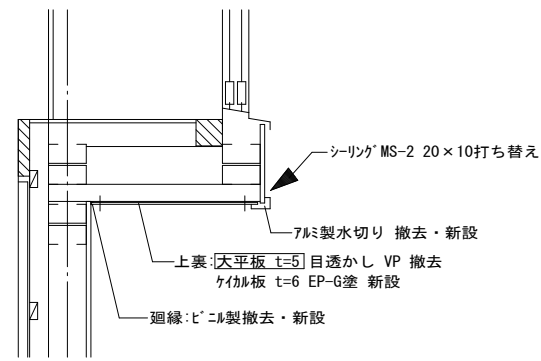
※上記鉄骨部材の見えがかり部分は  
下地調整RB種・錆止めの上  
DP(フッ素)塗替を行うこと。



格技場 天井伏図 1/100



渡り廊下 天井伏図 1/100



符号 a 上裏改修詳細図 1/10

○特記事項  
※□は7#スト含有建材を示す。  
適切に処分すること。

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名	安祥中学校校舎改修第2期主体工事	図面番号	K-07
図面名	格技場 天井伏図	縮尺	1/100
設計	株式会社・畑中建築事務所	富成 篤也	
日付		一般建築士事務所 愛知県 (L-4) 2327号	一般建築士登録第204451号

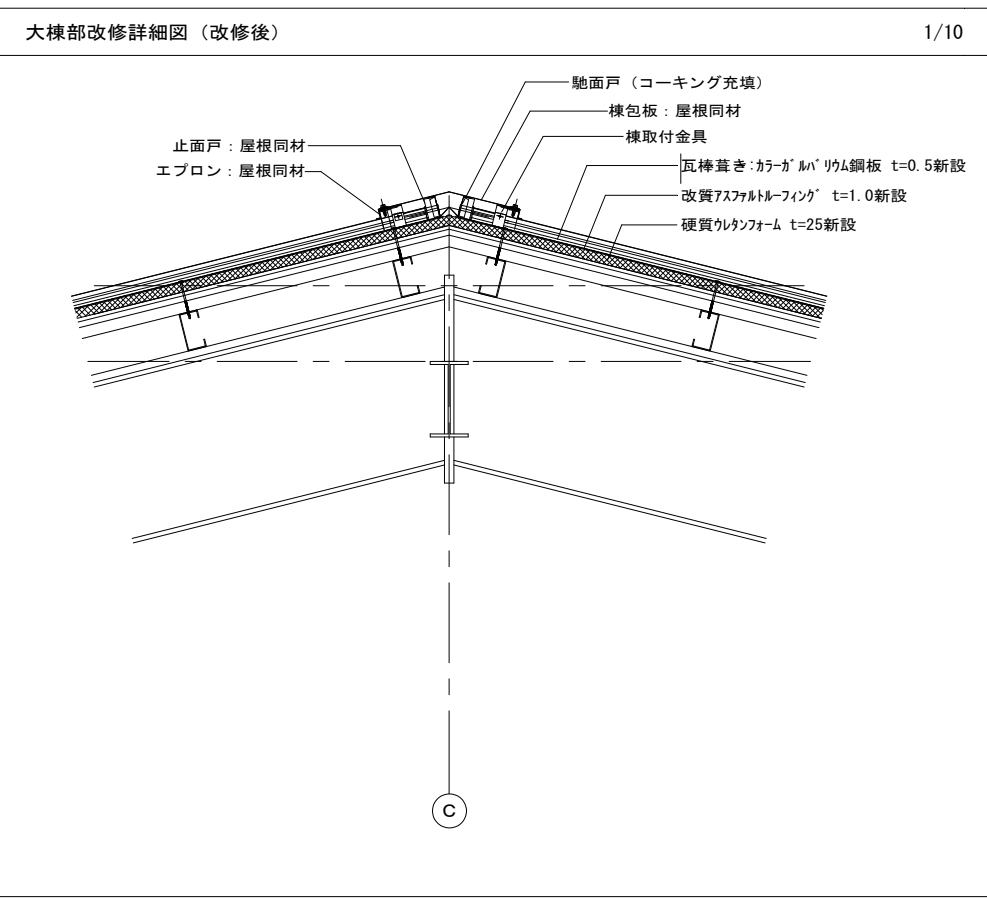
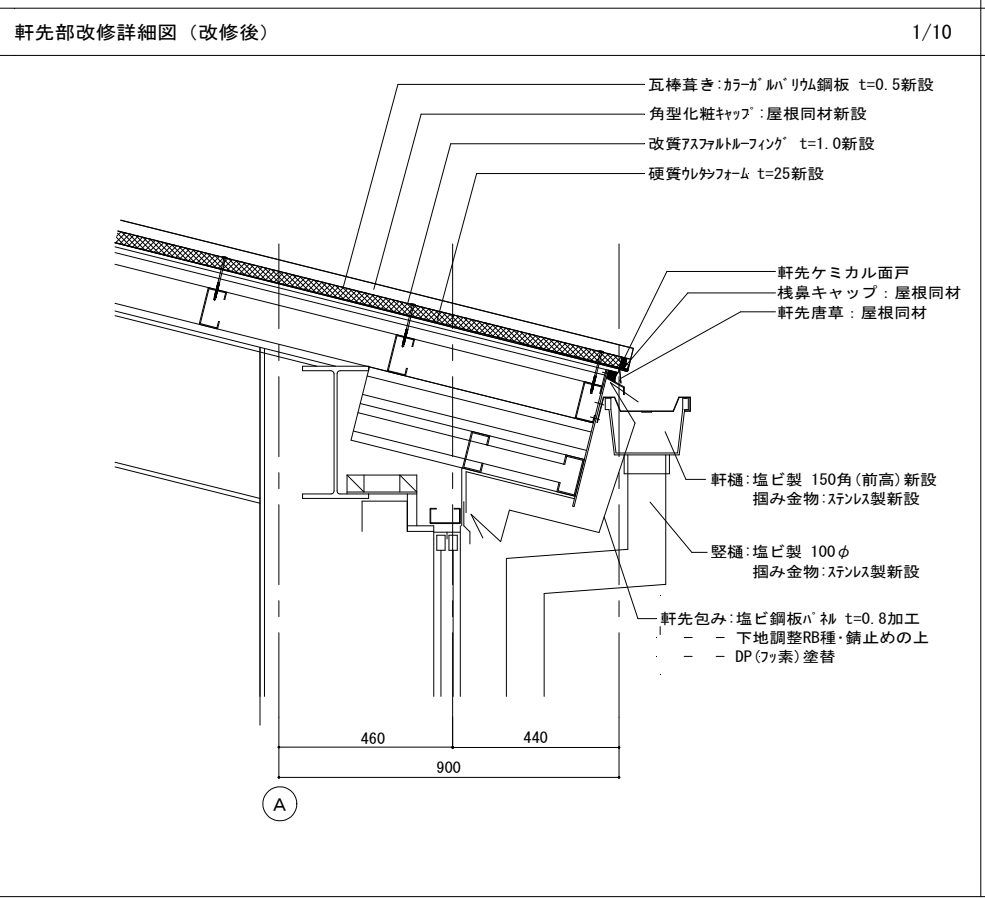
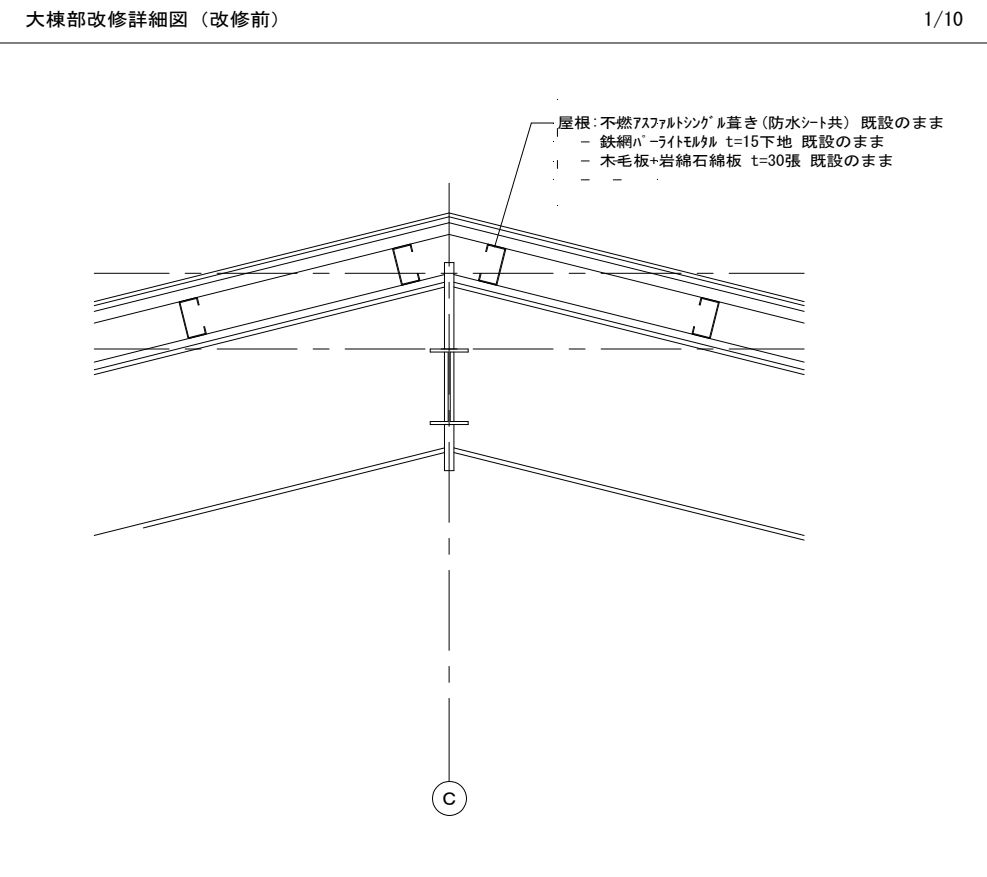
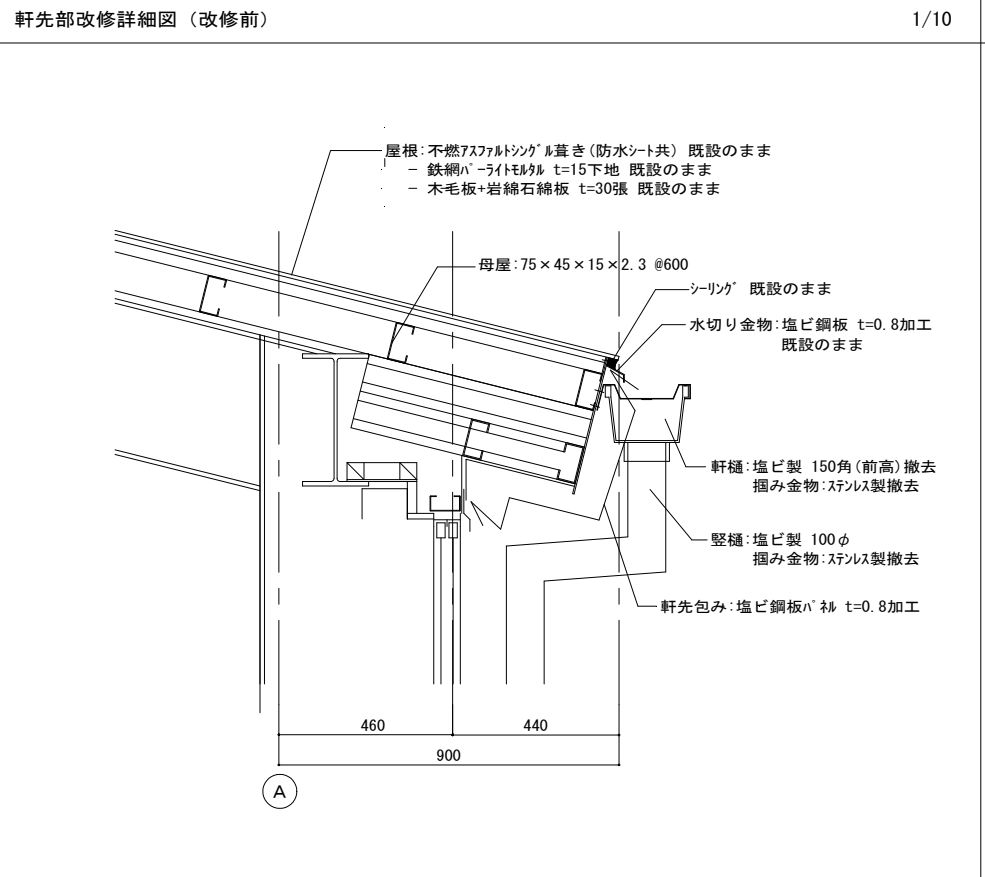
記号・形式	AW1 <sup>K</sup> アルミ製 引違い窓	AW1a <sup>K</sup> アルミ製 引違い窓	AW2 <sup>K</sup> アルミ製 引違い窓	AW2a <sup>K</sup> アルミ製 引違い窓
形状				
場所・数量	格技場、格技場上部	6か所	格技場、格技場上部	14か所
改修内容	建具周囲シリング打替 ｶﾞﾗｽｼｰﾘﾝｸﾞ打替(内部・外部共)	建具周囲シリング打替 ｶﾞﾗｽｼｰﾘﾝｸﾞ打替(内部・外部共)	建具周囲シリング打替 ｶﾞﾗｽｼｰﾘﾝｸﾞ打替(内部・外部共)	建具周囲シリング打替 ｶﾞﾗｽｼｰﾘﾝｸﾞ打替(内部・外部共)
備考	防球格子：取外し・再取付 2か所	防球格子：取外し・再取付 6か所		

記号・形式	AW3 <sup>K</sup> アルミ製 引違い窓	AW4 <sup>K</sup> アルミ製 引違い窓	SD KT1 スチール製 引分け戸	
形状				
場所・数量	更衣室	4か所	用具庫	4か所
改修内容	建具周囲シリング打替 ｶﾞﾗｽｼｰﾘﾝｸﾞ打替(内部・外部共)	建具周囲シリング打替 ｶﾞﾗｽｼｰﾘﾝｸﾞ打替(内部・外部共)	既設のまま	
備考	防球格子：取外し・再取付 4か所	防球格子：取外し・再取付 4か所		

建具符号凡例	
	改修建具を示す。
	改修及び 防球格子：取外し・再取付建具を示す。
	既設のまま建具を示す。

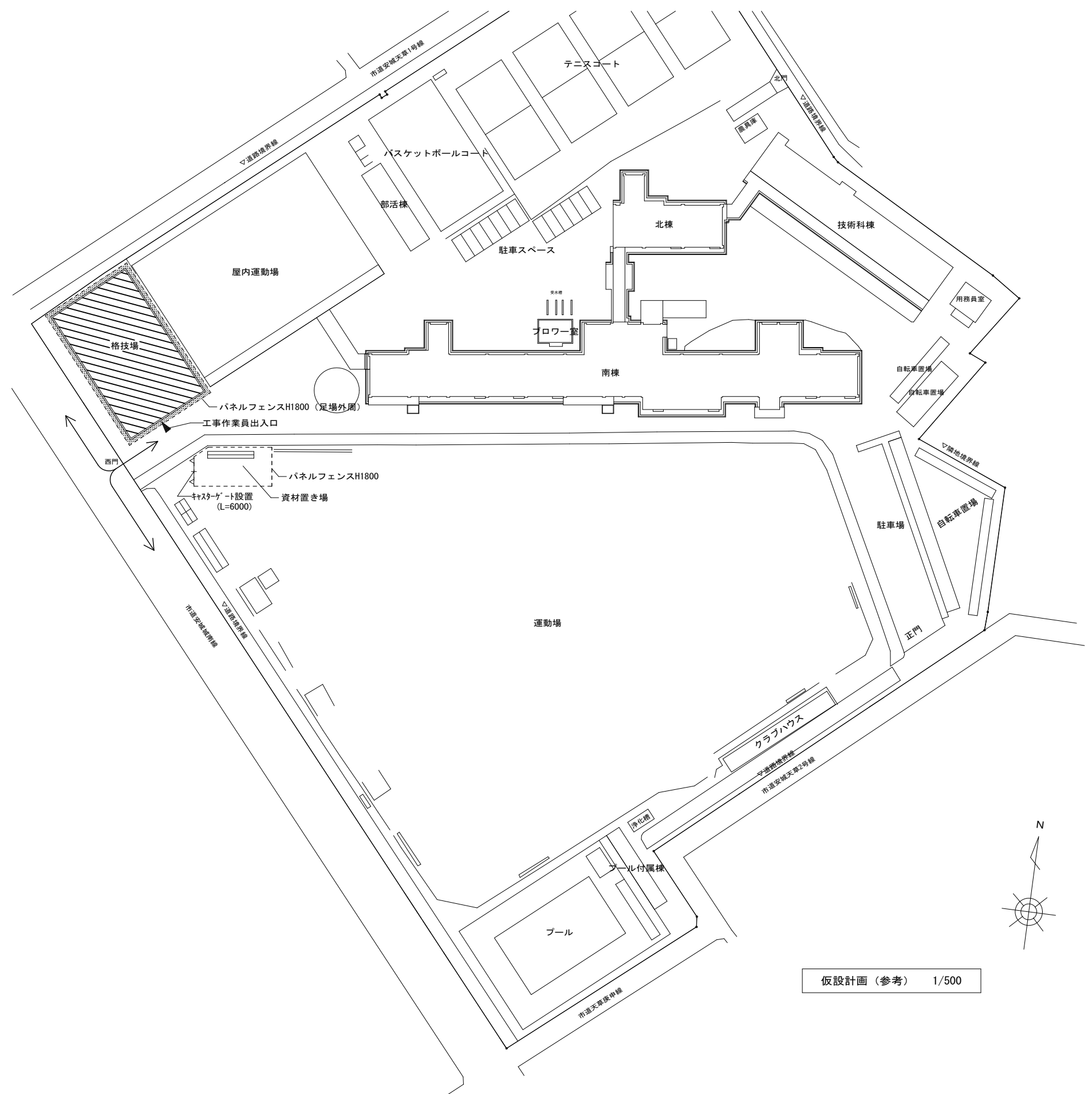
縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)







工事名	安祥中学校校舎改修第2期主体工事		図面番号	K-08
図面名	格技場 建具表	縮尺	1/50	設計
日付	株式会社・ 畑中建築事務所	高成 篤也		
	一級建築士事務所 愛知県 (L-4) 2327号	一級建築士登録第204451号		



縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名	安祥中学校校舎改修第2期主体工事	図面番号	K-09
図面名	格技場 部分詳細図	縮尺	1/10
設計	株式会社・畑中建築事務所	高成 篤也	
日付	一般建築士事務所 愛知県 (L-4) 2327号	一般建築士登録第204451号	



- 凡例
-  工事対象建物を示す
  -  外部足場  
(外周にパネルフェンスを設置)
  -  仮囲いを示す(参考)
  -  工事関係者搬出入経路動線
  -  工事作業員出入口
  -  キャスターゲート(L=6000)を示す

※資材搬出入時は施設管理者と協議の上、時間帯を考慮すること。  
運動場内の資材置き場について、工事車両の駐車は不可とする。

仮設計画(参考) 1/500

縮尺はA1版に適合(A3版→50%縮小)

工事名	安祥中学校校舎改修第2期主体工事		図面番号	K-10
図面名	仮設計画(参考)	縮尺	1/500	設計
日付	株式会社・ 畑中建築事務所	富成 篤也		
	一級建築士事務所 愛知県(L-4) 2327号	一級建築士登録第204451号		





# 構造設計標準仕様 (2)

適用する箇所は  印を記入する。

## (4) 型 枠

材料 合板厚 12mmを標準とする。

型枠存置期間

種類	せき板		支保工			
	基礎、梁側、柱、壁	スラブ・梁下	スラブ下		梁下	
部位	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	左記全てのセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	左記全てのセメント
	混合セメントのA種			混合セメントのA種		
材料に依る場合	15℃以上	2	3	8	17	28
	5℃以上	3	5	12	25	
	0℃以上	5	8	15	28	
圧縮強度に依る場合	5 N/mm <sup>2</sup>		支保工 取外後	Fcの85%以上又は12N/mm <sup>2</sup> 以上、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。		Fcの100%

※1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。

※2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。

※3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

※4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

※5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。

一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。

※6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

## (5) コンクリートブロック

種類  A種  B種  C種  
 100  120  150  190

## 5. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示の無い限り下記による。

日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」  
 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの

製作工場 (R グレード以上の認定工場とする)  
 製作要領書  工作図  施工計画書  
 材料規格証明書または試験成績書  
 社内検査表

(3) 使用材料 JIS 規格品とする。

※詳細は各リストによる

使用箇所	種類			
柱 (C)	角形鋼管	<input checked="" type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> BCP325 <input type="checkbox"/> BCP235		
	H形鋼	<input checked="" type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> SN400B <input type="checkbox"/> SN490B		
	円形鋼管	<input type="checkbox"/> STK400 <input type="checkbox"/> STK490		
	ベースプレート	<input checked="" type="checkbox"/> SN490B <input type="checkbox"/> SS400		
アンカーボルト	<input type="checkbox"/> ABR400 <input checked="" type="checkbox"/> ABR490 <input type="checkbox"/> SS400			
大梁	<input checked="" type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> SN400B <input type="checkbox"/> SN490B			
小梁	<input checked="" type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SM490A			
鋼縁、母屋、窓枠	<input type="checkbox"/> SSC400			
水平ブレース、壁面ブレース	<input type="checkbox"/> SS400			
間柱 (P)	角形鋼管	<input type="checkbox"/> STKR400	H形鋼	<input checked="" type="checkbox"/> SS400
	円形鋼管	<input type="checkbox"/> STK400		
	ベースプレート	<input checked="" type="checkbox"/> SS400	アンカーボルト	<input checked="" type="checkbox"/> SS400
通しダイヤフラム	<input checked="" type="checkbox"/> SN490C		内ダイヤフラム	<input checked="" type="checkbox"/> SN400B <input type="checkbox"/> SN490B

(4) ボルト

高力ボルト  F10T  S10T  F8T (亜鉛メッキ部)  
 中ボルト  SS400  
 スタッドボルト  JIS B1198

(5) 溶接工作

溶接工作は設計図・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」(平成31年版)、日本建築学会編「溶接工作規程・同解説」による。

ガスシールドアーク溶接に使用する溶接ワイヤは YGW-11 または YGW-18 の JIS規格品とし、溶接施工条件は下表による。また、その他のワイヤを使用する場合は監理者の承認を受けること。

鋼材の種類	溶接材料	バス間温度 (°C)	入熱 (KJ/cm)
400N/mm <sup>2</sup> 級	YGW-11	350以下	40以下
	YGW-18		
490N/mm <sup>2</sup> 級	YGW-11	250以下	30以下
	YGW-18	350以下	40以下
520N/mm <sup>2</sup> 級	YGW-18	250以下	30以下

(6) 接合部の検査

溶接部の検査 (検査結果は工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数	
		社内	第三者
<input checked="" type="checkbox"/> 完全溶込み溶接部	超音波探傷試験	100%	15%、 <input type="checkbox"/> (10%)、A00L第6水準4%
<input checked="" type="checkbox"/> 全ての溶接部	外観(目視)検査	100%	15%、 <input type="checkbox"/> (10%)
	マクロ試験・その他	個	個
第三者検査機関名			
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。			

注) 現場溶接部は超音波探傷試験を 100%行う事。

摩擦接合面の処理は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」(平成31年版)による。

高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。締付け後の検査は各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。

(7) 防錆塗装

防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5674、2 回塗りを標準とする。

現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し 2 回塗りとする。

(8) リユース

鉄骨部材には、既存建物や解体現場等で得られた使用部材(リユース部材)を構造設計者の承諾のもと、全部または一部に使用してもよい。  
 品質の確認については日本建築学会「鋼構造環境配慮設計指針(案)」による他、施工手順については日本建築学会「建築部材のリユースマニュアル・同解説」を参照とする。

## 6. 設備関係

特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。

設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。

床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの 1/3 以下とし管の間隔を管径の 3 倍以上かつ 5cm 以上を原則とする。

令129条の2の3の事項

※設計が該当する場合には、□にチェックを記入する。

・建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

建築設備(昇降機を除く)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれのないものとする。

屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。

煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、  
 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とする。

建築物の部分貫通して配管する場合には、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

給湯設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食または腐朽のおそれのないものとする。また、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

材料・工法	認定番号	材料・工法	認定番号
合成スラブ	FP060FL-9095	S10T	MBLT-0052
		F8T	MBLT-0050
BCR295	MSTL-0141、0142、0401	ベースプレート	MSTL-0039、MSTL-0325
BCP325	MSTL-0277、建設省栃住指発第41号	アンカーボルト	MSTL-0003、MBLT-0104

鉄筋コンクリート構造配筋標準図

1 一般事項
記号は下記を適用する。
d: 異形鉄筋の呼び名に用いた数値
φ: 直径
R: 半径
Lo: 部材の内寸法距離
ho: 部材の内法高さ
長さ、厚さの単位は特記なき限りmmとする。

2 鉄筋のかぶり及び間隔
2.1 最小かぶり厚さ
鉄筋の最小かぶり厚さは、表2-1とする。ただし、柱及び梁主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。また設計かぶり厚さは最小かぶり厚さ+10mmとする。

Table 2-1: 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ (単位: mm). Columns: 構造部分の種別, 基本仕様 (耐久性上有効な仕上げ), 土に接しない部分, 土に接する部分.

表2-2 鉄筋のあき
表2-3 鉄筋のあき
表2-4 鉄筋のあき
表2-5 鉄筋のあき

3 鉄筋の加工
鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表3.1及び表3.2を標準とする。

Table 3.1: 鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所 (中間部). Table 3.2: 鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所 (束端部).

Table 4: 鉄筋の継手及び定着
4.1 重ね継手
4.2 ガス圧接継手
4.3 圧接継手
4.4 重ね継手 (下図のいずれかとする)

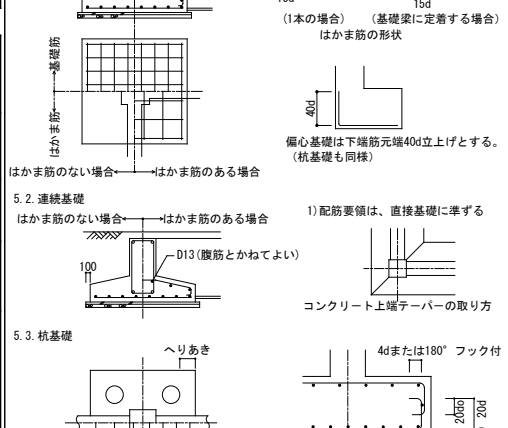
4.5 鉄筋の定着長さ
鉄筋の定着長さは表4-2とする。なお、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さとして、表4-2のフックあり定着長さを確保できない場合は、全長をフックなし定着の長さとし、かつ、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを20d (かつ、梁主筋の柱内定着長さ、厚さの単位は特記なき限りmmとする)。



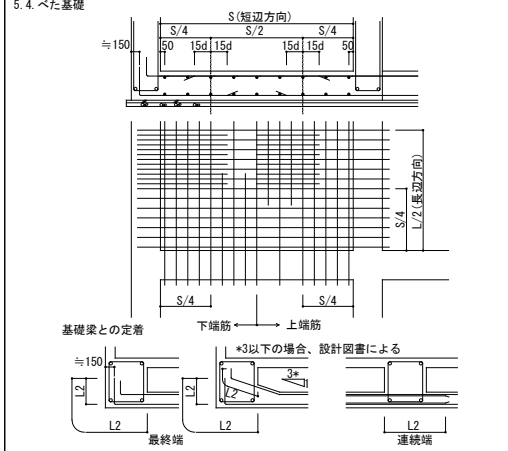
Table 4-2: 鉄筋の定着長さ. Columns: 鉄筋種類, フックなし (L1, L2), フックあり (L3h).

表4-2 鉄筋の定着長さ
※片持ち小梁及び片持ちスラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。

5 基礎及び基礎梁の配筋
5.1 直接基礎
5.2 連続基礎
5.3 杭基礎



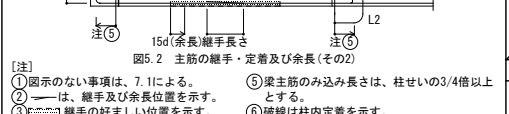
5.4 ベタ基礎
5.5 基礎梁



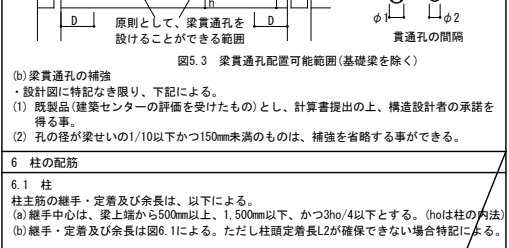
5.5 基礎梁
(a) 独立基礎の基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手・定着及び余長は、図5.11による。



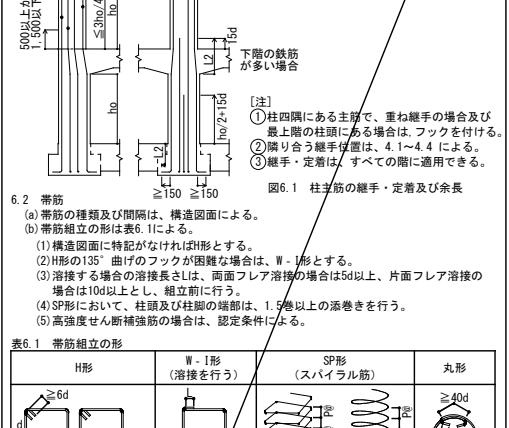
(b) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手・定着及び余長は、図5.21による (耐圧版付の場合)



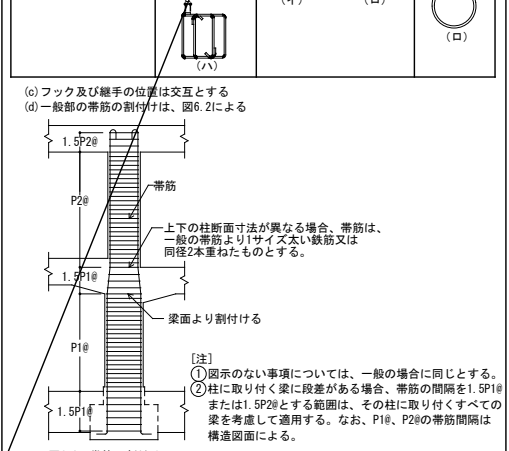
6 柱の配筋
6.1 柱
6.2 帯筋



6.3 柱の継り
6.4 二段筋の保持
6.5 柱の増打補強



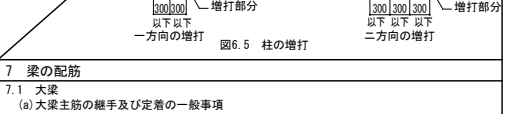
6.6 柱の増打補強
6.7 梁の配筋
6.8 小梁の配筋



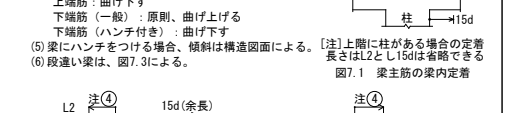
6.3 柱の継り
柱の継りは図6.3による。



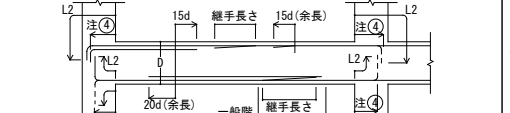
6.4 二段筋の保持
二段筋の保持は図6.4による。



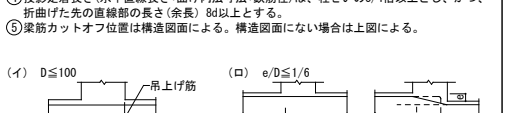
6.5 柱の増打補強
柱の増打補強配筋は図6.5により、増打幅が70mm以上かつ200mm以下の場合に適用する。



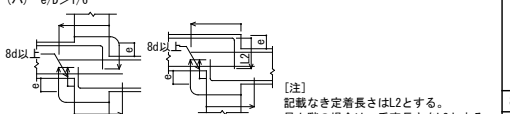
6.6 柱の増打補強
柱の増打補強配筋は図6.6により、増打幅が70mm以上かつ200mm以下の場合に適用する。



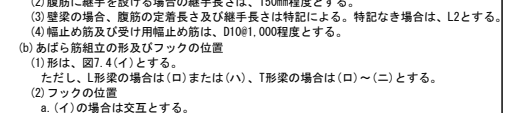
6.7 梁の配筋
6.7.1 大梁
6.7.2 小梁



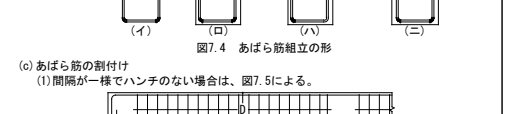
6.8 小梁の配筋
6.8.1 小梁
6.8.2 小梁



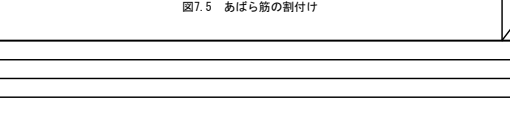
6.9 片持梁
6.9.1 片持梁
6.9.2 片持梁



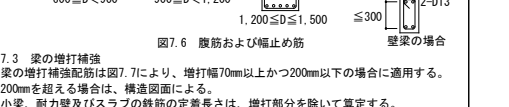
6.10 壁の配筋
6.10.1 土間コンクリート
6.10.2 土間コンクリート



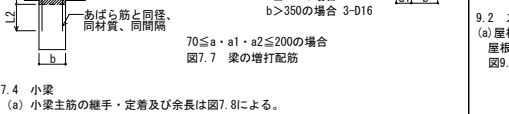
6.11 鉄筋のひび割れ補修
6.11.1 鉄筋のひび割れ補修
6.11.2 鉄筋のひび割れ補修



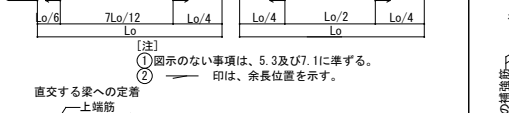
6.12 鉄筋のひび割れ補修
6.12.1 鉄筋のひび割れ補修
6.12.2 鉄筋のひび割れ補修



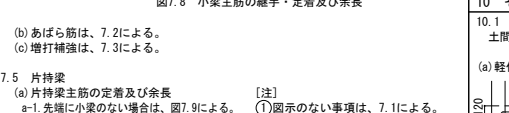
6.13 鉄筋のひび割れ補修
6.13.1 鉄筋のひび割れ補修
6.13.2 鉄筋のひび割れ補修



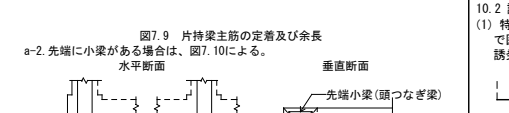
6.14 鉄筋のひび割れ補修
6.14.1 鉄筋のひび割れ補修
6.14.2 鉄筋のひび割れ補修



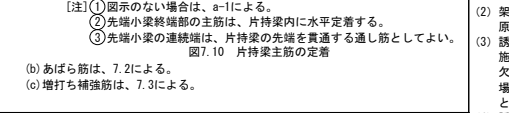
6.15 鉄筋のひび割れ補修
6.15.1 鉄筋のひび割れ補修
6.15.2 鉄筋のひび割れ補修



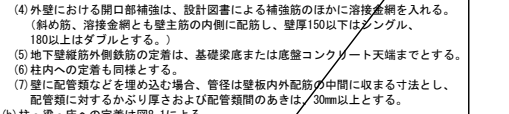
6.16 鉄筋のひび割れ補修
6.16.1 鉄筋のひび割れ補修
6.16.2 鉄筋のひび割れ補修



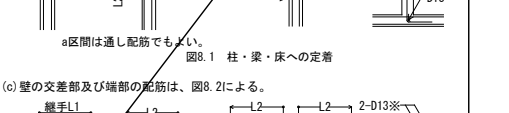
6.17 鉄筋のひび割れ補修
6.17.1 鉄筋のひび割れ補修
6.17.2 鉄筋のひび割れ補修



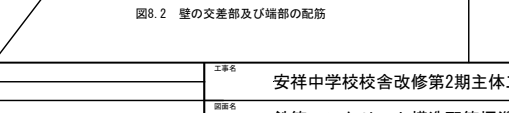
6.18 鉄筋のひび割れ補修
6.18.1 鉄筋のひび割れ補修
6.18.2 鉄筋のひび割れ補修



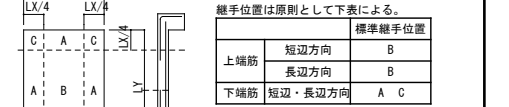
6.19 鉄筋のひび割れ補修
6.19.1 鉄筋のひび割れ補修
6.19.2 鉄筋のひび割れ補修



6.20 鉄筋のひび割れ補修
6.20.1 鉄筋のひび割れ補修
6.20.2 鉄筋のひび割れ補修



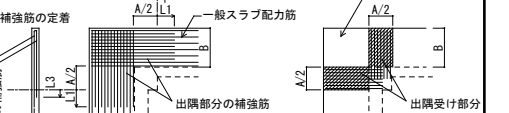
9 スラブの配筋
9.1 スラブ
9.1.1 スラブ



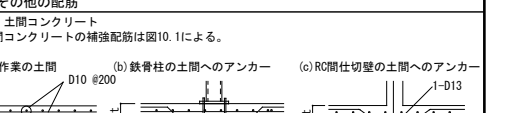
9.2 スラブの補強
9.2.1 スラブの補強
9.2.2 スラブの補強



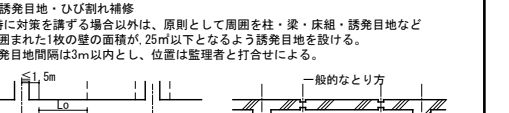
9.3 出隅部
9.3.1 出隅部
9.3.2 出隅部



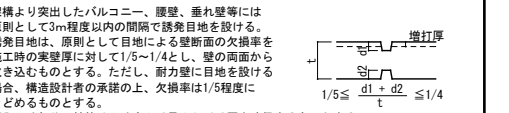
9.4 その他の配筋
9.4.1 土間コンクリート
9.4.2 土間コンクリート



9.5 鉄筋のひび割れ補修
9.5.1 鉄筋のひび割れ補修
9.5.2 鉄筋のひび割れ補修



9.6 鉄筋のひび割れ補修
9.6.1 鉄筋のひび割れ補修
9.6.2 鉄筋のひび割れ補修



9.7 鉄筋のひび割れ補修
9.7.1 鉄筋のひび割れ補修
9.7.2 鉄筋のひび割れ補修



9.8 鉄筋のひび割れ補修
9.8.1 鉄筋のひび割れ補修
9.8.2 鉄筋のひび割れ補修



9.9 鉄筋のひび割れ補修
9.9.1 鉄筋のひび割れ補修
9.9.2 鉄筋のひび割れ補修



# 鉄骨構造工作標準図

## 1. 溶接基準図

1. 突合せ溶接 (全て完全溶込み溶接)

記号	継手形状図			A. アーク手溶接 ノンガスシールドアーク半自動溶接		B. ガスシールドアーク半自動溶接		C. サブマージアーク自動溶接		備考
	突合せ継手	T形継手	かど継手	適用板厚 寸法 (mm)	寸法 (mm)	適用板厚 寸法 (mm)	寸法 (mm)	適用板厚 寸法 (mm)	寸法 (mm)	
				T ≤ 6	G T/2	T ≤ 9	G T/3	T ≤ 12	G 0	裏切り後溶接 f=1
				6 ≤ T ≤ 20	G 0 R 2 α1 ≥ 45° α2 ≥ 60° f 1~2	6 ≤ T ≤ 25	G 0 R 3 α1 ≥ 55° α2 ≥ 60° f 1~2	T ≤ 20	G 0 R 6 α1 60° α2 ≥ 60°	裏切り後溶接 f=1~2 T形継手のとき T/4 ≤ f ≤ 10
				12 ≤ T ≤ 50	G 0 R 2 α1 ≥ 45° α2 ≥ 60°	16 ≤ T ≤ 50	G 0 R 3 α1 ≥ 55° α2 ≥ 60°	19 ≤ T ≤ 50	G 0 R 5 α1 ≥ 60° α2 ≥ 60°	裏切り後溶接 f=1~3 T形継手のとき T/4 ≤ f ≤ 10 D1=2(T-R)/3 D2=(T-R)/3
				16 ≤ T ≤ 50	G 0 R 2 α1 60° α2 60°	16 ≤ T ≤ 50	G 0 R 3 α1 60°~90° α2 60°~90°	19 ≤ T	G 0 R 6~8 α1 60°~90° α2 60°~90°	裏切り後溶接 f=1~3 D1=2(T-R)/3 D2=(T-R)/3
				6 ≤ T < 12 12 ≤ T ≤ 32	G 6 R 2 α1 ≥ 35° α2 ≥ 35° f 1~2	6 ≤ T < 16 16 ≤ T ≤ 32	G 6 R 2 α1 ≥ 35° α2 ≥ 35° f 1~2	9 ≤ T ≤ 50	G 6~10 R 2 α1 ≥ 30°~45° α2 45°のとき 6=6とする	T < 19 f=1~2 T ≥ 19 f=1~3 T形継手のとき T/4 ≤ f ≤ 10

2. 隅肉溶接

記号	形状	寸法 (mm)	備考
		T1 ≤ 14 S T2	原則として 母材板厚が 14mm以下の場合 のみ適用。 隅肉溶接サイズは 特記なき限り 左記寸法による。
		S1 = 0.75T1 S2 = T1 f = (0.15+1.0) 以下	

3. 部分溶込み溶接

記号	形状	寸法 (mm)	備考
		T1 14, 16, 19, 22, 25, 28, 32, 36, 40 R 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 12, 13 S 5, 6, 8, 8, 9, 10, 11, 14, 15	

4. フレアグループ溶接

記号	形状	寸法 (mm)	備考
		a L	a ≥ T L ≥ 5d

5. 大梁ウェブ・GPLの部分溶込み溶接

指示事項

- 突合せ溶接の余盛りは、本基準図により最小余盛りとする。
- 材片の隅角部で終る隅肉溶接は隅角部を連続して、アークを切ることなくまわし溶接を行うこと。
- フラックスタブ・セラミックタブを使用する場合は、監理者と打合せのこと。
- 突合せ溶接の仮付溶接は、必ず裏切り側に施工し、組立て溶接は、溶接の始・終端、隅角部などは避ける。
- 本図に使用するボルトと仮締めボルトの併用はしてはならない。
- T型突合せ溶接の余盛りは、JASS6 管理許容差以下とする。
- 開先加工、寸法の許容差は、日本建築学会「鉄骨精度測定指針」による。
- 冷間成形角形鋼管の溶接については、『冷間成形角形鋼管の取扱いについて』(財)日本建築センターによる。
- 突合せ継手に不具合が生じた場合は、独立行政法人建築研究所監修「突合せ継手の食い違い 仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。
- 設計図中の一般隅柱脚アンカーボルト長は、ベースプレート天端よりフック始端、又は定着板下端までの長さを示す。

## 2. 一般事項

- 材料及び検査
  - 使用材料は構造設計標準仕様による。
  - 本標準図は、鉄骨工事に適用し鋼材の厚さが 40mm 以下のものを対象とする。
  - 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の結果を添付する。
- 工作一般
  - 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
  - 鋼管部材の分岐継手部の粗貫切筋は、鋼管自動切断機による。
  - 高強度鋼の歪み補正は、冷間矯正とする。
- 高力ボルト接合
 

本図に使用するボルトと仮締めボルトの兼用はしてはならない。
- 溶接接合
  - 溶接技能者
 

溶接技能者は施工する溶接に適用するJIS Z3801 (手溶接) 又はJIS Z3841 (半自動溶接) の溶接技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする。
  - 溶接機器
 

(イ) 交流アーク溶接機 300A~500A	(ロ) アークエアガウジング機 (直流)
(ハ) サブマージアーク溶接機一式	(ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ホ) 溶接電流を測定する電流計	(ヘ) 溶接機乾燥器
  - 溶接方法の略称
 

アーク手溶接 = MC      ガスシールドアーク半自動溶接 = GC  
セルフ (ノンガス) シールドアーク半自動溶接 = NGC      アークエアガウジング = AAG
  - 溶接姿勢
 

下向 F	立向 V	横向 H	上向 O
- 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
  - 仮付位置
 

仮付位置は溶接の始・終端、隅角部など強度上問題となり易い箇所を避ける。
  - 仮付不良
 

仮付不良	良	仮付不良	良
  - 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏切り側に施工する。
 

仮付溶接	開先面
- 溶接施工
  - エンドタブ
    - 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部には母材と同厚で同形状のエンドタブを取り付ける。
    - エンドタブの材質は母材と同質とする。
    - エンドタブの長さは、MC: 35mm以上、NGC・GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断してグラインダー仕上げとする。
    - プレス鋼板タブ・円形タブの使用については、資料を提出して監理者の承認を得る。
  - 裏あて金
 

材質は母材と同質とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする。
  - スカラップ半径は30~35mmと10mmの改良型スカラップとする。ただし梁成が0~150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする。
 

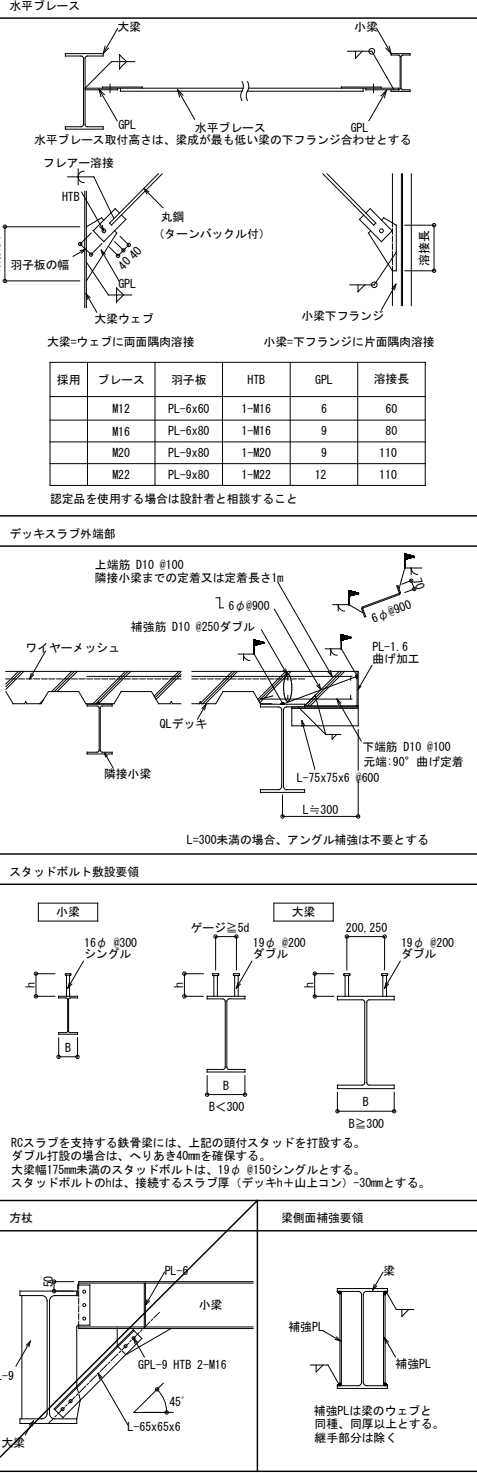
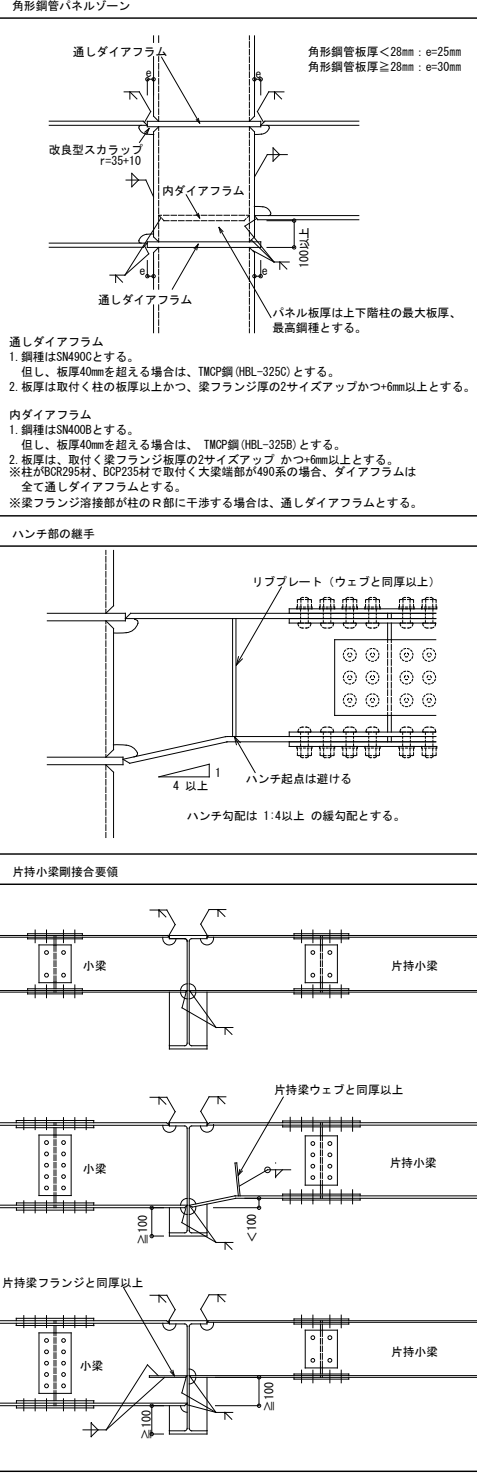
r=10	r=35
  - ノンスカラップ工法
 

	G: ルート間隔 θ: 開先角度
  - 裏切り
 

溶接基準図においてAAGと記載のある部分は、全て溶接管理者の確認を受けて部材に確認マークを付ける。
  - 現場溶接の開先面には溶接に支障のない防錆材を塗布する。また、開先部を傷めないように養生を行う。
  - 塗装
 

コンクリートに埋込まれる部分は塗装をしない。

## 3. 鉄骨加工要領



# QL デッキ合成スラブ設計・施工標準 耐火仕様① JFE 建材 株式会社

## 合成スラブ工業会仕様

QL デッキ合成スラブリ設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・解説」 「鉄骨工技術指針」 「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工標準 2018」、合成スラブ工業会「合成スラブリ設計・施工マニュアル」、QL デッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

【耐火認定FP60FL-9095, 9101, FP120FL-9107, 9113用】

### 設 計

材料/デッキプレート [ISO 9001認証取得]

デッキプレート種類	板厚(mm)	表面処理
<input checked="" type="checkbox"/> QL99-50 <input type="checkbox"/> QL99-75	端部加工 <input type="checkbox"/> 凸部あり <input checked="" type="checkbox"/> 無し	<input type="checkbox"/> 表面防錆処理(一次塗装) QLプライマー(P) <sup>*</sup> <input type="checkbox"/> 垂れ始めつき [QY12 QY27] <input type="checkbox"/> JFEエポキシ(高耐食溶融めっき鋼板) [OY18 OY27] <input type="checkbox"/> その他( ) 無し
材 質	JIS G 3352に定めるSDP1T、SDP2、SDP2G	

材料/コンクリート

種 類	<input checked="" type="checkbox"/> 普通コンクリート	<input type="checkbox"/> 軽量コンクリート [ <input type="checkbox"/> 1種 <input type="checkbox"/> 2種 ]
設計基準強度	<input type="checkbox"/> 18 <input checked="" type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 24 ( ) N/mm <sup>2</sup>	
厚さ(QLデッキ山)	<input type="checkbox"/> 60 <input type="checkbox"/> 70 <input checked="" type="checkbox"/> 80 <input type="checkbox"/> 85 <input type="checkbox"/> 90 <input type="checkbox"/> 95 <input type="checkbox"/> 100 ( ) mm	

材料/溶接金網・異形鉄筋

<input checked="" type="checkbox"/> 溶接金網	JIS G 3551	<input type="checkbox"/> φ6-75×75 <input checked="" type="checkbox"/> φ6-150×150
<input type="checkbox"/> 異形鉄筋	JIS G 3112, 3117	<input type="checkbox"/> D10-150×150 <input type="checkbox"/> D10-200×200 ( )
<input type="checkbox"/> 耐火補強筋	JIS G 3112, 3117	D13-φ300

接 合

梁との接合	<input type="checkbox"/> 頭付きスタッド	JIS B 1198 φ13 φ16 φ19 φ22 (各長さ・ピッチは特記による <sup>*)</sup> )
	<input checked="" type="checkbox"/> 焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
	<input type="checkbox"/> 打込み板	接合箇所は特記による
	<input type="checkbox"/> その他	( )

<sup>\*</sup> 最小長さはデッキ高さ+30mm以上とする

耐 火

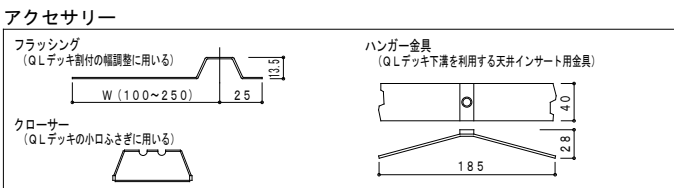
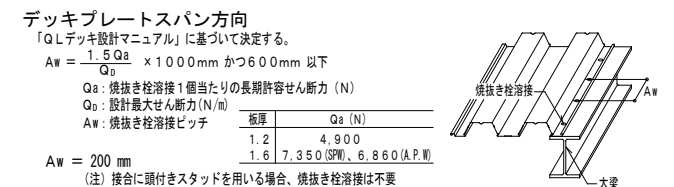
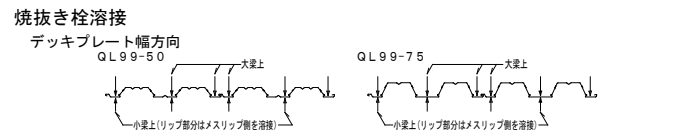
デッキプレート	耐火区分	支持条件	コンクリート種別	耐火補強筋	認定番号
QL99-50 QL99-75	床1時間	単続	普通/軽量	要	FP060FL-9101
		連続		要	FP060FL-9095
	床2時間	単続		要	FP120FL-9113
		連続		要	FP120FL-9107

注) 床2時間は床1時間耐火を含む

特 記

支保工有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
その他:	( ) ( )

上欄内の採用項目に☑を記入して下さい。



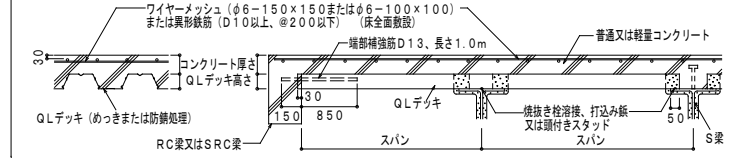
施工時許容スパン表 (デッキプレートの検計)

QL99-50 (単位: m)	コンクリート厚 (mm)									
	60	70	80	90	100	110	120	130	140	150
単続 (内法)	2.52	2.75	2.47	2.69	2.42	2.64	2.37	2.59	2.32	2.54
2連続	3.38	3.67	3.31	3.61	3.24	3.54	3.18	3.47	3.12	3.41
3連続	3.12	3.40	3.05	3.33	2.99	3.26	2.93	3.20	2.87	3.15

### 耐火仕様

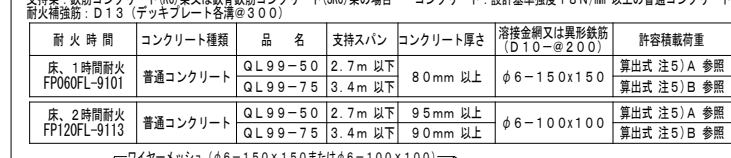
【連続支持合成スラブ】

耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋 (D10-φ200)	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	QL99-50	3.0m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照
		QL99-75	3.4m以下	90mm以上	φ6-100×100	算出式注5)B参照
		QL99-50	3.0m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照



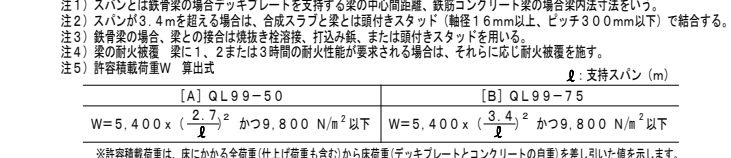
### 【単純支持合成スラブ】

耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋 (D10-φ200)	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照
		QL99-75	3.4m以下	90mm以上	φ6-100×100	算出式注5)B参照
		QL99-50	2.7m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照



スラブリ配筋

耐火区分	配筋
床1時間	単続
床2時間	連続



注1) スパンとは鉄骨梁の場合デッキプレートを支持する梁の中心間距離、鉄筋コンクリート梁の場合は梁内法寸法をいう。  
 注2) スパンが3.4mを超える場合は、合成スラブと梁とは頭付きスタッド (軸径16mm以上、ピッチ300mm以下) で結合する。  
 注3) 鉄骨梁の場合、梁との接合は焼抜き栓溶接、打込み板、または頭付きスタッドを用いる。  
 注4) 梁の耐火強度、梁に1、2または3時間の耐火性能が要求される場合は、それらに同じ耐火強度を施す。  
 注5) 許容積載荷重W 算出式

付帯条件

連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは2スパン以上わたって連続的に小ばり等によって、ほぼ等間隔(スパン比3:2を超えない程度)で支持されるものとする。
※合成スラブ工業会発行「合成スラブリ設計・施工マニュアル」参照

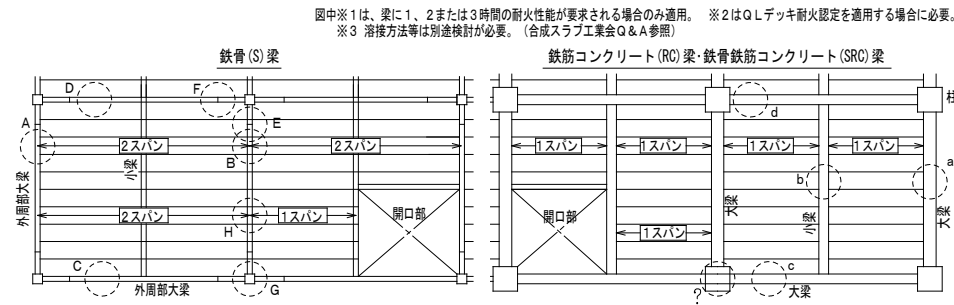
施工順序

工程	内容
1) 鉄骨梁の場合	1) 差し出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止めの溶接した後、順次適当な枚数(5~10枚)ごとに仮止めの溶接する。 2) 各大梁上にデッキプレートの端部が乗るように仮止めの溶接する。
2) 鉄筋コンクリートの場合	1) 鉄筋コンクリートは梁型枠に打設する。 2) デッキプレートの梁型枠へののみ込み代が幅方向10mm以上、長手方向が30mmであることを確認する。

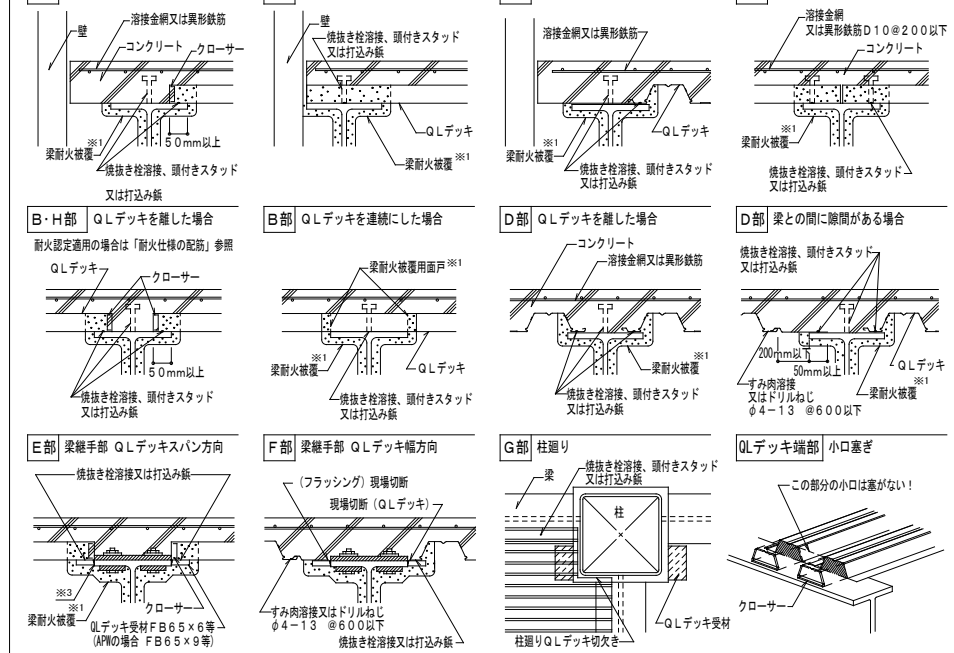
敷込み

QL99-50 (単位: m)	QL99-75 (単位: m)
単続 (内法)	単続 (内法)
2連続	2連続
3連続	3連続

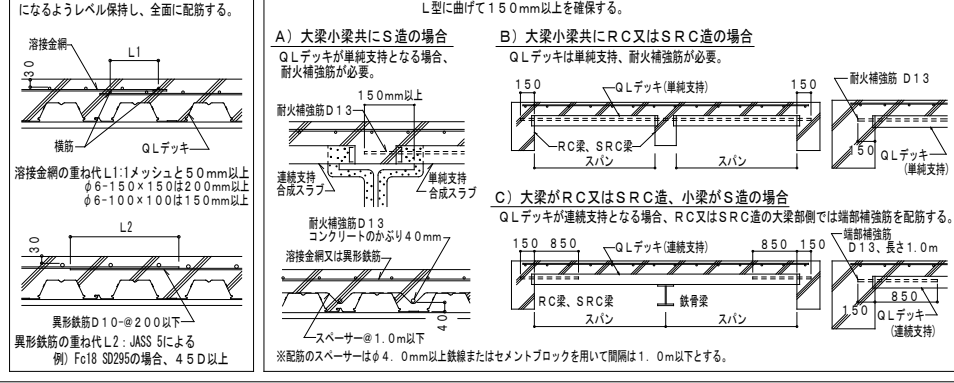
### 標準納まり



### デッキプレートと梁の納まり [S梁]



### 耐火仕様の配筋



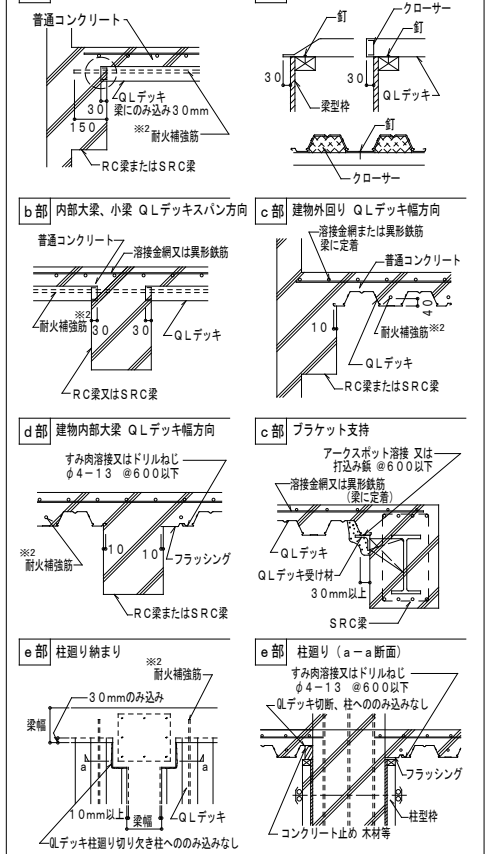
### デッキプレートと梁との接合

工程	手 順・要 領
1) アーク発生	QLデッキを梁に押しつけて(隙間2mm以下)溶接棒をQLデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2) QLデッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm程度のノズルを押しつけてQLデッキを焼抜きする。
3) 押し込み・溶接	溶接棒を梁上で押し込み、焼抜きの内側をなぞるように中央へ2~3回転しながら溶接する。
4) 整形	溶着金属を整え、中央部で溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認する。

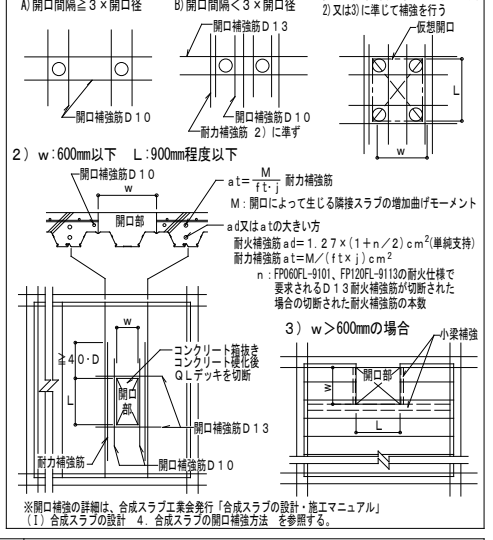
自動焼抜き栓溶接 [A.P.W.]

電流 (A)	電圧 (V)	アークタイム (秒)
1.2mm	300~320	3.0~3.5
1.6mm	300~320	3.4~3.6

### デッキプレートと梁の納まり [RC・SRC梁]



### 開口部補強



### 検 査

【焼抜き栓溶接 (SPW) 及び自動焼抜き栓溶接 (A.P.W.)】

事前検査

SPW: 適正な溶接を行うため下記(1)または(2)の方法で電流値をチェックする。

1) 溶接機での計測  
2) 溶接棒の消費長さによる確認

A.P.W.: 試し溶接を行った後下記(1)または(2)の方法で電流値を確認すること。

溶接後の外観検査

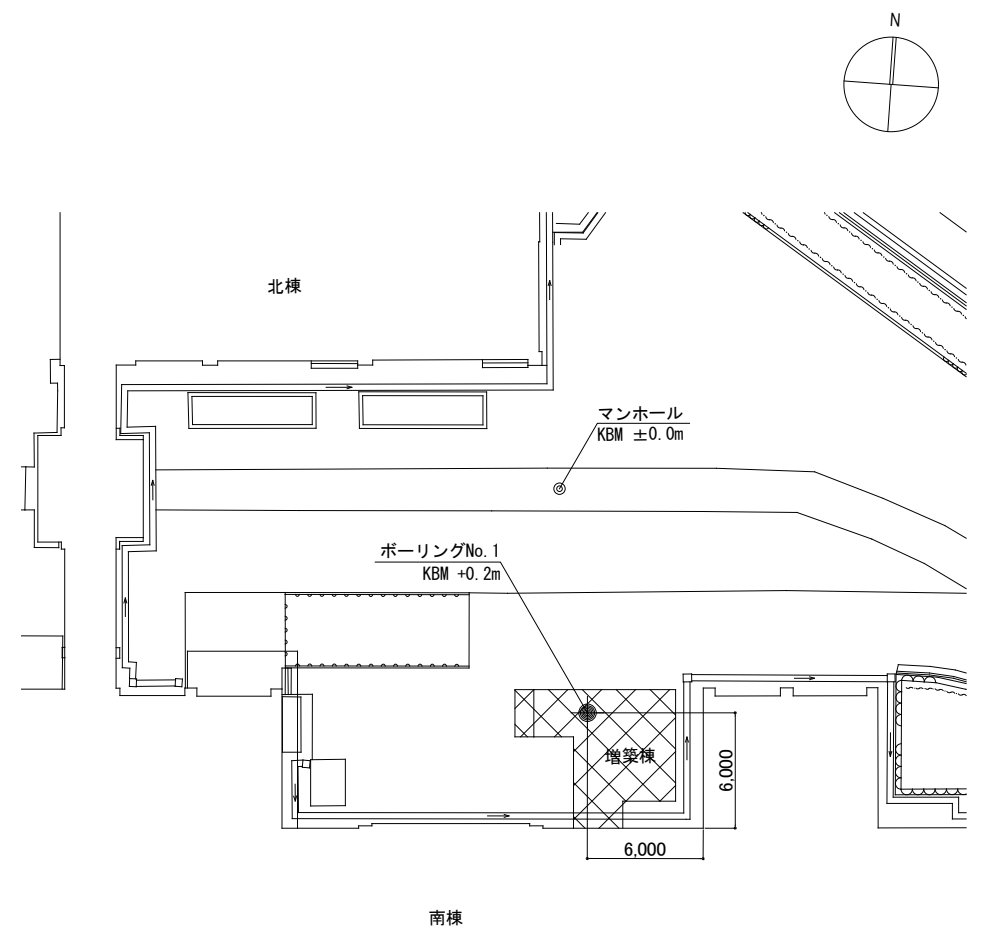
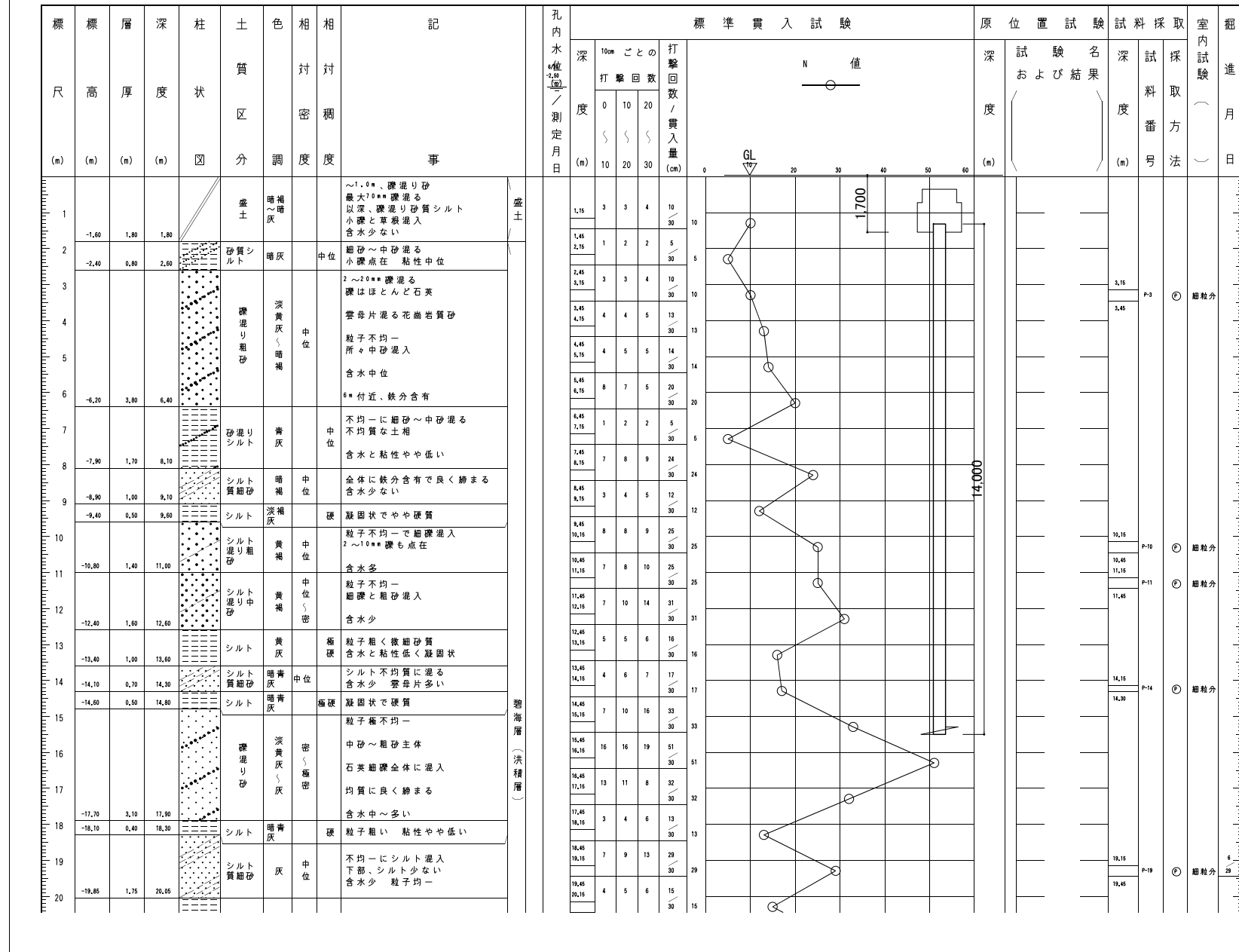
1) 溶接部の確認  
2) 焼き切り、会成り不足の有無  
3) 標準溶接条件: SPW: 18mm以上 A.P.W.: 25mm±3

SPWの場合: スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。  
A.P.W.の場合: 重ね溶接して補修する。

【その他】

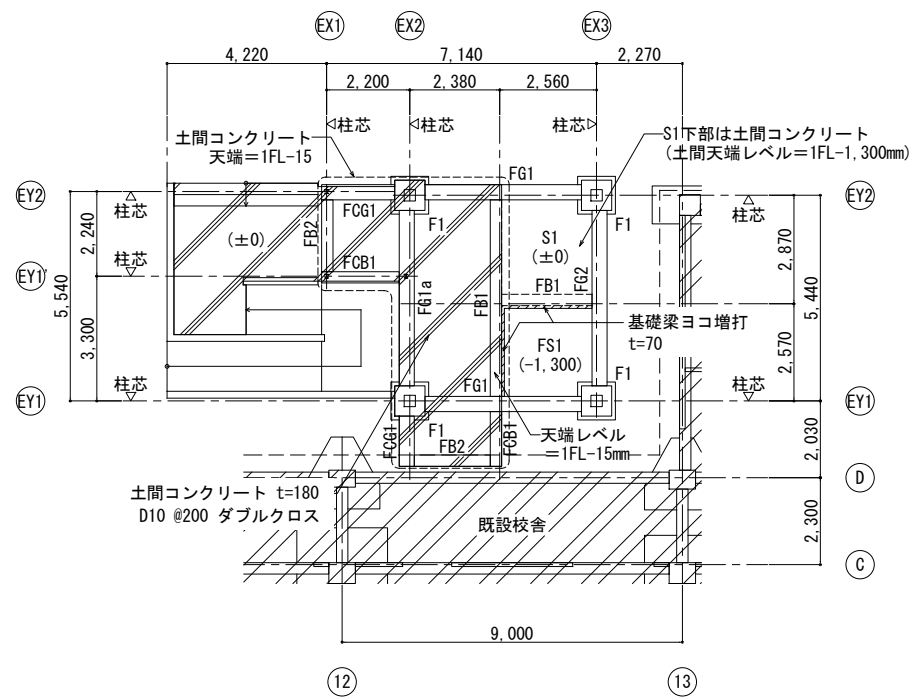
(1) QLデッキ相互の嵌合状況 (2) 引継材拡大防止部の嵌合状況 (3) 開口部の補強状況

### ボーリング柱状図



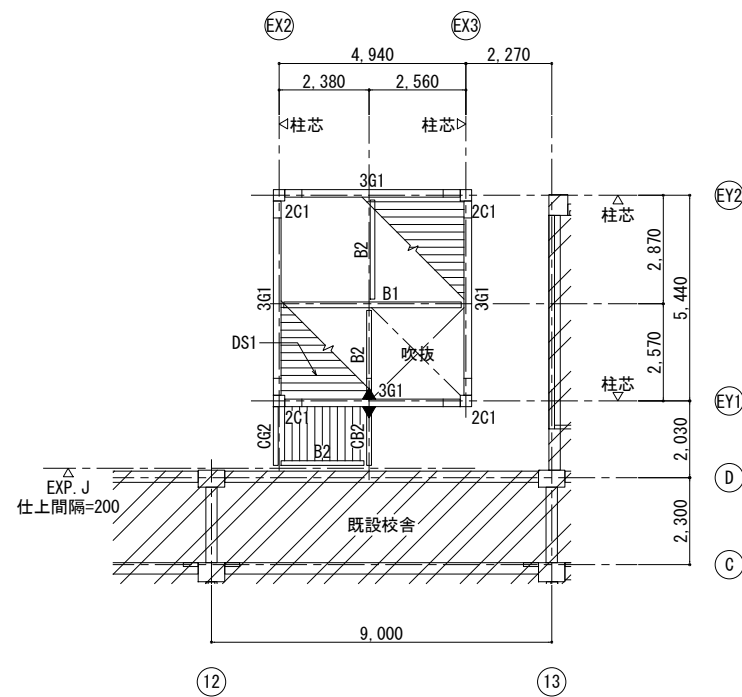
調査地点位置図



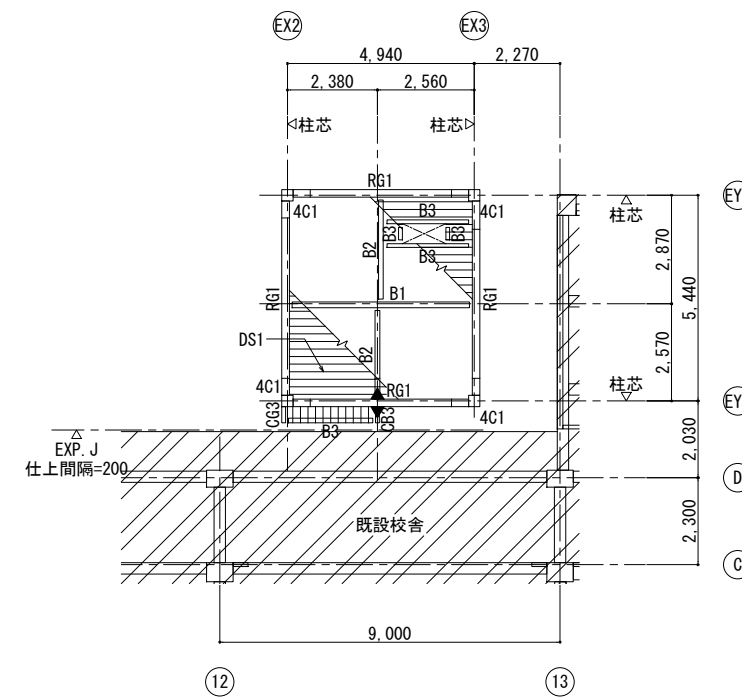


基礎伏図兼1階床伏図 S=1/100

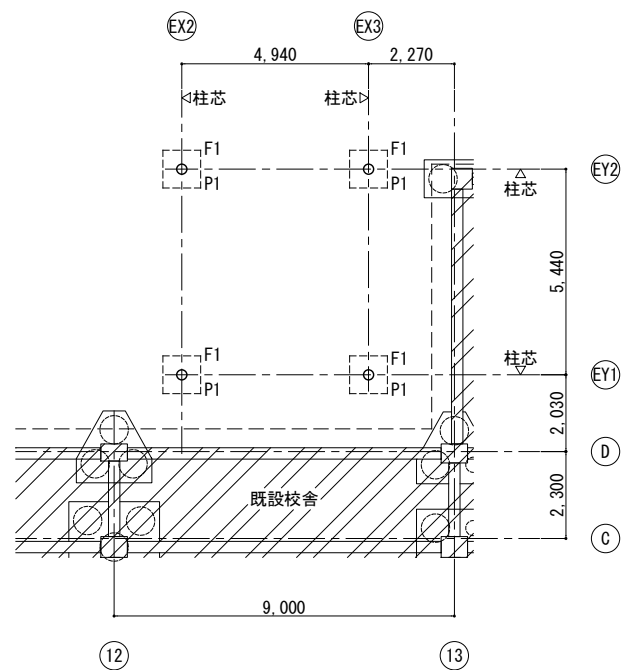
- 特記なき限り以下とする
1. 基礎下端=GL-1,700mmとする
  2. 基礎梁天端=GL-250mmとする
  3. 基礎小梁天端=GL+400mmとする
  4. ( ) 内はスラブ天端レベルを示す



3階床伏図 S=1/100

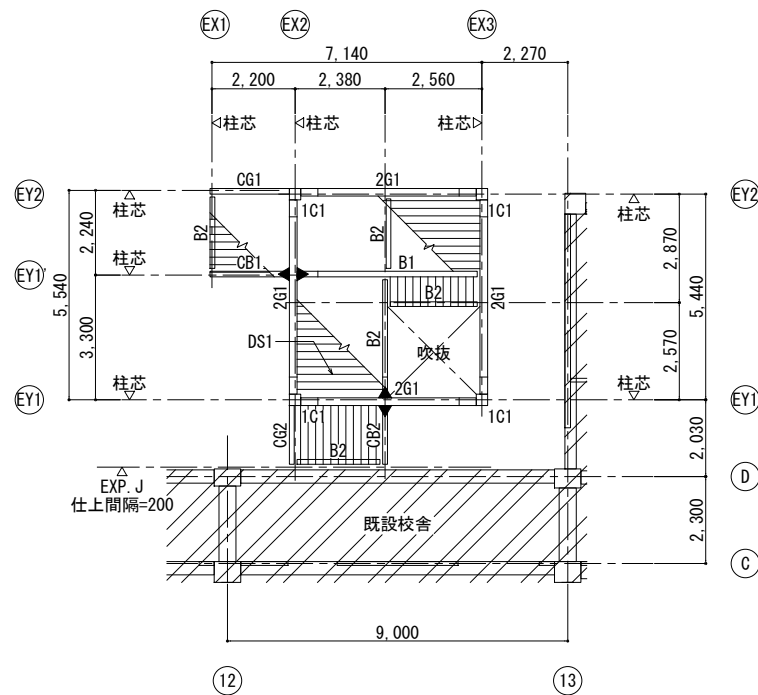


屋根伏図 S=1/100

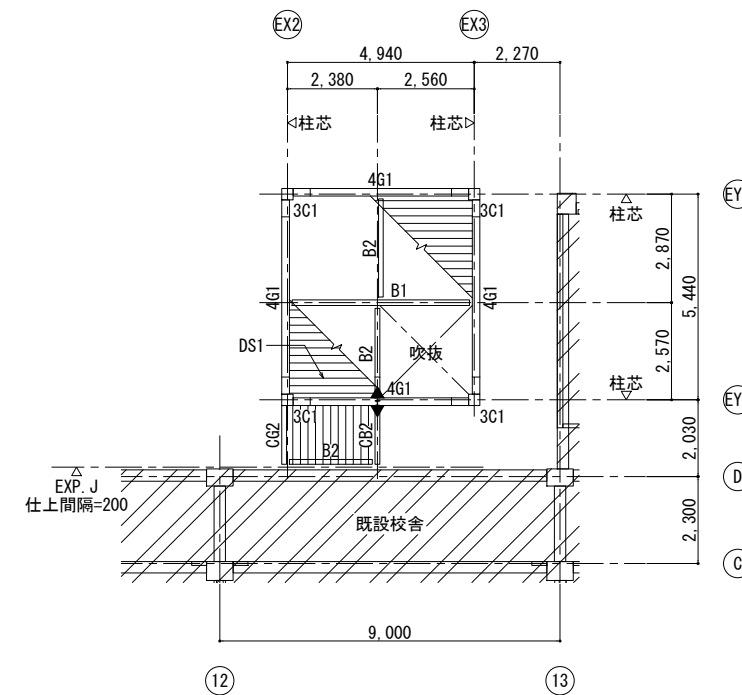


杭伏図 S=1/100

- 特記なき限り以下とする
1. 杭天端=GL-1,500mmとする



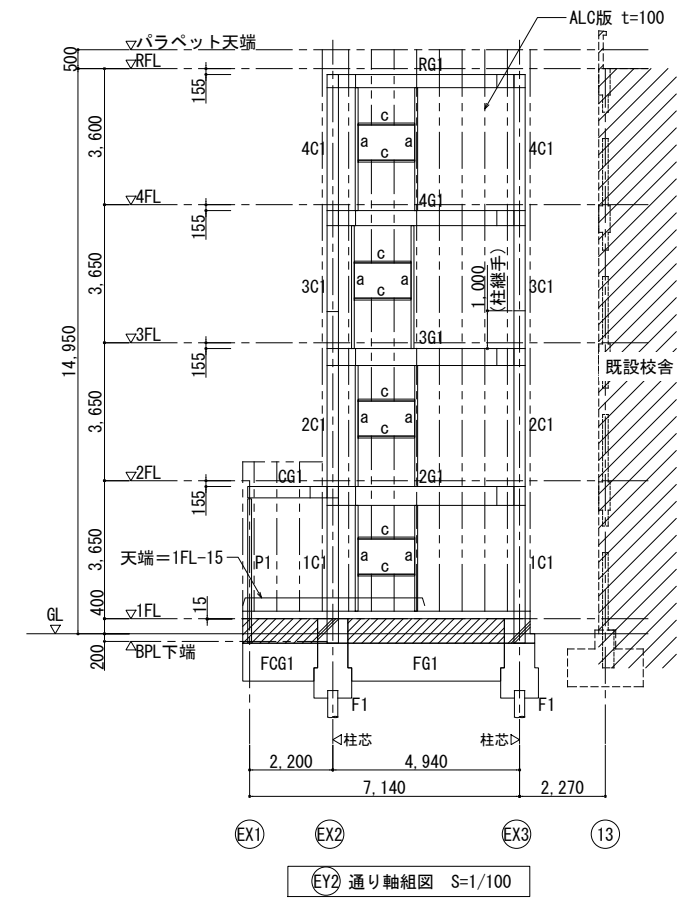
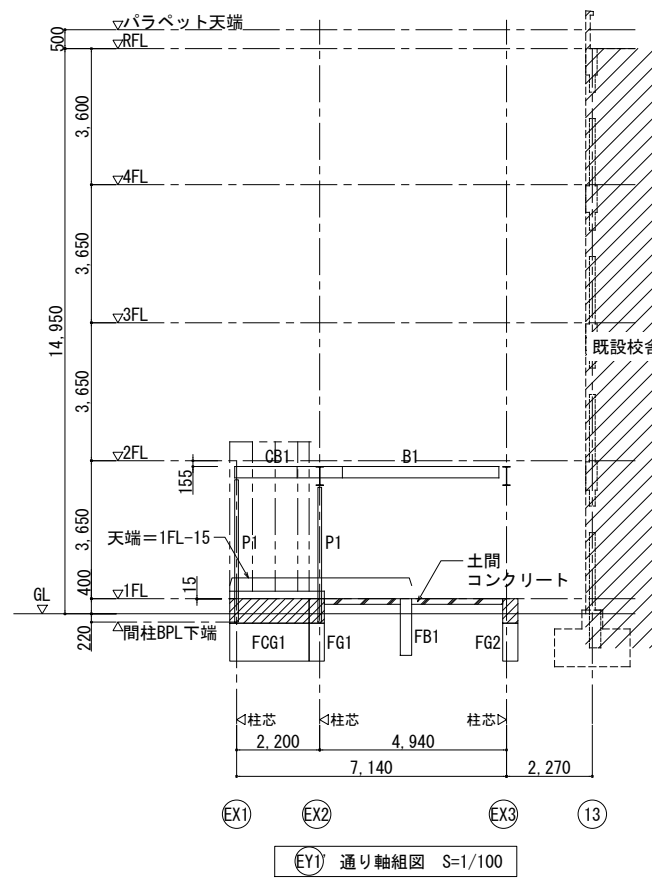
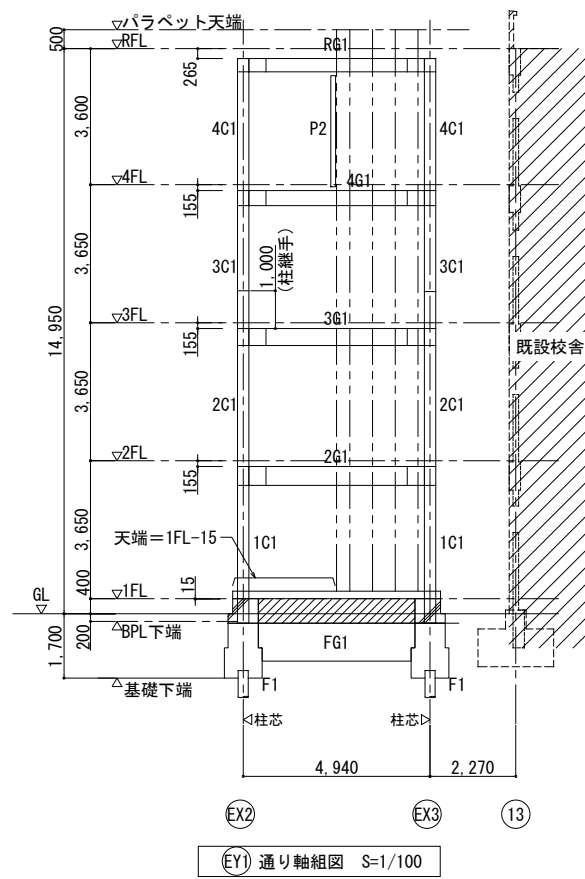
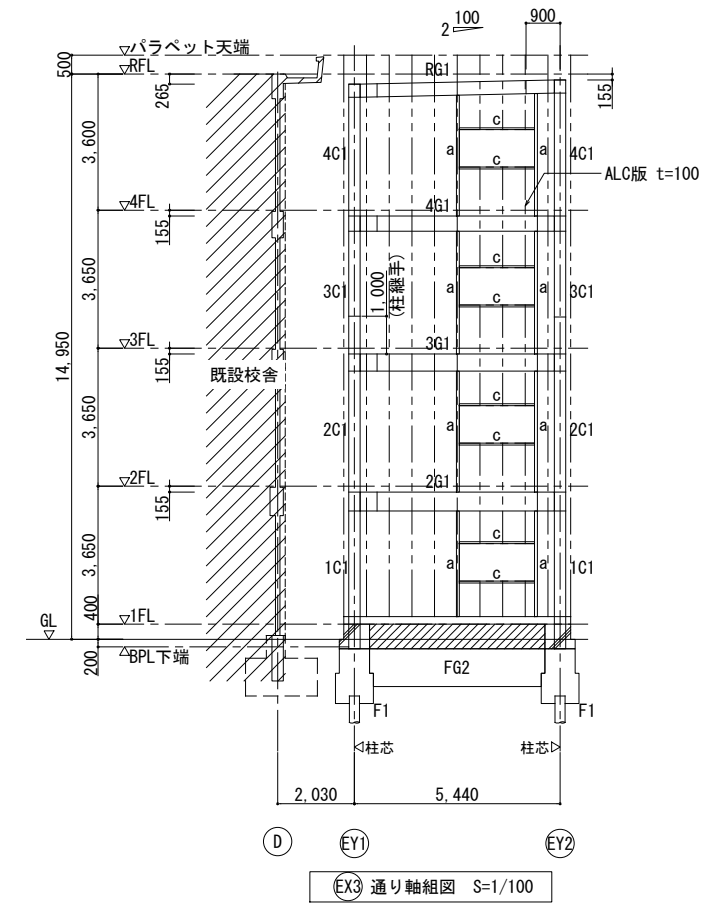
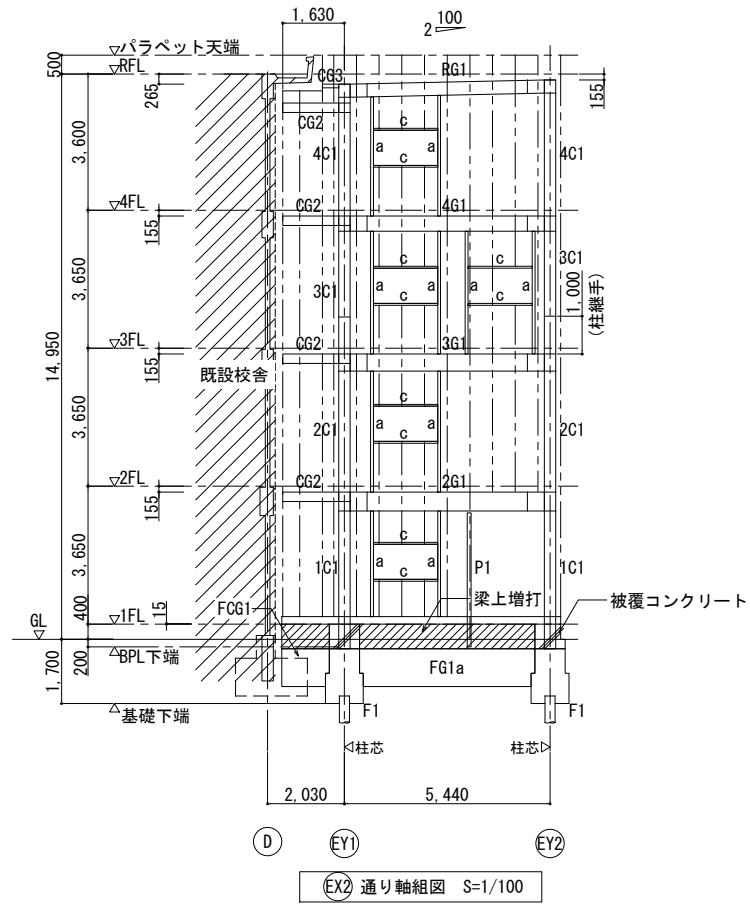
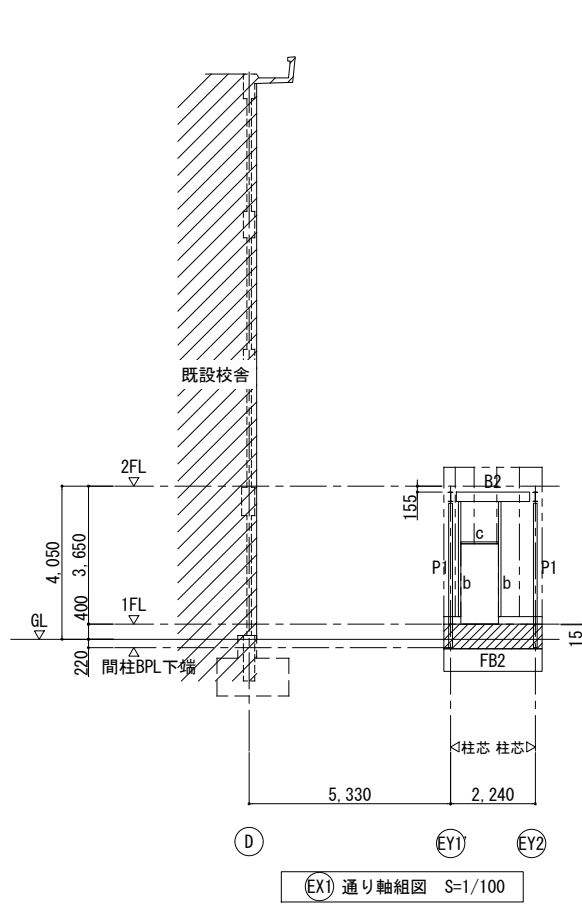
2階床伏図 S=1/100



4階床伏図 S=1/100

- 特記なき限り以下とする
1. 鉄骨大梁天端=FL-155mmとする
  2. 梁継手位置は柱芯より600mmとする
  3. ▲ は剛接合を示す
  4. DS1は QL-90-50-12 山上コンクリートt=80とする

杭リスト		杭工法=スクリーパイルEAZET工法同等						
符号	杭種	杭径	杭長	全長	本数	長期許容支持力	短期引抜耐力	先端翼部
P1	上杭	[SEAH590] STKT590 t=12.7	φ267.4	4.0m	14.0m	4本	680 kN/本	210 kN/本
	中杭	STK490 t=8.0	5.0m					
	下杭	STK490 t=8.0	5.0m					
羽根径 Dw=750 板厚 ts=28 (SM490A)								



- 特記なき限り以下とする
1. 梁継手位置は柱芯より600mmとする
  2. 外壁はALC版 t=100とする
  3. 外壁は縦壁ロック構造とする

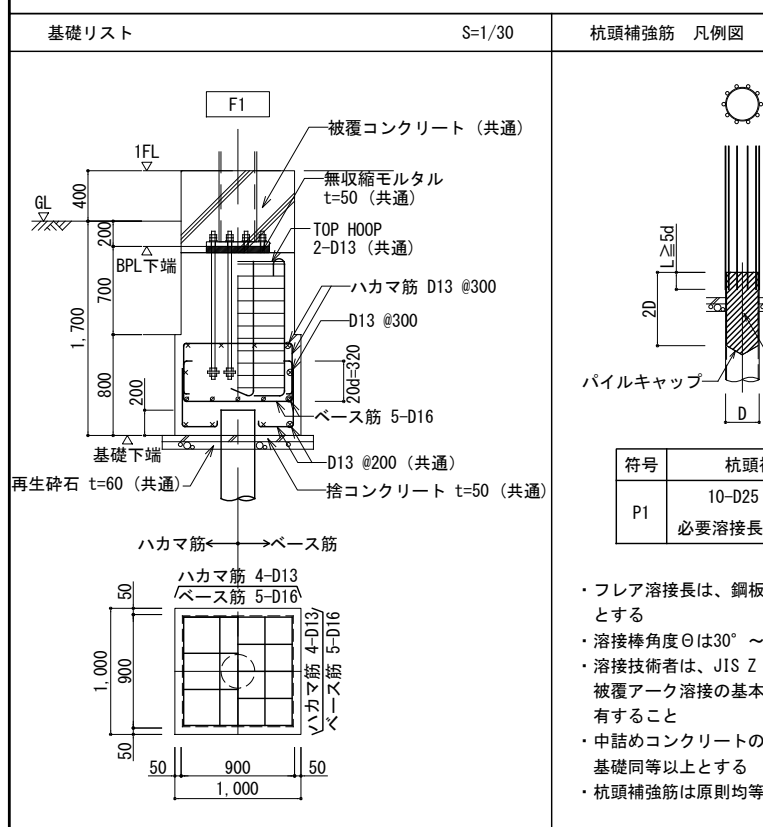
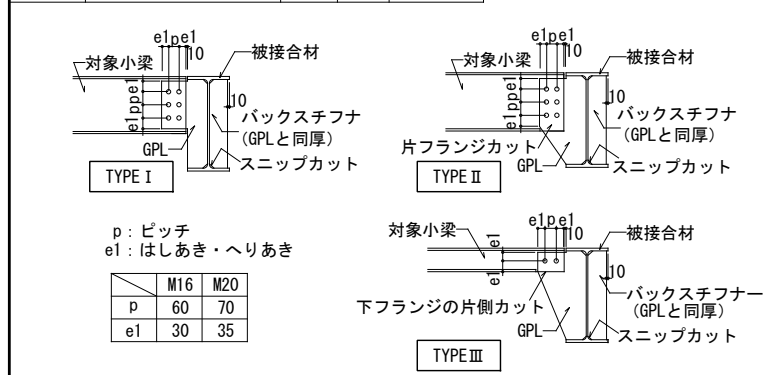
開口補強材リスト	
符号	補強材断面
a	L-75x75x6
b	L-65x65x6
c	L-50x50x6



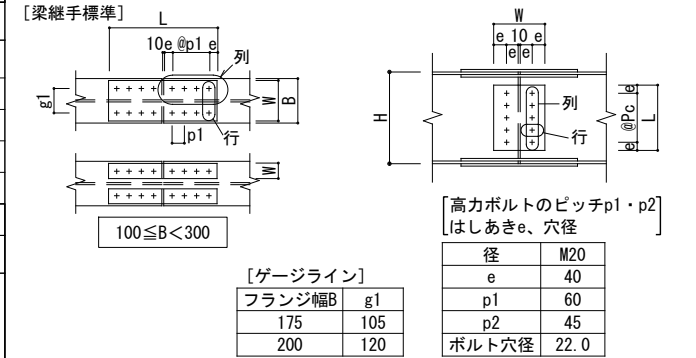
鉄骨部材リスト		特記なき限り、材質はSS400とする	
符号	部材断面	備考	
RG1	H-350x175x7x11		
4G1	H-400x200x8x13		
3G1	H-450x200x9x14		
2G1	H-500x200x10x16		
1C1・2C1	□-300x300x16	BCR295	$\lambda=47.9$
3C1・4C1	□-300x300x12	BCR295	$\lambda=50.9$
CG1	H-300x150x6.5x9		
CB1・B1	H-250x125x6x9		
CG2	H-250x125x6x9		
CB2・B2	H-100x100x6x8		
CG3	H-100x100x6x8		
CB3・B3	H-100x100x6x8		
P1	H-100x100x6x8		
P2	H-125x125x6.5x9		

EV部材リスト		※部材配置はEV廻り詳細図による	
符号	部材断面	備考	
a	H-125x125x6.5x9	20kN用吊りリブ	
b	PL-12		
b'	PL-12 (9tリブ付)		
e	L-65x65x6		
g	L-90x90x7		

小梁仕口リスト				
符号	部材断面	TYPE	GPL	HTB
B1	H-300x150x6.5x9	I	9	3x2-M20
B2	H-250x125x6x9	II	9	3x2-M20
B3	H-100x100x6x8	III	6	2-M16

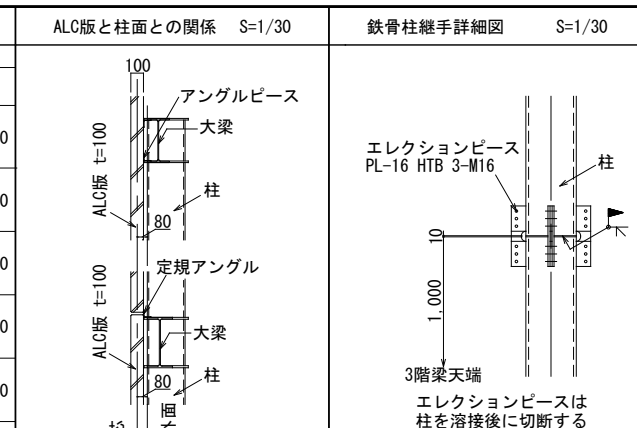


大梁継手リスト		ボルト		フランジ面		ウェブ面	
符号	部材断面	列x行	外内	添板(WxL)	列x行	Pc	添板(WxL)
RG1	H-350x175x7x11	M20	2x2	PL-9x175x290 2PL-9x70x290	3x1	90	2PL-6x170x260
4G1	H-400x200x8x13	M20	3x2	PL-9x200x410 2PL-9x80x410	4x1	60	2PL-9x170x260
3G1	H-450x200x9x14	M20	3x2	PL-12x200x410 2PL-12x80x410	5x1	60	2PL-9x170x320
2G1	H-500x200x10x16	M20	3x2	PL-12x200x410 2PL-12x80x410	5x1	60	2PL-9x170x320
CG1	H-300x150x6.5x9	M20	2x2	PL-9x150x290 2PL-9x60x290	2x1	120	2PL-6x170x200

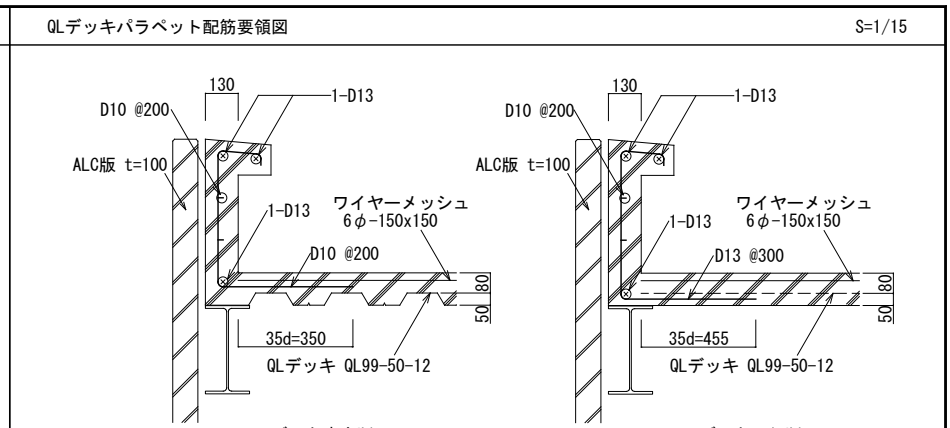
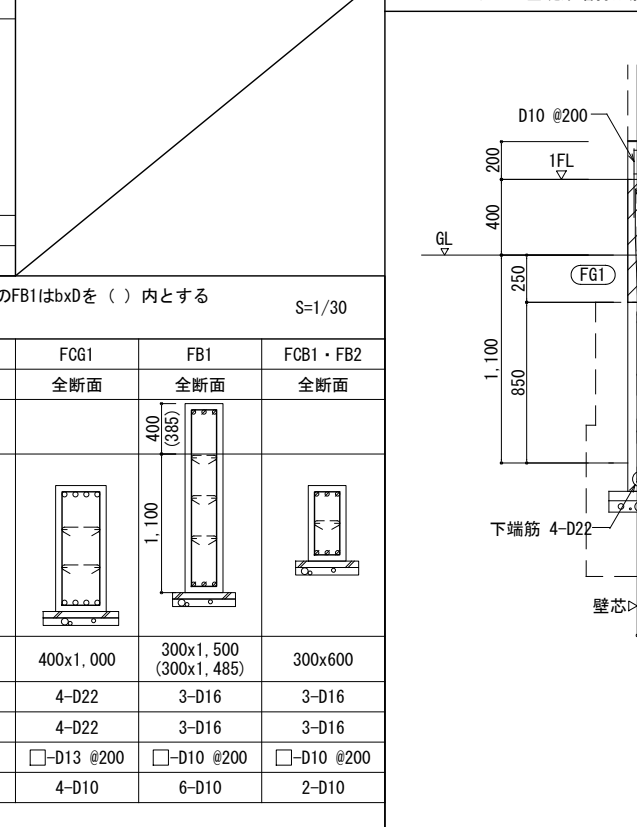
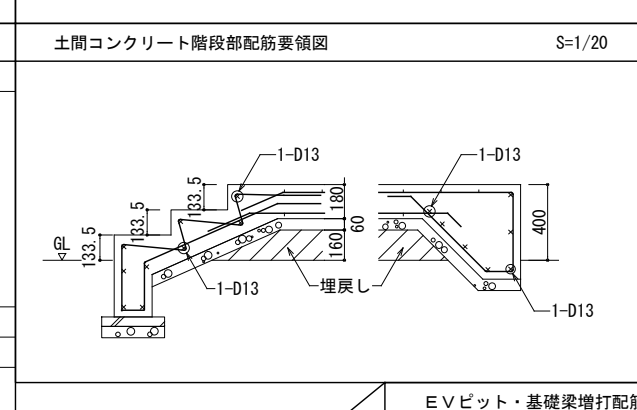


柱脚リスト		S=1/30	
符号	部材断面	GPL	HTB
C1	50 135 135 50	6	2-M16
BPL	BPL-40x500x500 (SN490B)	12-M33 (ABR490)	
A. Bolt	外辺 D=100 内径 d=35 板厚 t=19 (SS400)		

基礎梁リスト		S=1/30	
符号	位置	端部	中央部
FG1 (FG1a)	全断面		
FG2	端部		
FCG1	全断面		
FB1	全断面		
FCB1・FB2	全断面		
断面			
bxD	400x1,000	400x1,000	400x1,000
上端筋	5-D22	5-D22 [40d]	4-D22
下端筋	4-D22	5-D22	5-D22
STP	□-D13 @200 (□-D13 @200)	□-D13 @200	□-D13 @200
腹筋	4-D10	4-D10	4-D10
巾止め筋			D10 @1,000

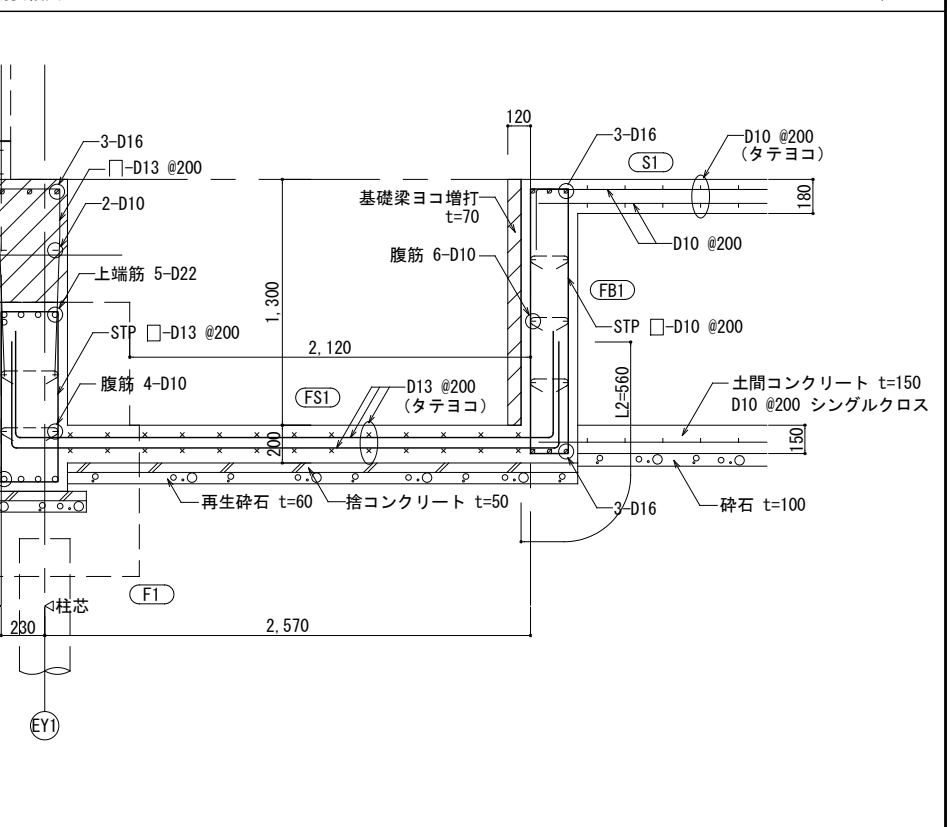


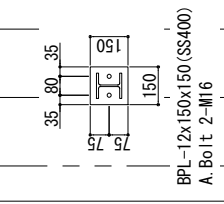
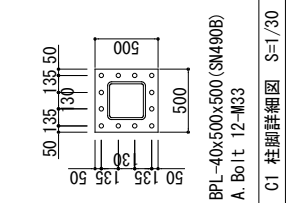
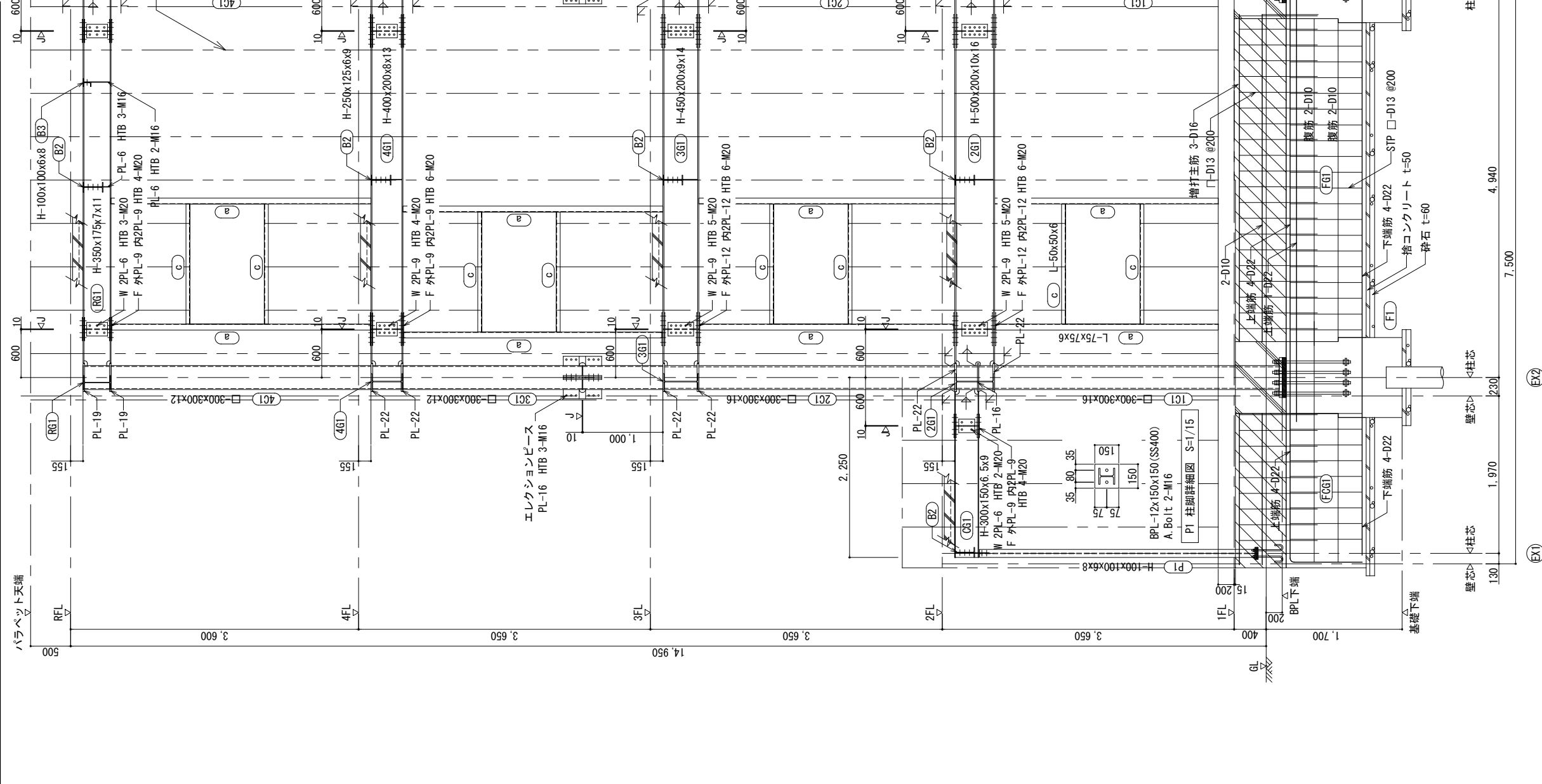
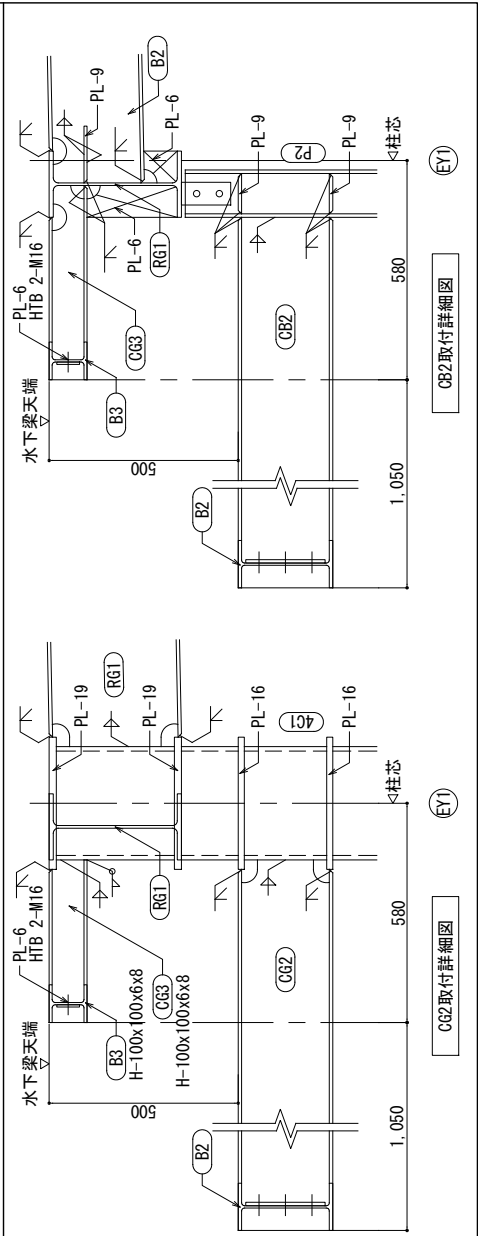
間柱・耐風梁仕口リスト		S=1/30	
符号	部材断面	GPL	HTB
P1	H-100x100x6x8	6	2-M16
P2	H-125x125x6.5x9	6	2-M16



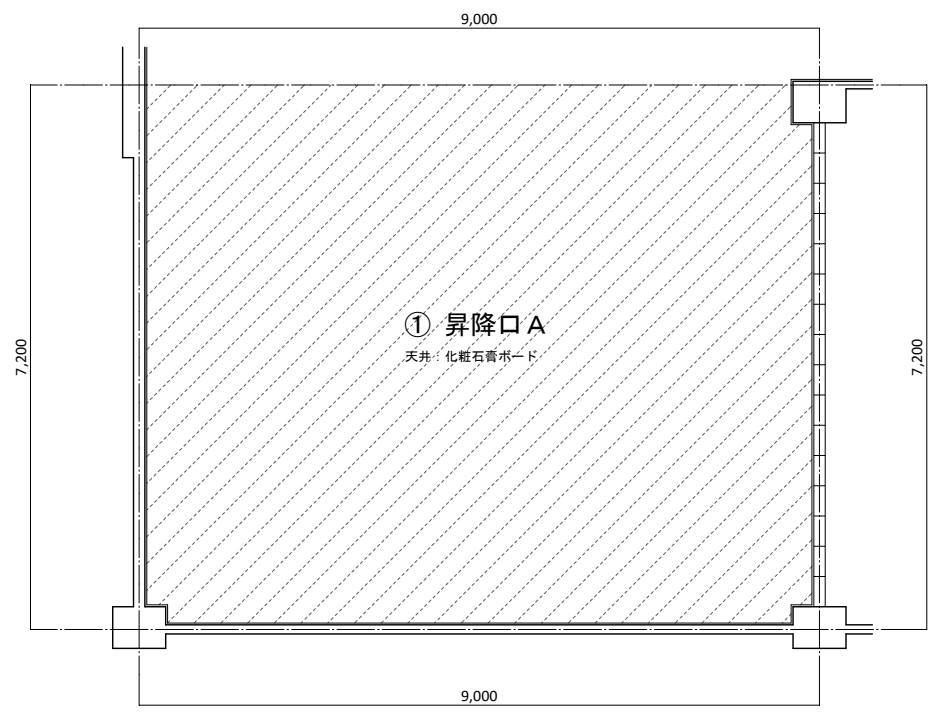
間柱柱脚リスト		S=1/10	
符号	部材断面	t	A. Bolt
P1	H-100x100x6x8	12	2-M16

スラブリスト				
符号	位置	板厚	主筋方向	配力筋方向
S1	上端筋	180	D10 @200	D10 @200
	下端筋		D10 @200	D10 @200
FS1	上端筋	200	D13 @200	D13 @200
	下端筋		D13 @200	D13 @200
DS1	—	山上 80	6φ-150x150 (QL-99-50-12)	

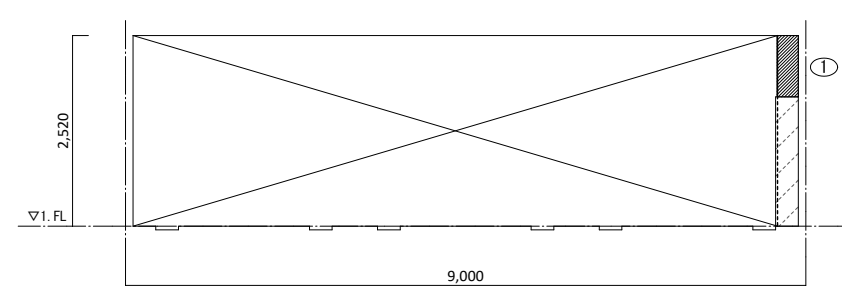




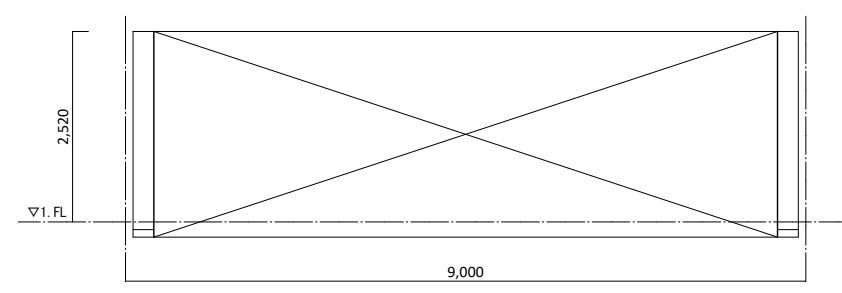
EX2 通り鉄骨梁詳細図 S=1/30



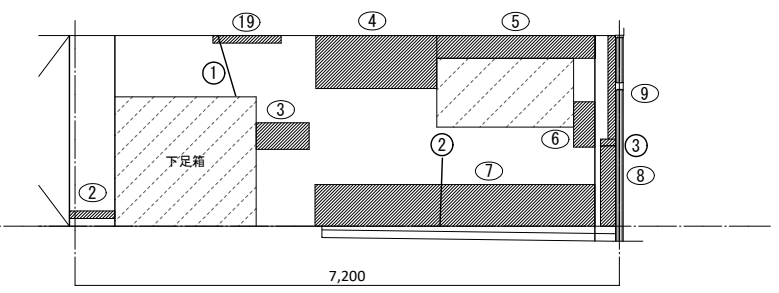
1階① 天井伏図 1/50



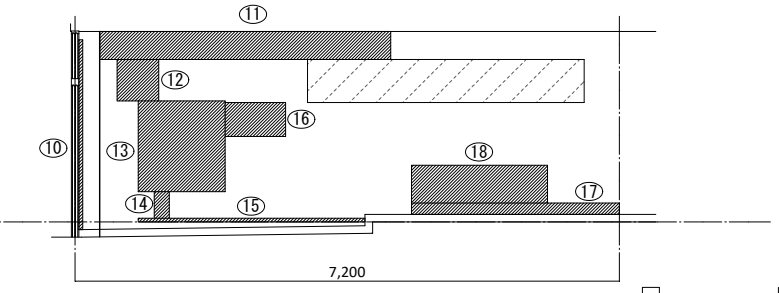
1



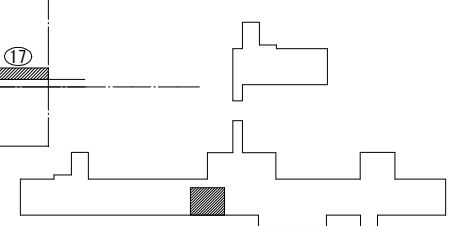
3



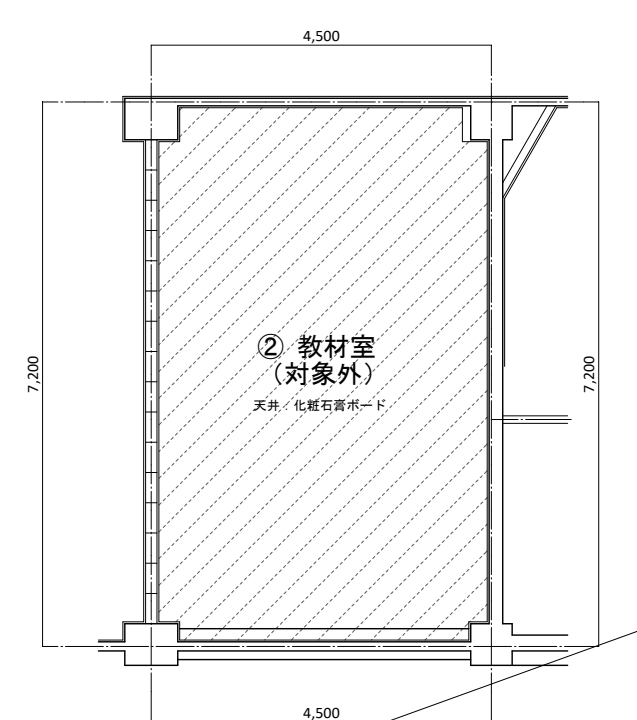
2



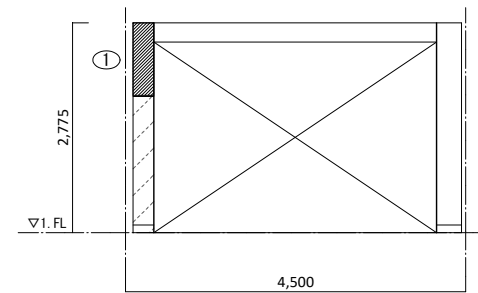
4



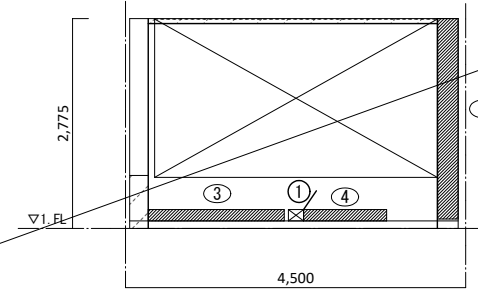
1階 キープラン



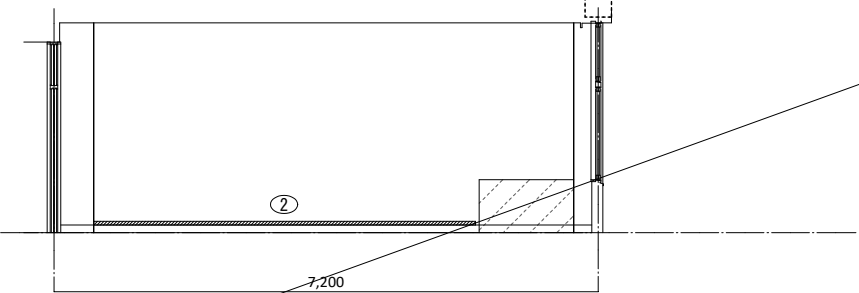
1階② 天井伏図 1/50



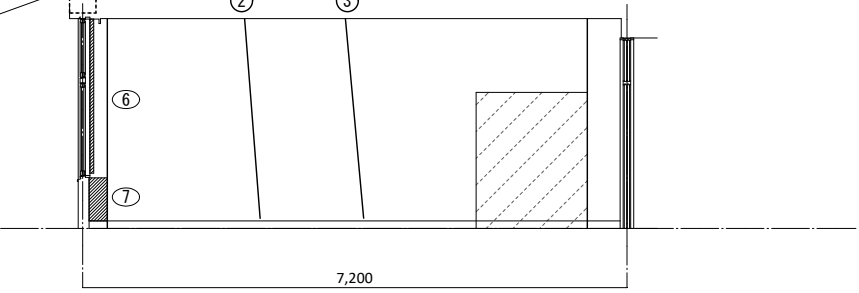
1



3



2

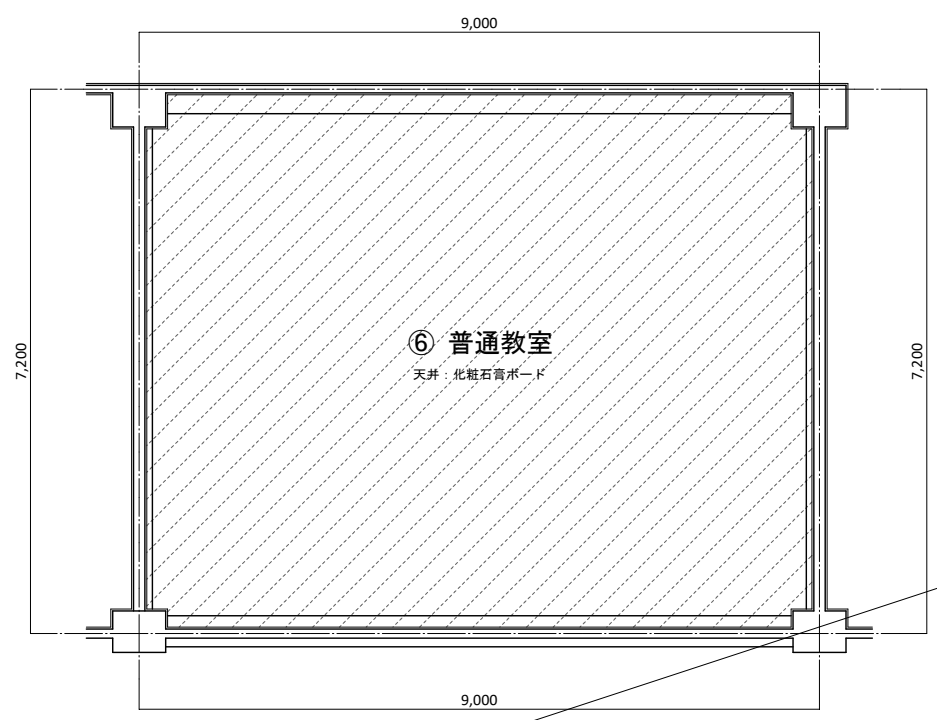


4

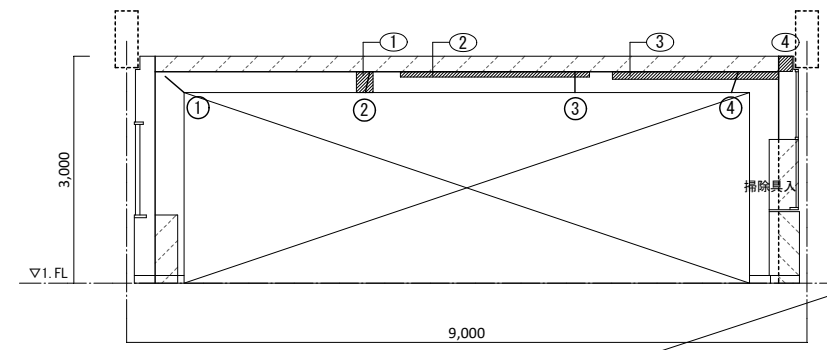
凡例  
打診不可及び  
モルタル以外を示す。

凡例		① 昇降口		凡例		① 昇降口	
略図	劣化項目	改修内容	調査数量	想定数量	略図	劣化項目	改修内容
—	ひび割れ (0.2mm未満)	処置なし	0m	0m	—	シール劣化	シール更新
—	ひび割れ (0.2mm以上~1.0mm未満)	自動式低圧球 樹脂注入工法 (0.2mm以下ひび割れ市)	1.93m	1.93m	☒	モルタル欠損	球 樹脂樹脂充填工法
—	ひび割れ (1.0mm以上)	ウレタン材充填工法 (1mm以下ひび割れ市)	0m	0m	☒	タイル欠損	タイル部分張替え工法
☒	亀甲ひび割れ	自動式低圧球 樹脂注入工法 (0.2mm以下ひび割れ市)	0㎡	0㎡	☒	増設	鉄筋増設部 鉄筋増設部除去の上 筋止め、モルタル補修
☒	モルタル浮き	アクリル樹脂 球 樹脂注入工法	10.11㎡	10.11㎡	☒	※	その他劣化・欠損 (※部内容記載)
☒	タイル浮き	アクリル樹脂 球 樹脂注入工法	0㎡	0㎡			

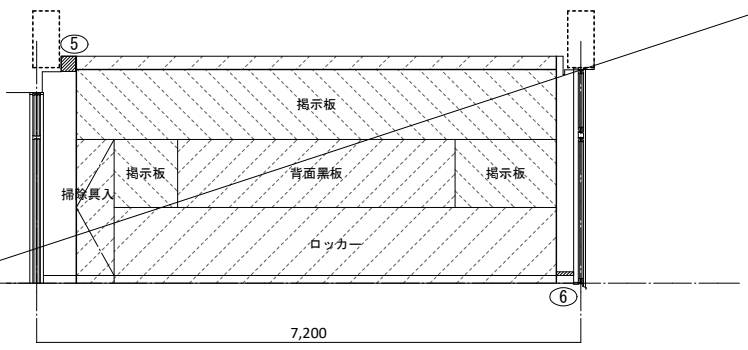
※▲・△は上裏、側面、見下げの劣化を示す。



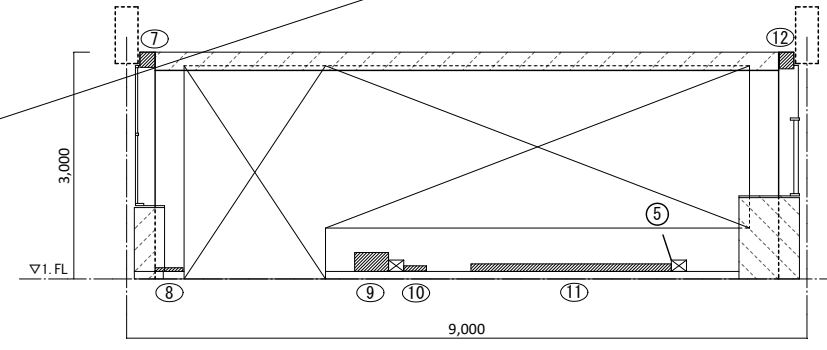
1階⑥ 天井伏図 1/50



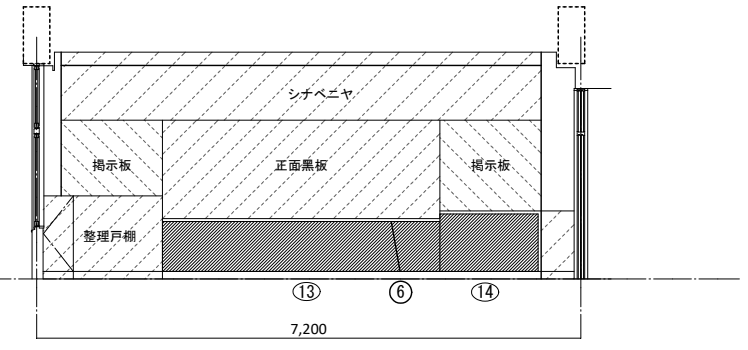
1



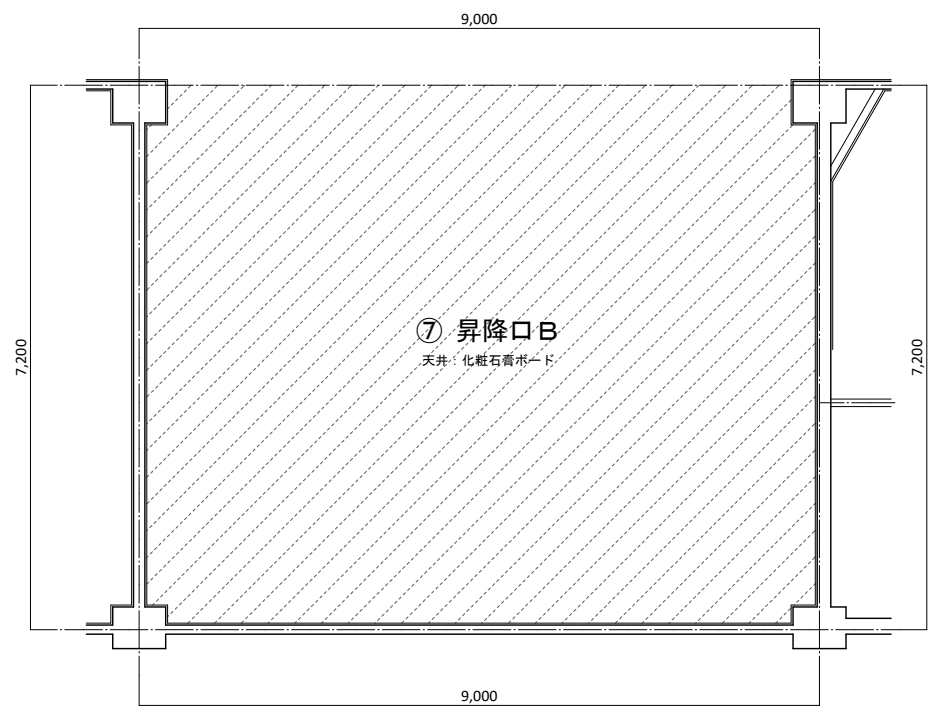
2



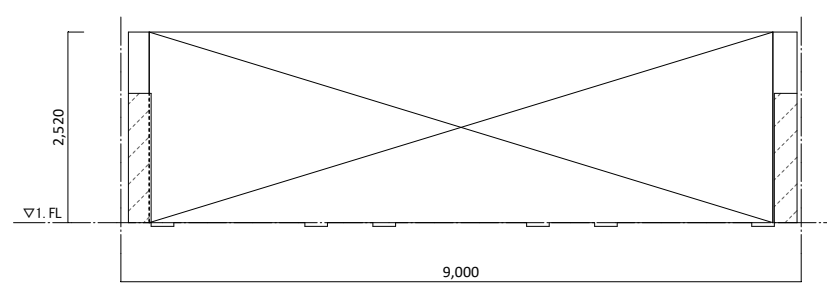
3



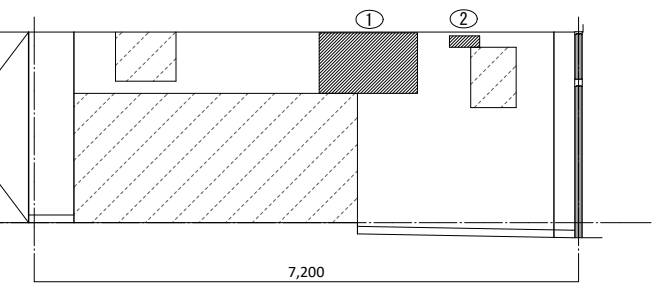
4



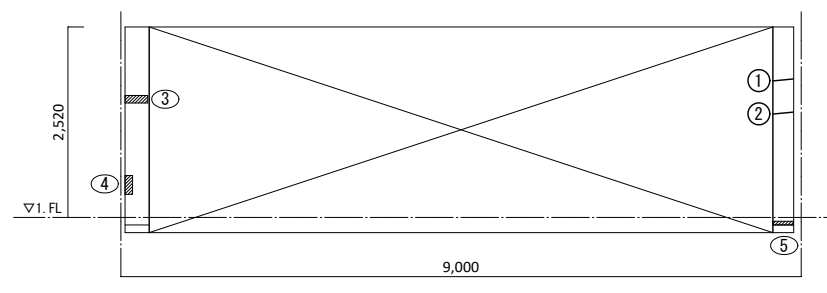
1階⑦ 天井伏図 1/50



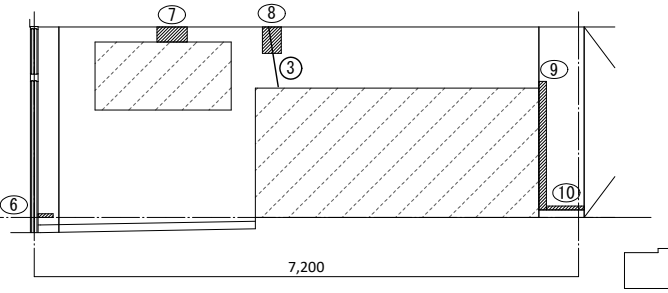
1



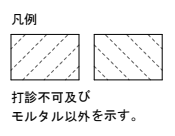
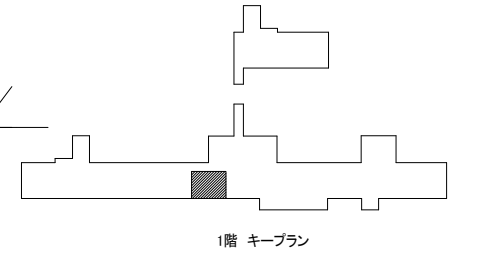
2



3

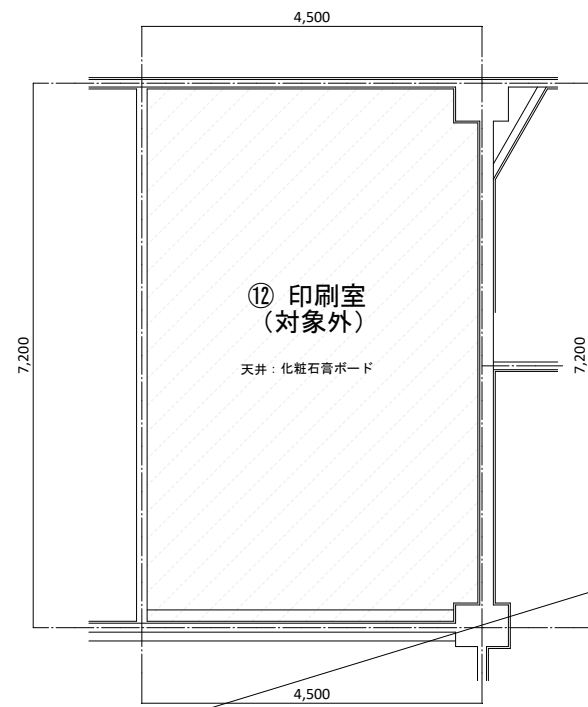


4



凡例			⑥ 普通教室		⑦ 昇降口		凡例			⑥ 普通教室		⑦ 昇降口	
略図	劣化項目	改修内容	調査数量	想定数量	調査数量	想定数量	略図	劣化項目	改修内容	調査数量	想定数量	調査数量	想定数量
—	ひび割れ (0.2mm未満)	処置なし	0m	0m	0m	0m	—	シール劣化	シール更新	0箇所	0箇所	0箇所	0箇所
—	ひび割れ (0.2mm以上~1.0mm未満)	自動式低圧球 樹脂注入工法 (0.2mm以上ひび割れ市)	2.15m	2.15m	1.34m	1.34m	⊗	モルタル欠損	球 樹脂注入工法	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>
—	ひび割れ (1.0mm以上)	ウレタン材充填工法 (1mm以上ひび割れ市)	0m	0m	0m	0m	⊗	タイル欠損	タイル部分張替工法	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>
■	亀甲ひび割れ	自動式低圧球 樹脂注入工法 (0.2mm以上ひび割れ市)	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	⊗	床材	鉄筋露出部 鉄筋露出除去の上 鎮止め、球補修	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>
■	モルタル浮き	アホビソング 球 樹脂注入工法	4.45m <sup>2</sup>	4.45m <sup>2</sup>	1.54m <sup>2</sup>	1.54m <sup>2</sup>	⊗	その他劣化・欠損	(※部内容記載)	0箇所	0箇所	0箇所	0箇所
■	タイル浮き	アホビソング 球 樹脂注入工法	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>							

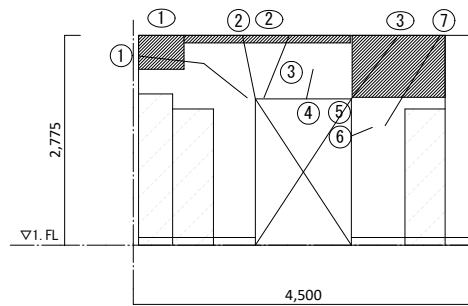
※▲・△は上裏、側面、見下げの劣化を示す。



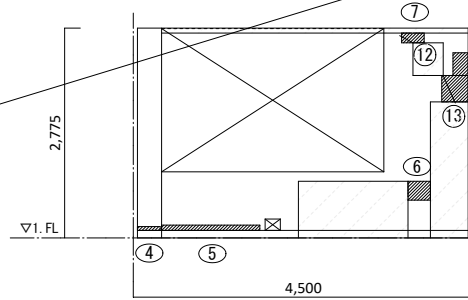
⑫ 印刷室  
(対象外)

天井：化粧石膏ボード

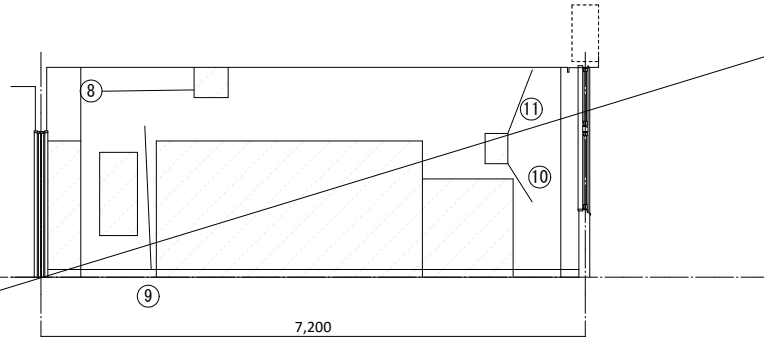
1階⑫ 天井伏図 1/50



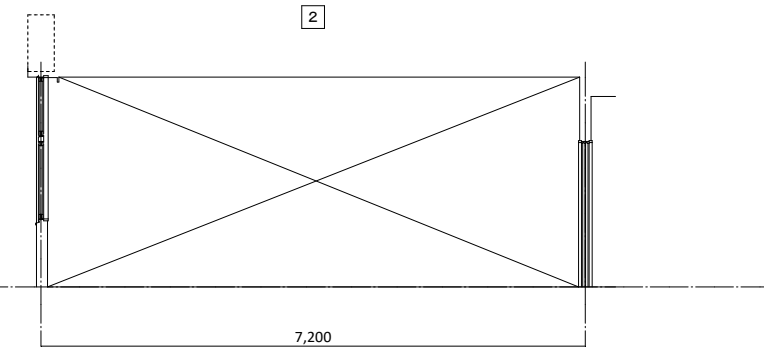
1



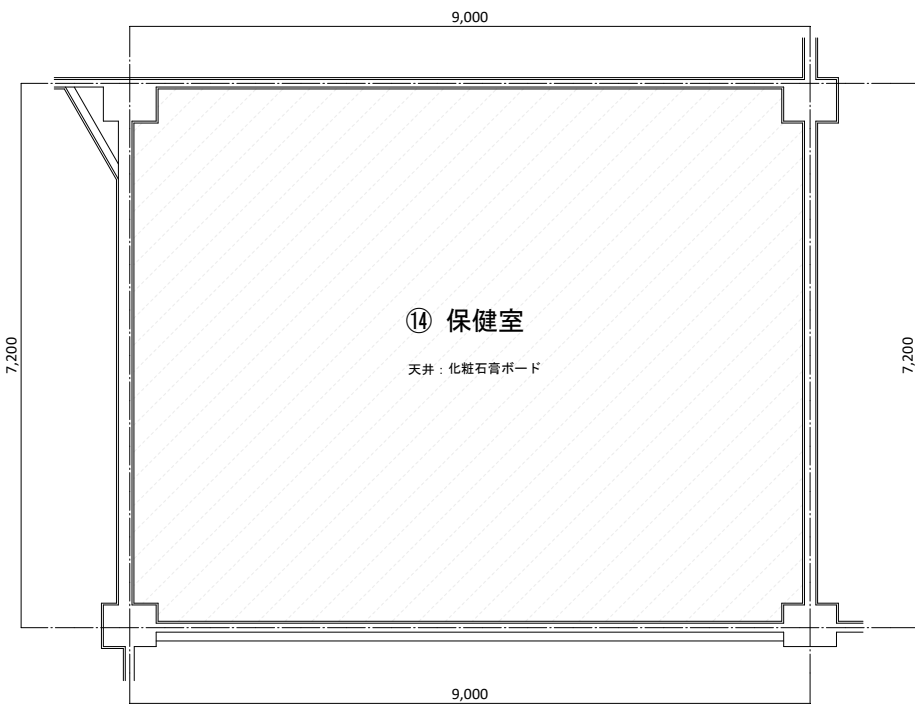
3



2



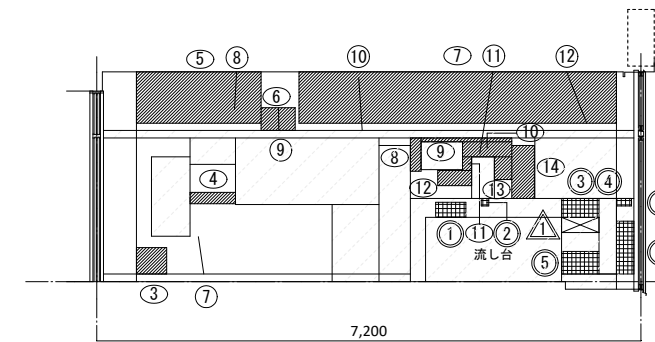
4



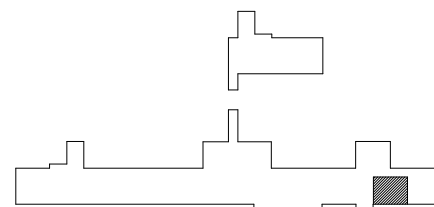
⑭ 保健室

天井：化粧石膏ボード

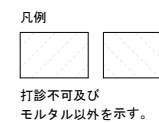
1階⑭ 天井伏図 1/50



2



1階 キープラン



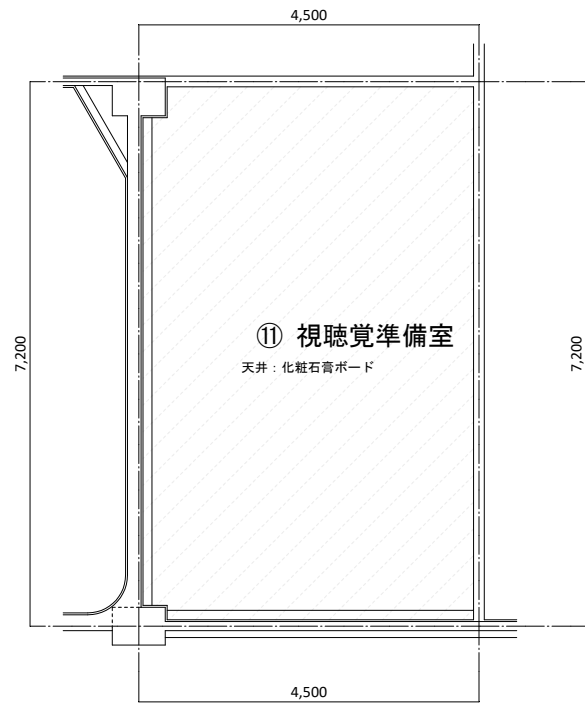
凡例  
打診不可及び  
モルタル以外を示す。

※タイルは改修に伴い撤去とする。モルタル浮き部の改修方針は監督員と協議の上決定とする。

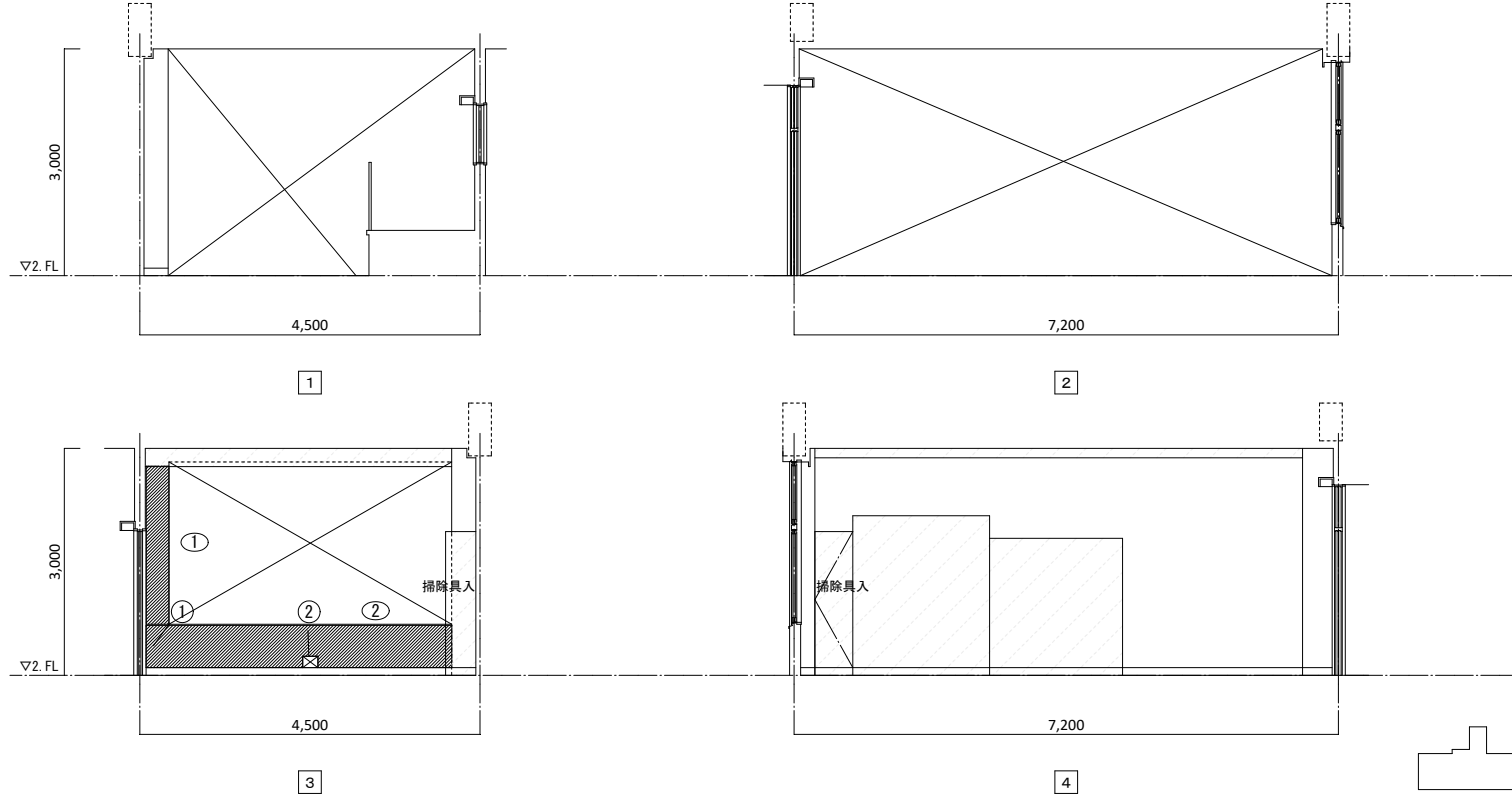
凡例		⑭ 保健室		凡例		⑭ 保健室			
略図	劣化項目	改修内容	調査数量	想定数量	略図	劣化項目	改修内容	調査数量	想定数量
—	ひび割れ (0.2mm未満)	処置なし	0m	0m	—	シール劣化	シール更新	0箇所	0箇所
—	ひび割れ (0.2mm以上~1.0mm未満)	自動式低圧球 樹脂注入工法 (0.2mm以下ひび割れ市)	10.57m	10.57m	☒	モルタル欠損	球 樹脂充填工法	0㎡	0㎡
—	ひび割れ (1.0mm以上)	ウツリシコ材充填工法 (1mm以下ひび割れ市)	0m	0m	☒	タイル欠損	タイル部分張替え工法	0.12㎡	0.12㎡
■	亀甲ひび割れ	自動式低圧球 樹脂注入工法 (0.2mm以下ひび割れ市)	0㎡	0㎡	☒	鉄筋腐蝕部	鉄筋腐蝕除去の上 錆止め、砂目補修	0㎡	0㎡
■	モルタル浮き	アネーピング 球 樹脂注入工法	20.48㎡	20.48㎡	☒	その他劣化・欠損 (※部内容記載)		0箇所	0箇所
■	タイル浮き	アネーピング 球 樹脂注入工法	1.68㎡	1.68㎡					

※▲・△は上裏、側面、見下げの劣化を示す。

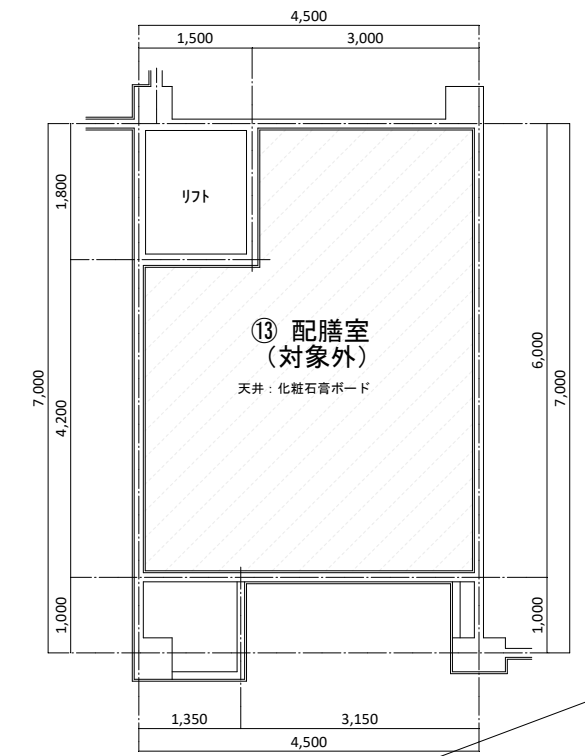




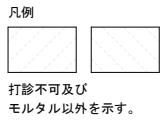
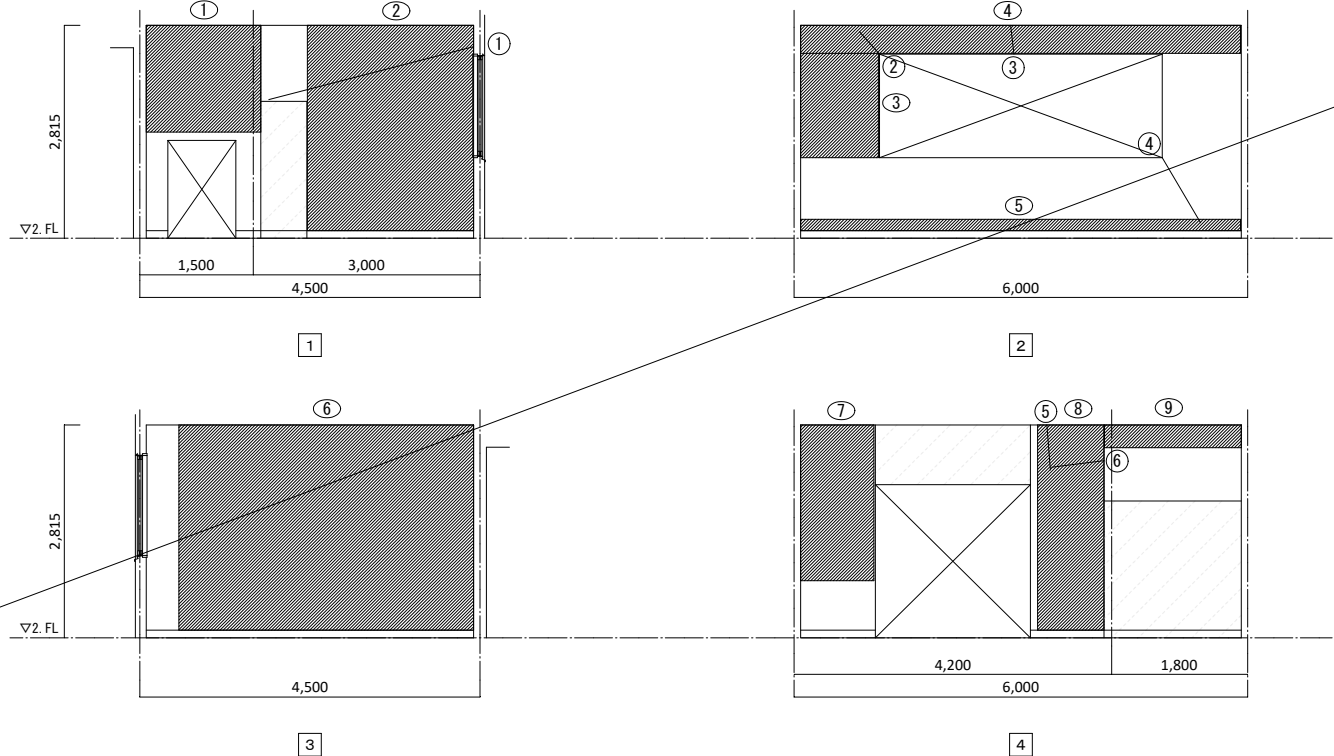
2階⑪ 天井伏図 1/50



2階 キープラン



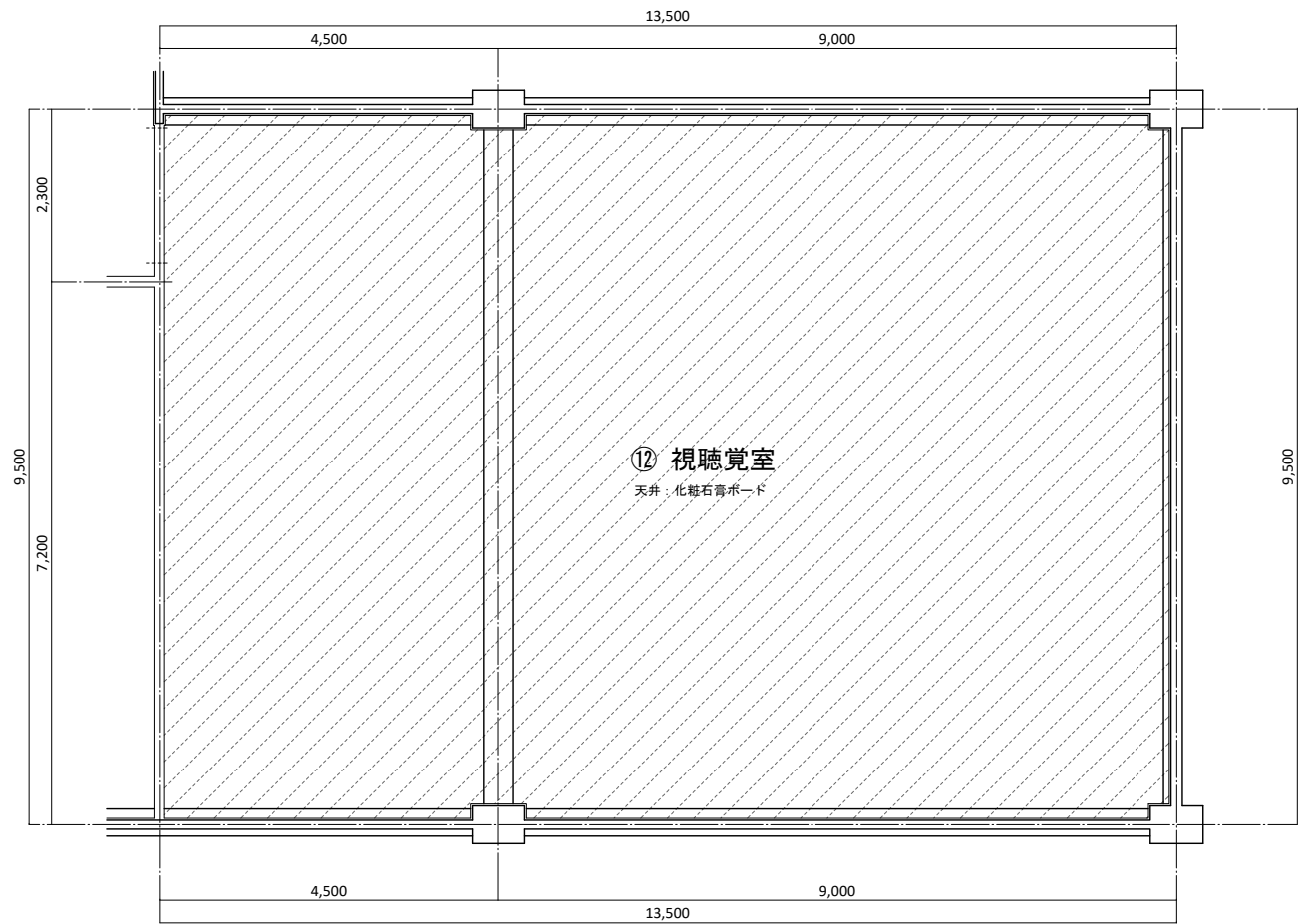
2階⑬ 天井伏図 1/50



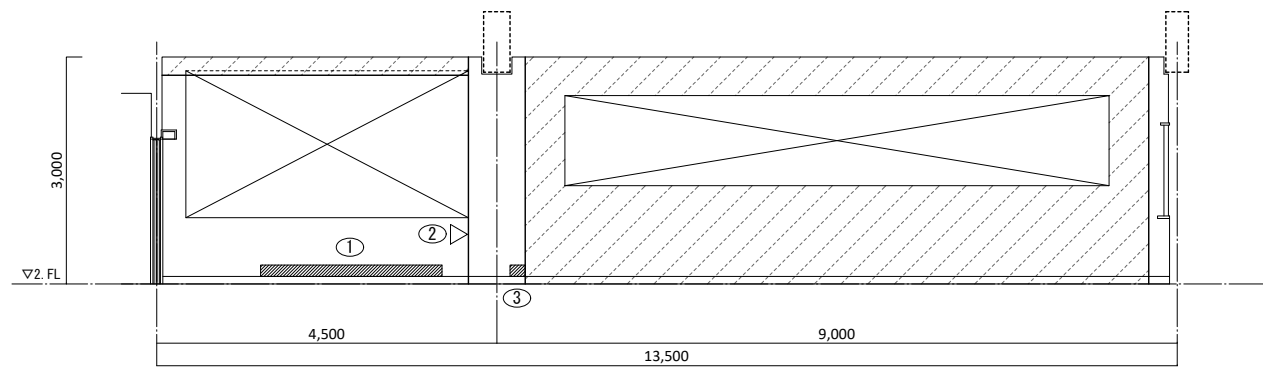
凡例			⑪ 視聴覚準備室		凡例			⑬ 配膳室		
略図	劣化項目	改修内容	調査数量	想定数量	略図	劣化項目	改修内容	調査数量	想定数量	
—	ひび割れ (0.2mm未満)	処置なし	0m	0m	—	シール劣化	シール更新	0箇所	0箇所	
—	ひび割れ (0.2mm以上~1.0mm未満)	自動式低圧球 樹脂注入工法 (0.2mm以下ひび割れ市)	0.69m	0.69m	☒	モルタル欠損	球 樹脂充填工法	0㎡	0㎡	
—	ひび割れ (1.0mm以上)	ウレタン材充填工法 (1mm以下ひび割れ市)	0m	0m	☒	モルタル	モルタル欠損	0㎡	0㎡	
☒	亀甲ひび割れ	自動式低圧球 樹脂注入工法 (0.2mm以下ひび割れ市)	0㎡	0㎡	☒	タイル	タイル欠損	0㎡	0㎡	
☒	モルタル浮き	オートレベリング 球 樹脂注入工法	2.90㎡	2.90㎡	☒	腐敗	鉄筋腐敗部	鉄筋腐敗除去の上 養生止め、砂目補修	0㎡	0㎡
☒	タイル浮き	オートレベリング 球 樹脂注入工法	0㎡	0㎡	☒	その他劣化・欠損 (※部内容記載)	その他劣化・欠損 (※部内容記載)	0箇所	0箇所	

※▲・△は上裏、側面、見下げの劣化を示す。

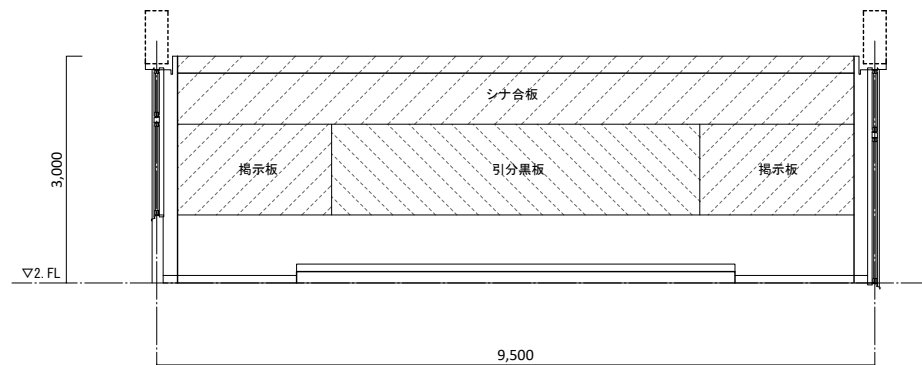




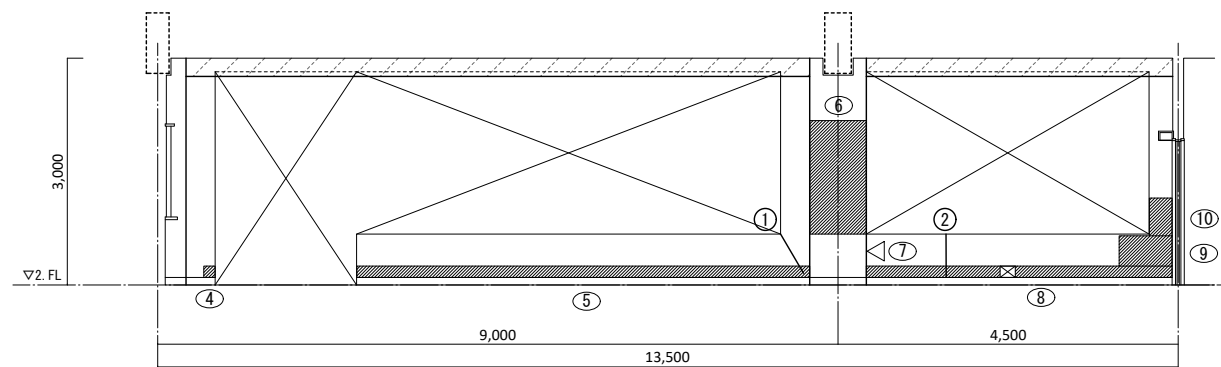
2階⑫ 天井伏図 1/50



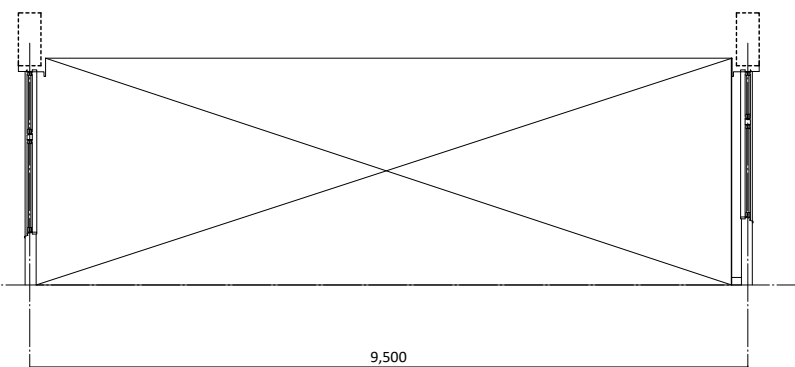
1



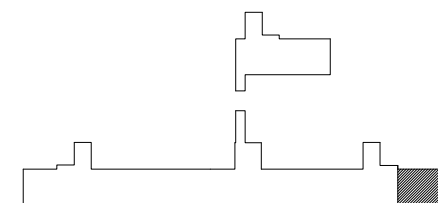
2



3



4



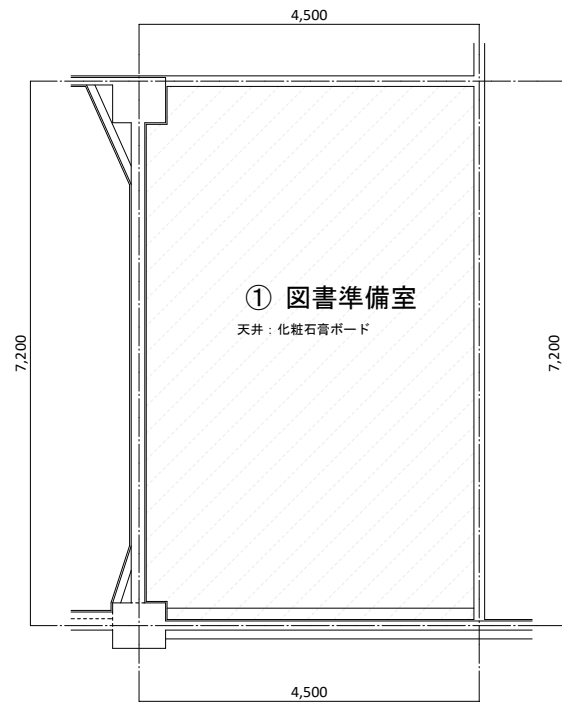
階

凡例  
打診不可及  
モルタル以外を示す。

凡例			⑫ 視聴覚室		凡例			⑫ 視聴覚室	
略図	劣化項目	改修内容	調査数量	想定数量	略図	劣化項目	改修内容	調査数量	想定数量
	ひび割れ (0.2mm未満)	処置なし	0m	0m		シール劣化	シール更新	0箇所	0箇所
	ひび割れ (0.2mm以上~1.0mm未満)	自動式低圧球 樹脂注入工法 (0.2mmひび割れ巾)	1.17m	1.17m		モルタル欠損	球 樹脂注入工法	0㎡	0㎡
	ひび割れ (1.0mm以上)	Ultra-Fix 特殊充填工法 (1mm未満ひび割れ巾)	0m	0m		タイル欠損	球部分張替え工法	0㎡	0㎡
	亀甲ひび割れ	自動式低圧球 樹脂注入工法 (0.2mmひび割れ巾)	0㎡	0㎡		鉄筋腐蝕部	鉄筋腐蝕部除去の上 錆止め、樹脂補修	0㎡	0㎡
	モルタル浮き	フネ-コンクリート 球 樹脂注入工法	3.81㎡	3.81㎡		その他劣化・欠損 (※部内容記載)		0箇所	0箇所
	タイル浮き	フネ-コンクリート 球 樹脂注入工法	0㎡	0㎡					

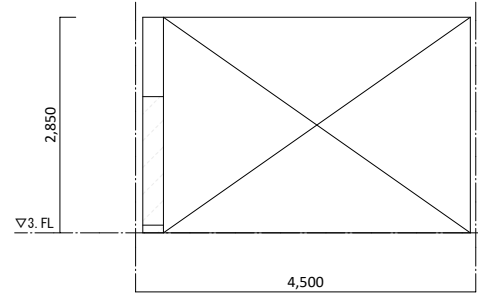
※▲・△は上裏、側面、見下げの劣化を示す。



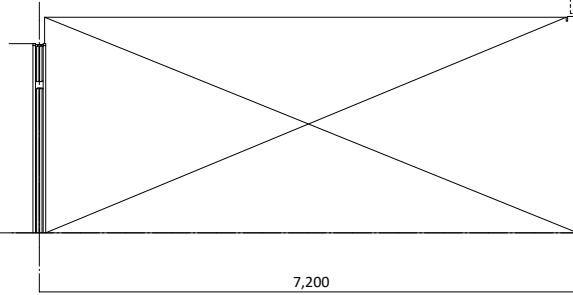


① 図書準備室  
天井：化粧石膏ボード

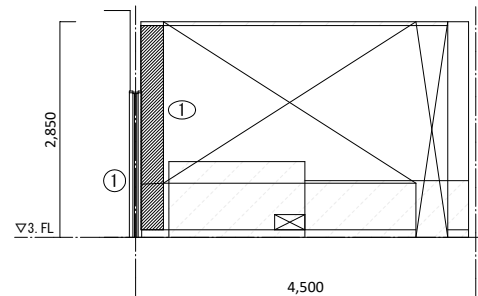
3階① 天井伏図 1/50



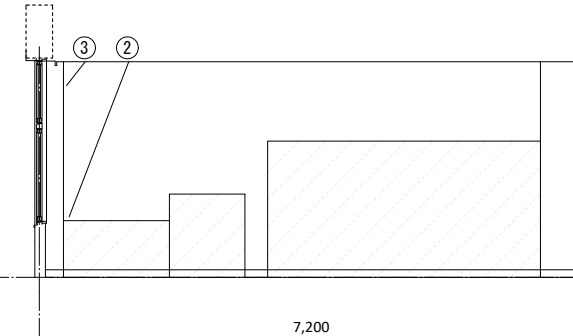
1



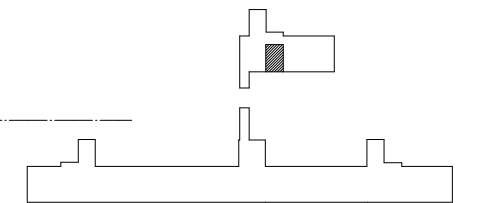
2



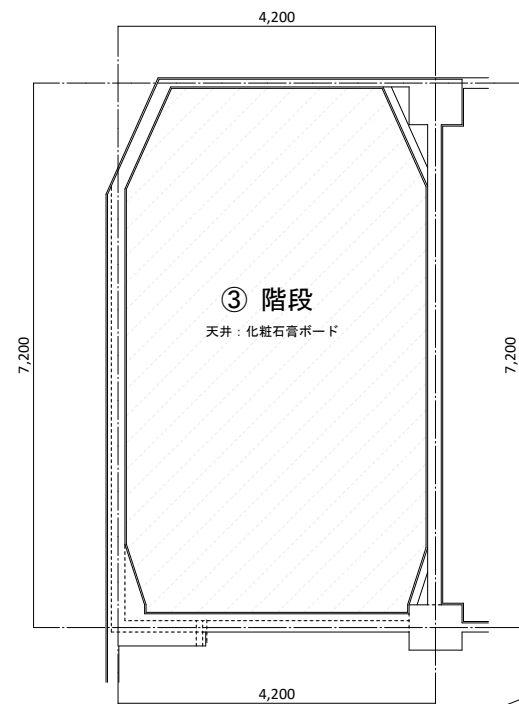
3



4

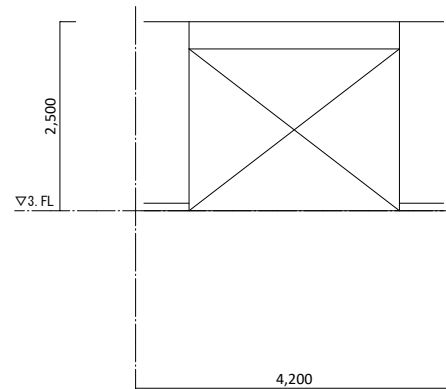


3階 キープラン

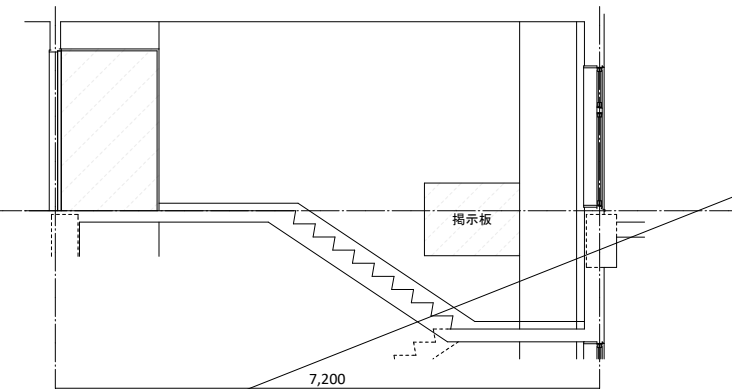


③ 階段  
天井：化粧石膏ボード

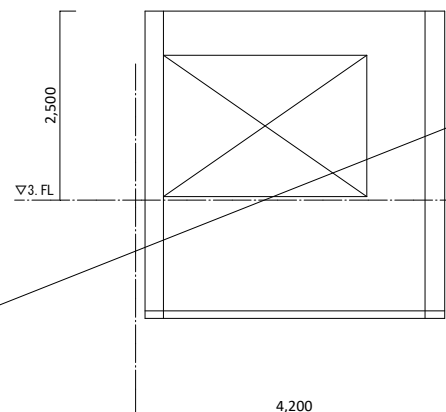
3階③ 天井伏図 1/50



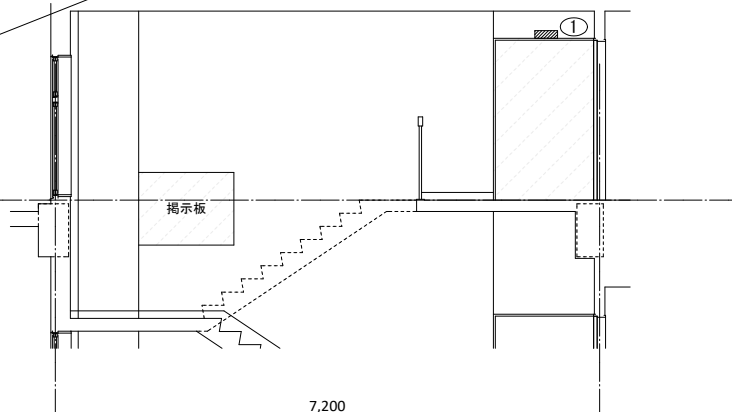
1



2



3

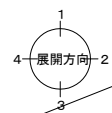


4

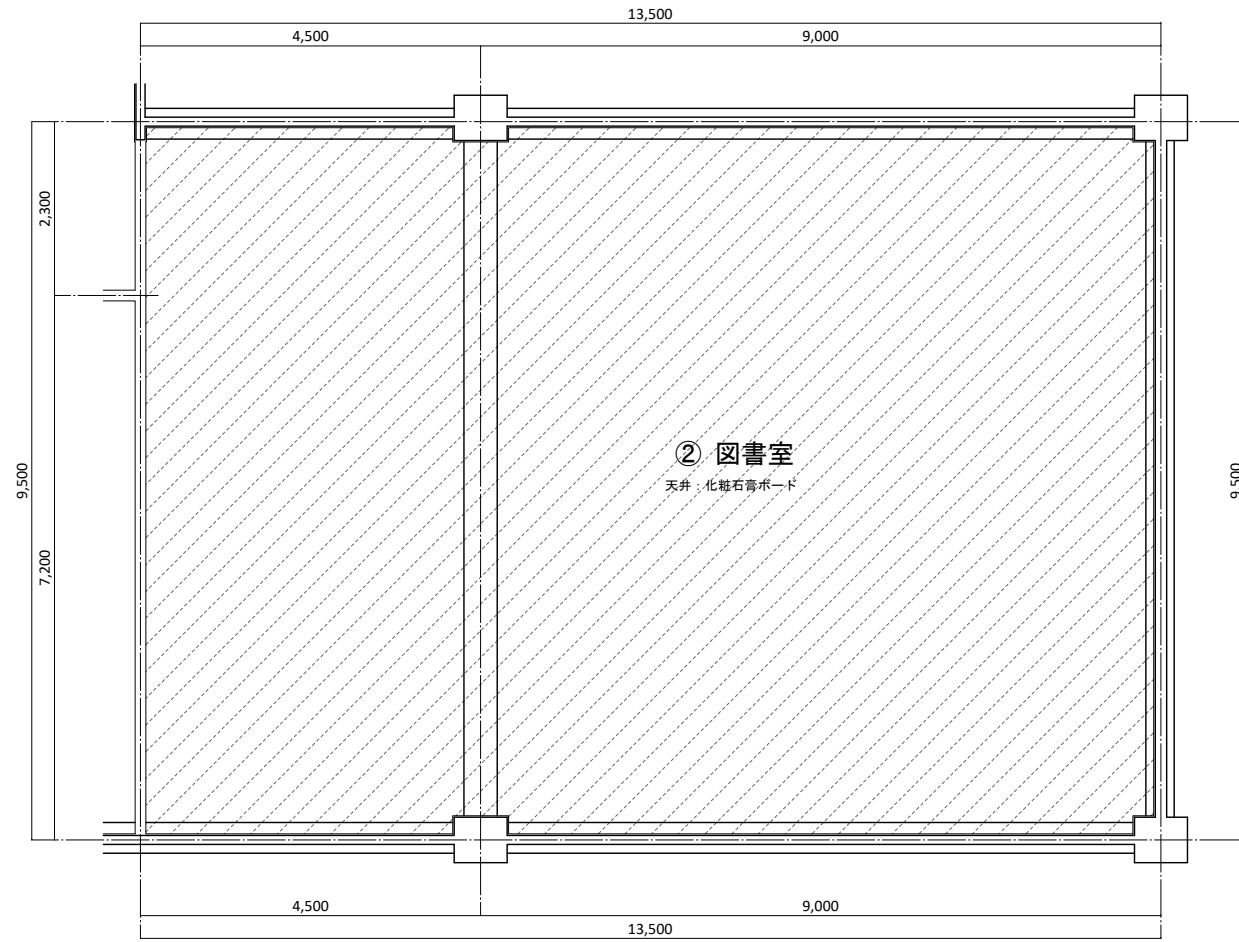
凡例  
打診不可及  
モルタル以外を示す。

凡例		① 図書準備室		③ 階段		凡例		① 図書準備室		③ 階段	
略図	劣化項目	調査数量	想定数量	調査数量	想定数量	略図	劣化項目	調査数量	想定数量	調査数量	想定数量
+	ひび割れ (0.2mm未満)	0m	0m	0m	0m	シール劣化	シール更新	0箇所	0箇所	0箇所	0箇所
—	ひび割れ (0.2mm以上~1.0mm未満)	2.90m	2.90m	0m	0m	モルタル欠損	モルタル充填	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>
—	ひび割れ (1.0mm以上)	0m	0m	0m	0m	タイル欠損	タイル部分張替	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>
■	亀甲ひび割れ	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	鉄筋露出	鉄筋露出除去の上 鋼止め、モルタル補修	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>
■	モルタル浮き	0.83m <sup>2</sup>	0.83m <sup>2</sup>	0.03m <sup>2</sup>	0.03m <sup>2</sup>	その他劣化・欠損 (※部内容記載)		0箇所	0箇所	0箇所	0箇所
■	タイル浮き	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>						

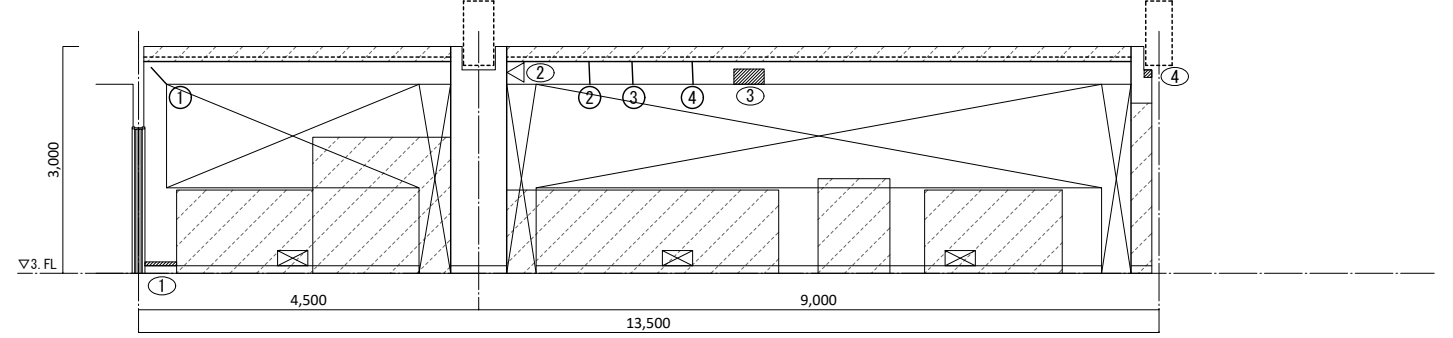
※▲・△は上裏、側面、見下げの劣化を示す。 ※※▲・△は上裏、側面、見下げの劣化を示す。



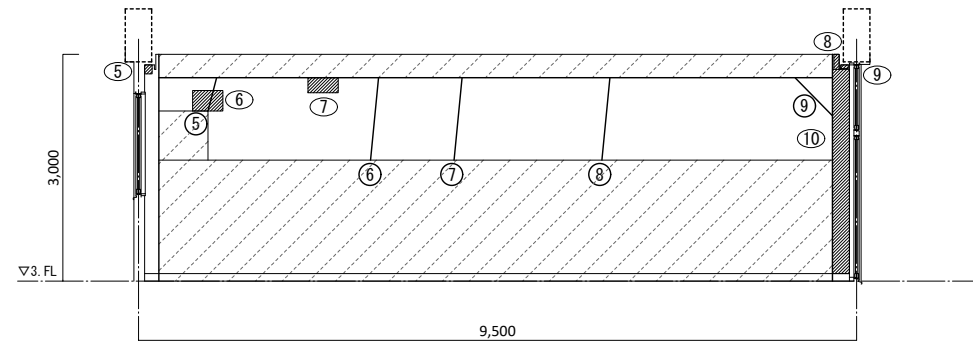




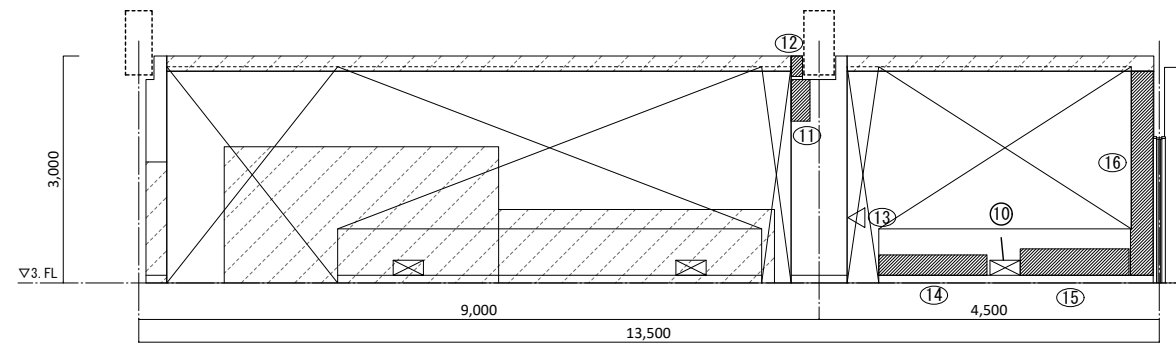
3階② 天井伏図 1/50



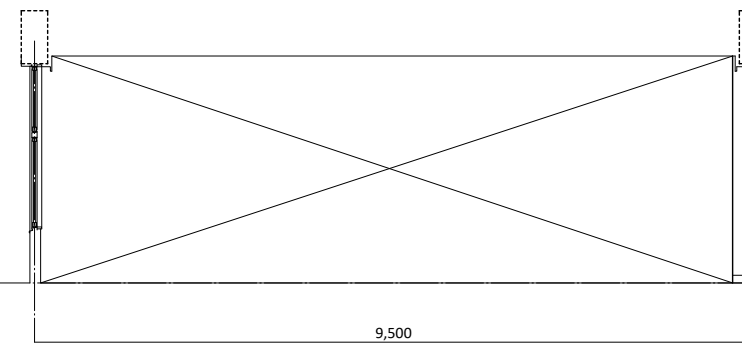
1



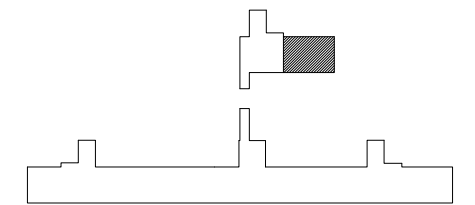
2



3



4



階



凡例  
打診不可及  
モルタル以外を示す。

凡例			② 図書室		凡例			② 図書室	
略図	劣化項目	改修内容	調査数量	想定数量	略図	劣化項目	改修内容	調査数量	想定数量
—	ひび割れ (0.2mm未満)	処置なし	0m	0m	□	シール劣化	シール更新	0箇所	0箇所
—	ひび割れ (0.2mm以上~1.0mm未満)	自動式低圧球 樹脂注入工法 (0.2mm以上~1.0mm未満)	6.15m	6.15m	⊠	モルタル欠損	球 樹脂注入工法	0㎡	0㎡
—	ひび割れ (1.0mm以上)	Uレジン特殊充填工法 (1mm以上)	0m	0m	⊠	タイル欠損	球 樹脂分張替え工法	0㎡	0㎡
■	亀甲ひび割れ	自動式低圧球 樹脂注入工法 (0.2mm以上)	0㎡	0㎡	⊠	鉄筋腐蝕部	鉄筋腐蝕部除去の上 錆止め、樹脂補修	0㎡	0㎡
■	モルタル浮き	アホ-コンク 球 樹脂注入工法	2.96㎡	2.96㎡	⊠	その他劣化・欠損 (※部内容記載)		0箇所	0箇所
■	タイル浮き	アホ-コンク 球 樹脂注入工法	0㎡	0㎡					

※▲・△は上裏、側面、見下げの劣化を示す。